高松市埋蔵文化財調査報告　第161集

都市計画道路木太鬼無線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第３冊

御殿貯水池南遺跡

2015年3月

高松市教育委員会

御殿貯水池南遺跡　全景（南東から）

御殿貯水池南遺跡　全景（北から）

御殿貯水池南遺跡出土弥生土器

御殿貯水池南遺跡出土中世土器

例　言

1. 本書は、都市計画道路木太鬼無線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3冊であり、御殿貯水池南遺跡の報告を収録した。

2. 発掘調査地及び調査期間、調査面積は下記のとおりである。
調 査 地：高松市鶴市町1397番地1
調査期間：平成20年度 第1次調査：平成20年10月2日～11月29日
平成23年度 第2次調査：平成23年6月22日～7月15日
平成24年度 第3次調査：平成25年1月28日～3月15日
平成25年度 第4次調査：平成26年1月15日～3月18日

調査面積：全調査区面積：約2980㎡
(第1次調査:約1180㎡、第2次調査:約600㎡、第3次調査:約600㎡、第4次調査:約600㎡)

3. 現地調査は高松市創造都市推進局文化財課（当時、高松市教育委員会文化財課）文化財専門員 小川賢、高上拓、同課埋蔵文化財担当職員 池見渉、同課非常勤嘱託職員 中西克也、新井場萌が担当した。

4. 整理作業は新井場が担当し、小川、高上、池見が補助した。

5. 本報告書の執筆・編集は新井場が担当し、小川が補助した。

6. 発掘調査から整理作業、報告書執筆を実施するにあたって、下記の関係諸機関に御協力を得た。記して厚く謝意を表する。（敬称略・順不同）
・香川県教育委員会
・香川県埋蔵文化財センター　信里芳紀
・大阪府文化財センター　三好孝一
・島本町教育委員会　木村友紀

7. 本報告書の高度値は海抜高を表し、方位は座標北を表す。

8. 以下の業務については、委託業務として行った。
基準点打設業務委託：株式会社 四航コンサルタント（平成20年度、24年度）
空中写真測量業務委託：株式会社 四航コンサルタント（平成24年度、25年度）
掘 削 業 務 委 託：東讃建設株式会社（平成24年度）
有限会社 サンモール（平成25年度）
遺物写真撮影業務委託：西大寺フォト

9. 発掘調査で得られたすべての資料は、高松市教育委員会で保管している。

目　次

第Ⅰ章　調査の経緯と経過・・・

第 19 図　SK20-18・22・65・79 平・断面図 (S=1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第 20 図　第 1 次調査区出土遺物 (S=1/4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第 21 図　SX20-4 平・断面図 (S=1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
第 22 図　第 2 次調査区出土遺物 (S=1/4・1/2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
第 23 図　第 2 次調査区遺構配置図 (S=1/120)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
第 24 図　SR23-1,SD23-3,SK23-23 平・断面図 (S=1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第 25 図　SD24-1 出土遺物 (S=1/4)・・32
第 26 図　第 3 次調査区遺構配置図 (1/150)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第 27 図　SD24-1・6・7・ベルト①②③④⑤平・断面図 (1/150・40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
第 28 図　SD24-2 平・断面図 (1/120・40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第 29 図　SD24-2 ①出土遺物 (S=1/4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第 30 図　SD24-2 ②出土遺物 (S=1/4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
第 31 図　SK24-1・6・14・21 平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
第 32 図　SP24-5・12・32・200・208・216・218・220・227・235・237・238 平・断面図 (1/40)・・・・・・・・43
第 33 図　第 3 次調査区出土遺物 (S=1/4・1/2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
第 34 図　SD25-6・7 平・断面図 (S=1/80・1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
第 35 図　第 4 次調査区遺構配置図 (1/150)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
第 36 図　SD25-2・3・4・5 平・断面図 (1/100・40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第 37 図　SK25-1・2・3・4・5・6・7・8・9 平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
第 38 図　SK25-10・11・12・13・14・15・16 平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
第 39 図　SX25-1 平・面図 (1/40)・・52
第 40 図　SX25-2-1・2-2 平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
第 41 図　弥生時代の遺構平面図 (1/600)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
第 42 図　中世の遺構平面図 (1/600)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
第 43 図　石清尾山魂赤色立体地図 (1/5000)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

挿　表　目　次

第 1 表　発掘調査行程表
第 2 表　整理作業行程表
第 3 表　主要遺跡名一覧
第 4 表　第1次調査遺構観察表①
第 5 表　第1次調査遺構観察表②
第 6 表　第1次調査遺構観察表③
第 7 表　第1次調査遺構観察表④
第 8 表　第2次調査遺構観察表
第 9 表　第3次調査遺構観察表①
第 10 表　第3次調査遺構観察表②
第 11 表　第3次調査遺構観察表③
第 12 表　第3次調査遺構観察表④
第 13 表　第3次調査遺構観察表⑤
第 14 表　第3次調査遺構観察表⑥
第 15 表　第4次調査遺構観察表
第 16 表　実測遺物観察表①
第 17 表　実測遺物観察表②
第 18 表　実測遺物観察表③
第 19 表　実測遺物観察表④
第 20 表　石器観察表

写　真　図　版　目　次

巻頭図版 1 御殿貯水池南遺跡 全景（南東から）
巻頭図版 2 御殿貯水池南遺跡 全景（北から）
巻頭図版 3 御殿貯水池南遺跡出土弥生土器
巻頭図版 4 御殿貯水池南遺跡出土中世土器

図版 1 第 1 次調査全景（北から），第 1 次調査全景（東から）
図版 2 第 1 次調査第 2 遺構面西側検出状況（東から）
第 1 次調査第 2 遺構面北側検出状況（南東から）
第 1 次調査第 2 遺構面中央検出状況（南から）
第 1 次調査第 2 遺構面東側検出状況（南から）
図版 3 第 1 次調査南側完堀（東から）
第 1 次調査北側完堀（東から）
第 1 次調査東側完堀（南から）
第 1 次調査東側完堀（南から）
図版 4 第 1 次調査東壁断面（南西から）
第 1 次調査南東壁断面西端から中央（北西から）
第 1 次調査南壁断面（東から）
第 1 次調査南東壁断面中央から東端（北西から）
図版 5 第 1 次調査 SK20-18 断面
第 1 次調査 SK20-22 断面
第 1 次調査 SK20-79 及び上位遺構断面
第 1 次調査 SK20-86 断面
第 1 次調査 SD20-3 完堀（北西から）
第 1 次調査 SD20-4 完堀（北から）
図版 6 第 1 次調査 SD20-6 完堀（北から）
第 1 次調査 SD20-8・9・10・13 完堀（北から）
第 1 次調査 SD20-11 完堀（北から）
第 1 次調査 SD20-14 完堀（北から）
図版 7 第 1 次調査 SD20-22 完堀（北から）
第 1 次調査 SD20-26 完堀（南から）
第 2 次調査全景（北東から）
図版 8 第 2 次調査完掘状況、南壁（北東から）
第 2 次調査 SK23-23 断面
第 2 次調査 SK23-24 完堀（北から）
第 2 次調査 SD23-3 完堀（北から）
第 2 次調査 SR23-1 断面
図版 9 第 3 次調査全景（北から）
図版 10 第 3 次調査検出状況（東から）
第 3 次調査検出状況（北から）
図版 11 第 3 次調査完堀状況（南東から）
第 3 次調査完掘状況（南西から）
図版 12 第 3 次調査 SD24-2 内完堀状況（上空から）
第 3 次調査 SP24-218 ～ 220 完堀
第 3 次調査 SP24-227 完掘
第 3 次調査 SD24-2 内ピット遺物出土状況
第 3 次調査 SP24-5 完堀
図版 13 第 4 次調査全景（北から）
図版 14 第 4 次調査検出状況（北西から）
第 4 次調査北壁土層（南東から）
図版 15 第 4 次調査 SX25-1 完掘（北から）
第 4 次調査 SD25-16・17 完掘（南東から）
図版 16 第 4 次調査 SK25-14 断面
第 4 次調査 SK25-15 断面
第 4 次調査 SK25-16 断面
第 4 次調査 SD25-2 完堀（東から）
第 4 次調査 SD25-2 完堀（南から）
第 4 次調査 SD25-6・7 断面（南から）
第 4 次調査 SX25-1 断面③（東から）
図版 17 SD20-7・8 出土遺物
第 2 次調査区出土遺物
第 1 次調査区出土遺物①
図版 18 出土石器
SD24-2 出土遺物①
第 1 次調査区出土遺物②
第 3 次調査区出土遺物
図版 19 SP24-235・238 出土遺物
SD24-1 出土遺物①
SD24-1 出土遺物②
SD24-2 出土遺物②
図版 20 SD24-2 出土遺物③

第Ⅰ章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

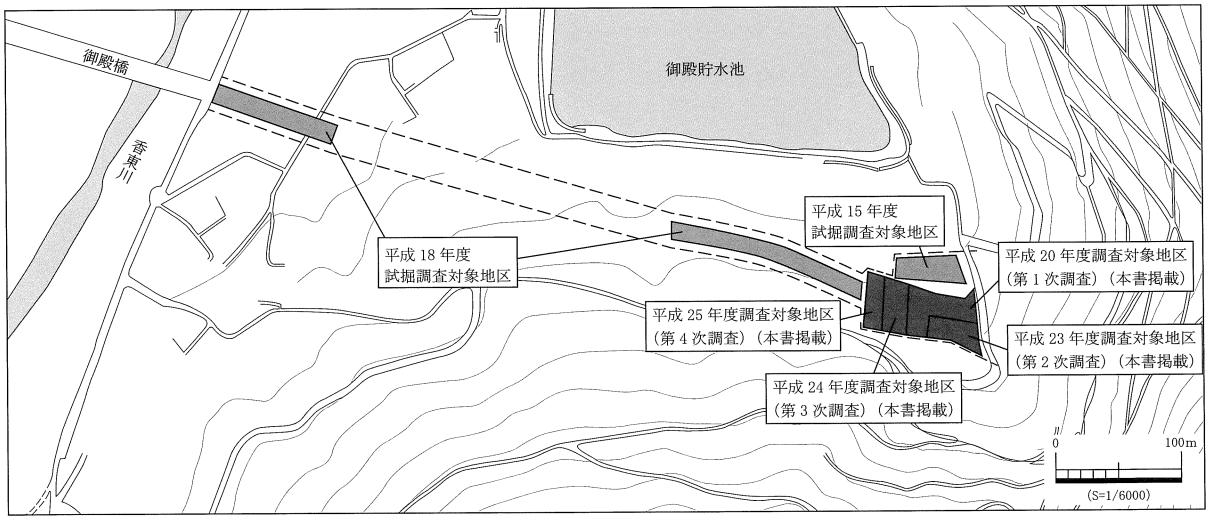
本発掘調査報告書は、高松市都市整備局道路整備課（以下、事業課という）が事業主体である都市計画道路木太鬼無線の整備事業を調査原因としたものである。

同路線は高松市木太町と鬼無町を繋ぐ市内を東西に貫く幹線道路であり、高松市教育委員会（以下、市教委という）では、事前に試掘調査を実施し整備範囲における埋蔵文化財の包蔵状況の把握に努めると共に、これまでに西ハゼ及び西春日工区で確認された埋蔵文化財包蔵地「西ハゼ土居遺跡」並びに「北山浦遺跡」についての発掘調査を実施、調査報告書の刊行により記録保存を行ってきたものである。

本書報告の「御殿貯水池南遺跡」については、上記路線の鶴市工区において平成 15 年 3 月、平成 20 年 11 月、平成 23 年 6 月に市教委が実施した試掘調査により埋蔵文化財の包蔵状況が確認された遺跡である。当該地は北に瀬戸内海を望む浄願寺山北斜面の山麓で、北東の峰山と浄願寺山を繋ぐ切通より派生する谷地形の縁辺に位置しており、やや緩斜面となる箇所で弥生時代及び中世の溝、柱穴、土坑類が認められることから、その該当範囲が集落に関連する遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地となった。

発掘調査については、事業課と市教委とで協議の上、工事計画に合わせて香川県教育委員会（以下、県教委という）へ文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号、以下、法という）第 94 条第 1 項による通知を平成 20 年 8 月、平成 23 年 6 月に提出し、県教委からはそれぞれに対し発掘調査を実施し保護措置を図る旨の通知があった。これを受けて、市教委は平成 20 年 10 月 2 日付け、平成 23 年 6 月 20 日付け、平成 25 年 1 月 28 日付け、平成 26 年 1 月 14 日付けで法 99 条第 1 項の規定による報告を県教委に提出し、4 ヶ年において記録保存を目的とした調査を実施したものである。

なお、本遺跡の西側での同路線整備範囲における埋蔵文化財の包蔵状況に関しては、平成 19 年 2 月に実施した試掘調査を除けば未確認であり、今後事業課と調査方法を調整しつつ遺跡の広がりや分布の有無を確認する予定である。



第 1 図　発掘調査対象地と周辺の調査履歴図

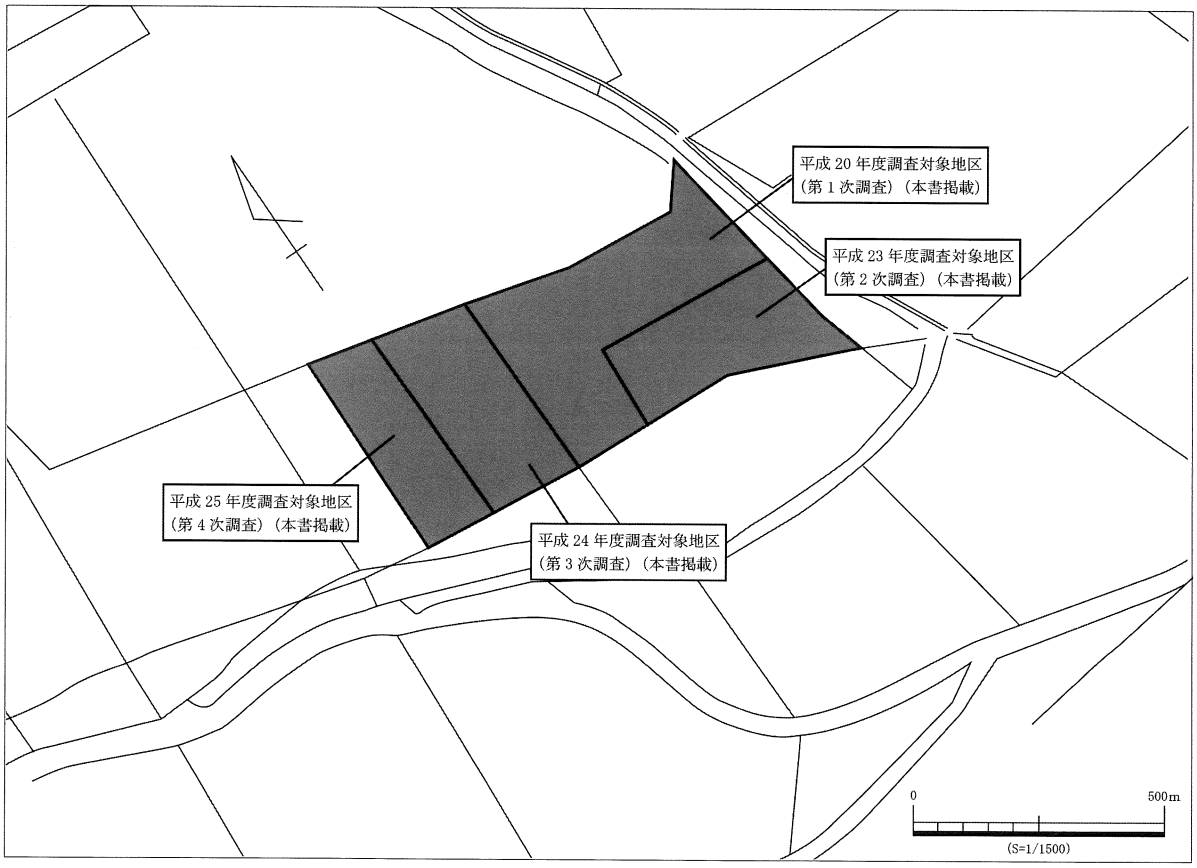
第 2 節　調査区の概要

本書では、平成 20 年度調査区を第 1 次調査区、平成 23 年度調査区を第 2 次調査区、平成 24 年度調査区を第 3 次調査区、平成 25 年度調査区を第 4 次調査区と呼称する。

第 1 次調査区は、平成 15 年度の試掘確認調査の結果、保護措置が必要な埋蔵文化財包蔵地とした範囲としてL字状を呈するが、第 1 次調査の結果、遺跡の範囲が南側に広がる可能性が高くなったことから平成 23 年度に試掘調査を実施し、第 2 次調査区として包蔵地の範囲を確定し、保護措置が必要な範囲を調査した。同様に、第 1 次調査の結果、西側にも遺跡の範囲が広がる事が明らかになったため、平成 20 年度に実施した試掘調査で、西側に広がる包蔵地の範囲を確定し、第 3 次及び第 4 次調査区を調査したものである。

調査対象範囲は東西方向の道路整備に伴うもので、原則路線の幅員となる。ただし、調査対象の北限及び南限については、道路幅員に加えて法面工事の範囲も調査対象としたことから、路線よりも幅広くなっている。　調査時の測量にあたっては、当初 1 次調査時に 2 点の基準点を打設したが、その後 3 次調査において 2 点増設し、実施した。

第 1 次調査は、調査対象面積約 1180 ㎡、調査期間は平成 20 年 10 月 2 日から 11 月 29 日、第 2 次調査は、調査対象面積約 600 ㎡、調査期間は平成 23 年 6 月 22 日から 7 月 15 日、第 3 次調査は、調査対象面積約 600 ㎡、調査期間は平成 25 年 1 月 28 日から 3 月 15 日、第 4 次調査は、調査対象面積約 600 ㎡、調査期間は平成 26 年 1 月 15 日から 3 月 18 日、調査行程、整理作業行程については、第 3 節を参照のこと。



第 2 図　発掘調査対象地

第３節　調査日誌

発掘作業及び整理作業の実施状況は下記のとおりである。

第１表　発掘作業行程表

平成20年度	10月																
担当：小川・高上	2	3	8	9	10	15	16	17	20	21	22	24	27	28	29	30	31
作業項目	木	金	水	木	金	水	木	金	月	火	水	金	月	火	水	木	金
事前準備等	■	■															
重機掘削			■	■	■	■	■	■	■	■							
掘削			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
精査／検出			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
写真撮影／図化										■	■	■	■	■	■	■	■
埋戻し／撤収																	

	11月																					
	4	5	6	7	10	11	12	13	14	15	17	18	19	20	21	22	23	25	26	27	28	29
	火	水	木	金	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	日	火	水	木	金	土
重機掘削					■	■	■		■		■	■	■	■	■							
掘削	■	■	■		■	■	■	■	■		■	■	■	■	■							
精査／検出																						
写真撮影／図化	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
埋戻し／撤収																		■	■	■	■	■

平成23年度	6月						7月							
担当：高上・池見	22	23	24	28	29	30	5	6	8	11	12	13	14	15
作業項目	水	木	金	火	水	木	火	水	金	月	火	水	木	金
事前準備等	■													
重機掘削		■	■											
掘削				■		■	■							
精査／検出			■	■	■				■	■				
写真撮影／図化					■			■				■	■	
埋戻し／撤収											■			■

平成24年度	1月				2月												3月					
担当：小川・中西	28	29	30	31	5	7	8	12	14	20	21	22	25	26	28	29	4	5	7	12	14	15
作業項目	月	火	水	木	火	木	金	火	木	水	木	金	月	火	木	金	月	火	木	火	木	金
事前準備等	■																					
重機掘削	■	■	■	■																		
掘削						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
精査／検出					■	■					■							■	■			
写真撮影／図化								■			■	■	■	■	■	■		■	■	■	■	■
埋戻し／撤収																						■

平成25年度	1月						2月										3月								
担当：小川・新井場	15	16	27	28	29	31	3	4	5	6	12	13	17	20	21	24	25	28	3	4	6	7	11	12	14	18
作業項目	水	木	月	火	水	金	月	火	水	木	水	木	月	木	金	月	火	金	月	火	木	金	火	水	金	火
事前準備等	■																									
重機掘削	■	■																								
掘削			■	■	■					■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■					
精査／検出						■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■	■	■	■				
写真撮影／図化				■	■						■	■	■	■	■	■	■		■	■		■	■	■	■	■
埋戻し／撤収																										■

第２表　整理作業行程表

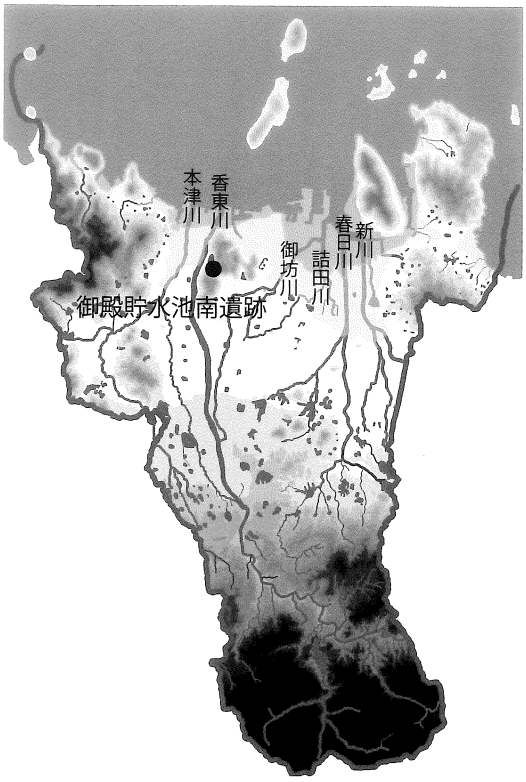
作業項目	H26 4月	H26 5月	H26 6月	H26 7月	H26 8月	H26 9月	H26 10月	H26 11月	H26 12月	H27 1月	H27 2月	H27 3月
洗浄	■											
接合・復元	■											
遺物実測	■	■	■			■	■	■				
遺物トレース									■			
遺構トレース	■	■					■	■	■			
図版レイアウト									■	■		
遺物写真撮影									■			
原稿執筆								■	■	■		
編集									■	■	■	
校正											■	■

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

高松平野は、瀬戸内海に北面する香川県のほぼ中央に位置し、北側を瀬戸内海に臨み、東側を屋島・立石山地、西側を五色台・堂山に囲まれた東西 20 ㎞、南北 16 ㎞の沖積平野である。平野部には四国山地を源とし瀬戸内海に注ぐ香東川・新川・春日川・詰田川・本津川等の河川が北流している。東西の山々は、花崗岩の頂部に浸食を受けにくい安山岩が被さりメサ地形を形成しており、屋島や五色台はその代表的な山である。

御殿貯水池南遺跡は、浄願寺山北側の谷状地形の麓付近に位置し、東側には峰山、香東川と本津川を挟んだ西側には、勝賀山、五色台がある。遺跡の立地は、北方向の緩斜面で、東側は谷部に向かい傾斜を呈している。遺跡を含め周辺はみかん畑となっている。また、谷の麓には貯水池がある。



第３図　高松平野

第２節 歴史的環境

旧石器時代では、中間・西井坪遺跡、中森遺跡、香西南西打遺跡において、AT 火山灰上層でナイフ形石器などの後期に属する石器群が出土している。

縄文時代になると、周辺一帯は、起伏のある地形を呈していたと考えられている。

大池遺跡、香西南西打遺跡において、草創期と考えられている有舌尖頭器が出土しており、西打遺跡では、早期の押型文期異形局部磨製石器や前期末の土器群と石匙など多数の石器が出土している。後期から晩期においては、鬼無藤井遺跡、上天神遺跡、浴・長池遺跡、林・坊城遺跡などから、扇状地帯の自然堤防の微高地上や旧河道から遺物が出土しており、林・坊城遺跡では、晩期後葉段階の諸手鍬や手鋤も出土している。

弥生時代になると、前期では、汲仏遺跡（前期後半）、鬼無藤井遺跡（前期後半初頭）において、二重環濠が検出されている。また、浴・長池Ⅱ遺跡（前期初頭・末）において大規模な不定形小区画水田が確認されており、弥生時代においても、集落の形成が確認できる。前期の遺跡としては、他に林・坊城遺跡、天満ノ宮西遺跡、凹原遺跡、空港跡地遺跡、多肥遺跡群などがある。

中期には、多肥松林遺跡、浴・長池遺跡、日暮・松林遺跡、多肥宮尻遺跡などで、竪穴住居や掘立柱建物跡が、それぞれ微高地上に検出されている。北山浦遺跡では中期中葉を中心に旧河道に挟まれた微高地上に集落が密集している。高所においては、峰山頂部から緩斜面地に位置する摺鉢谷遺跡などがあり、中期後半以降の土器、石鏃、石庖丁、磨製石斧等が出土している。讃岐地域において、中期から後期には、丘陵頂部や斜面部、谷部に居住域が集中しており、久米山山頂部の久米

第４図　御殿貯水池南遺跡と周辺の主要遺跡分布図

1 御殿貯水池南遺跡　2 植松城跡(1)　3 植松城跡(2)　4 芝山城跡　5 勝賀廃寺　6 平賀下遺跡　7 藤尾城跡　8 作山城跡　9 香西南西打遺跡(1)　10 勝賀城跡　11 沢池西古墳　12 かしが谷 1 ～ 4 号墳　13 佐料遺跡　14 山の神 1 号墳　15 虎池西古墳　16 善師垣古墳群　17 木舟池下古墳　18 今岡古墳　19 香西五郎塚　20 佐料城跡　21 植松吉兵衛時蔭碑　22 香西南西打遺跡(2)　23 西打遺跡　24 鬼無藤井遺跡　25 鬼無大塚古墳　26 佐藤城跡　27 神高池西古墳　28 こめ塚古墳　29 神高池北西古墳　30 鬼無小学校東塚　31（塚）32 山口遺跡　33 あきやま塚　34 筑城城跡　35 中所地神社前塚　36 王墓古墳　37 相作牛塚古墳　38（塚）39 飯田町東青木遺跡　40 青木 1 ～ 14 号塚　41 飯田西 1 ～ 4・7 ～ 37 号塚　42 桃太郎神社西遺跡　43 袋山古墳跡　44 鬼塚古墳　45 御厩 1 ～ 5 号塚　46 半田池南小塚　47 御厩大塚　48 大将軍 1・2 号塚　49 紙漉 1 ～ 26 号塚　50 中森 1・2 号塚　51 中森遺跡　52 八幡遺跡　53 檀紙南部 1 ～ 5・7・12 号塚　54 成合 1 号塚　55 御厩南部 1 ～ 10 号塚　56 御厩天神社古墳　57 御厩池古墳　58 下ノ山遺跡　59 摺鉢谷遺跡　60 相作馬塚　61 北山浦遺跡　62 南山浦遺跡　63 片山池窯跡群　64 坂田廃寺・坂田廃寺下層遺跡　65 坂田廃寺南窯跡　66 小山窯跡　67 神高池南西 1 号墳　68 神高池南西 2 号墳　69 小比賀家住宅

【石清尾山塊所在の古墳】

70 西方寺 4 号墳　71 西方寺 5 号墳　72 西方寺 6 号墳　73 木里神社 2 号墳　74 木里神社 3 号墳　75 木里神社 5 号墳　76 木里神社 4 号墳　77 木里神社 6 号墳　78 木里神社 1 号墳　79 石清尾山 13 号墳　80 石清尾山 17 号墳　81 石清尾山 18 号墳　82 石清尾山 12 号墳　83 石清尾山 11 号墳　84 石清尾山 19 号墳　85 石清尾山 20 号墳　86 石清尾山 10 号墳　87 石清尾山 14 号墳　88 石清尾山 15 号墳　89 石清尾山 23 号墳　90 石清尾山 9 号墳　91 摺鉢谷西斜面 5 号墳　92 石清尾山 7 号墳　93 石清尾山 8 号墳　94 摺鉢谷西斜面 4 号墳　95 石清尾山 21 号墳　96 石清尾山 6 号墳　97 摺鉢谷西斜面 3 号墳　98 摺鉢谷西斜面 1 号墳　99 石清尾山 3 号墳　100 摺鉢谷西斜面 2 号墳　101 石清尾山 5 号墳　102 石清尾山 4 号墳　103 石清尾山 2 号墳　104 摺鉢谷東斜面 1 号墳　105 摺鉢谷東斜面 2 号墳　106 摺鉢谷東斜面 3 号墳　107 摺鉢谷東斜面 5 号墳　108 摺鉢谷東斜面 7 号墳　109 摺鉢谷東斜面 10 号墳　110 摺鉢谷東斜面 12 号墳　111 摺鉢谷東斜面 13 号墳　112 摺鉢谷東斜面 15 号墳　113 石清尾山 1 号墳　114 石清尾山 22 号墳　115 猫塚古墳　116 北山浦 3 号墳　117 北山浦 1 号墳　118 北山浦 2 号墳　119 御殿神社 2 号墳　120 御殿神社 3 号墳　121 御殿神社 1 号墳　122 御殿神社 4 号墳　123 御殿貯水池 4 号墳　124 御殿貯水池 1 号墳　125 御殿貯水池 2 号墳　126 御殿貯水池 3 号墳　127 野山 10 号墳　128 野山 11 号墳　129 野山 3 号墳　130 野山 9 号墳　131 野山 1 号墳　132 野山 5 号墳　133 野山 6 号墳　134 野山 2 号墳　135 野山 8 号墳　136 野山 4 号墳　137 野山 7 号墳 138 浄願寺山古墳群　139 南山浦 12 号墳　140 南山浦 13 号墳　141 南山浦 11 号墳　142 南山浦 6 号墳　143 南山浦 9 号墳　144 南山浦 10 号墳　145 南山浦 8 号墳　146 南山浦 4 号墳　147 南山浦 5 号墳　148 南山浦 7 号墳　149 南山浦 3 号墳　150 南山浦 2 号墳　151 南山浦 1 号墳　152 浄願寺山 56 号墳　153 浄願寺山 57 号墳　154 小山山頂古墳　155 片山池 1 号墳　156 片山池 2 号墳　157 片山池 3 号墳　158 がめ塚古墳　159 がめ塚 2 号墳　160 がめ塚 3 号墳　161 がめ塚 4 号墳

第 3 表　主要遺跡名一覧

池南遺跡、坂出市烏帽子山頂の烏帽子山遺跡などが例である。また、浄願寺山東麓の緩斜面に位置する南山浦古墳群では、中期後半に属する遺物が出土しており、集落が存在した可能性が高い。御殿貯水池南遺跡においても、浄願寺山北麓の緩斜面と谷部に位置し、溝から弥生土器が多く出土しており、これら集落の特徴に類似する点があるといえる。このような居住域の特徴は、高地性集落に類似しているが、これらの集落が形成された社会的背景などは検討を要する。

後期には、山上部での集落数は減少し、平地部において集落数が増加している。香東川の中・上流においても集落が形成されている。また、掘立柱建物跡の比率が高く、後期前半の集落である上天神遺跡では、軟式韓式系土器などの他地域系土器が出土し、遠隔地との結びつきがうかがえる。また、周辺は香東川下流域産土器の下川津 B 類土器を集中的に制作する地域である。太田下・須川遺跡では、長期間改修を繰り返し機能していたとされる灌漑用大型水路が検出されている。また、上天神遺跡、居石遺跡（古墳時代初頭）において出土した木樋が水路網の整備例とされており、前期から集落単位での灌漑においての繋がりが存在したものと考えられている。後期集落は高松東道路や空港跡地周辺ではほぼ全域で確認されており、平野北端部の砂堆上（高松城下層）においては後期の建物群が検出され、海岸線の近隣でも同期の遺物が出土していることから、居住域が海岸線付近まで拡大したと推定される。

古墳時代になると、石清尾山塊に多くの古墳群が確認されており、前期初頭の鶴尾神社 4 号墳を初めとして、前期に属する積石塚の双方中円墳（猫塚古墳、鏡塚古墳）が 2 基、前方後円墳 9 基、円墳 10 基以上、方墳 1 基が尾根上に築造されている。高松平野における有力首長層の墓域である

と考えられている。高松平野東縁部に位置する久米池周辺の丘陵においても、高松市茶臼山古墳などが築造されている。

中期には、勝賀山麓に位置し平野西部最大規模の前方後円墳である今岡古墳が築造され、前方部から陶棺が出土している。また平野南端では県内有数の前方後円墳である三谷石舟古墳が築造され、割竹形石棺の縄掛け突起が確認されている。

後期になると、石清尾山古墳群、西方寺古墳群、木里神社古墳群、御殿貯水池古墳群、峰山墓地内古墳群、摺鉢谷西／東斜面古墳群、奥ノ池古墳群、北山浦古墳群などの山麓各所において横穴式石室を主体部とする群集墳築造が盛んになる。さらに浄願寺山古墳群、片山池古墳群、南山浦古墳群、野山古墳群を始め多くの古墳が築造される。浄願寺山古墳群は山頂付近に位置し、50 基余りの横穴式石室からなる群集墳が確認されている。香東川と本津川に挟まれた地域では、相作牛塚などの古墳が確認されている。また、群集墳に近接して古代寺院が造営されている場合があり、浄願寺山東麓においても坂田廃寺が造営されている。また、居住地においては、弥生時代後期に引き続き、平野中央部の空港跡地周辺などで確認されているが、古墳周辺では、前期に西打遺跡が確認されているのみである。

古代になると、沖積平野を中心に香川郡で条里が施行され、条里坪界線の径溝網が広く確認されている。正箱・薬王寺遺跡から総数 50 棟以上の掘立柱建物跡が検出されており、一部は条里地割と符合するものがある。これらの遺構は平安～鎌倉時代の遺物を含む例が多いが、奈良時代の遺物が出土する遺跡もあり、条里地割の存続期間が伺える。

また、仏教の伝来による、勝賀廃寺、坂田廃寺などの寺院造営の跡がみられる。坂田廃寺が所在した石清尾山の南東麓に広がる一体は『和名抄』にみる香川郡坂田郷（現：西春日町など）に比定されている。調査では基壇跡や白鳥廃寺と同型式である円形柱座の礎石列などが確認されている。さらに坂出市開法寺跡、同市鴨廃寺と同一文様系譜の軒丸瓦や、寒風窯系の鴟尾や金銅誕生釈迦仏立像（県指定有形文化財）が出土しており、讃岐の古代寺院における重要な遺跡である。土地区画においては、六ツ目山北麓から平野東端では白山南麓を見通して設定した南海道が東西に伸びており、高松平野の条里地割はこれを基線とした阡陌線によって区画されたものであり、これらは中世以降にも農地の径溝網や、城館や遺跡の周囲を画する区画施設として利用されている。

また、香西西打遺跡においては、粘土採掘抗が多数検出され、土器作りの可能性が指摘されており、また 7 世紀後半～ 8 世紀前半とみられる遺物も出土している。

中世になると、広範囲で条里開発が進み、鬼無藤井遺跡、香西南西打遺跡などで条里地割に符合した溝が確認され、西打遺跡では区画溝に囲まれた屋敷跡が確認されている。

本津川流域は在地領主である香西氏の本拠地である。『南海治乱記』によると、勝賀山山頂部に勝賀城が築造されている。勝賀山の東側の尾根先端部では、居館に佐料城、支城に藤尾城、作山城、筑城城、本津城などが築造されている。

近世になると、豊臣秀吉による四国征討により香西氏は滅亡し、以後は生駒親正が支配をし、天正 16 年（1588）に高松城の築城を開始している。その後、松平家が藩主となった。西打遺跡、香西南西打遺跡等では幕末の陶磁器類が出土している。また、平野西部では寛永 14 年（1637）に現在の香川町大野付近で東西二股に分かれていた香東川の流路が、西嶋八兵衛により石清尾山西側の現在の流路に一本化され、古代からある本津川と併走する形となった。

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　調査方法

発掘調査は、表土から遺構面までを重機による掘削、その後人力により遺構面を精査し、遺構掘削を行った。この掘削作業については、平成20年度及び23年度は直営によって、24年度及び25年度は委託業務によって実施した。

記録に際しては、第１次調査は２点（第２次調査は第１次調査の基準点を使用）、第３次調査は２点（第４次調査は第２次調査の基準点を使用）の基準点打設を業務委託し、基準点をもとに図化を行った。第１次調査及び第２次調査は、平面図、断面図、土層図ともに手測りにより1/20縮尺で作図し、第３次調査及び第４次調査は、空中写真測量を業務委託し、遺跡の平面測量を1/20縮尺で行い、またこれに合わせて遺跡の全景写真撮影を行っている。断面図、土層図については、手測りにより1/20縮尺で作図している。写真撮影は、35㎜のフィルムカメラを主に用い、モノクロ・カラーリバーサルフィルムで記録し、また補助的にデジタルカメラを用いて記録をおこなった。

第２節　基本層序（第６・７・８図参照）

調査地は標高37ｍ～49ｍの丘陵上にあり、東西方向に見ると西側の尾根から東側の埋没谷へと下る地形で、傾斜角度は4°前後を測る。南北方向では北の山裾に向い下っており、傾斜角度は調査地の東側で約11°、西側では傾斜約15°を測る地形となっている。

ここでは、第１次調査区の東南壁・西壁（第６図）、第２次調査区の南壁（第７図）、第４次調査区の南壁・北壁（第８図）の土層断面から基本層序の記述を行うこととする。

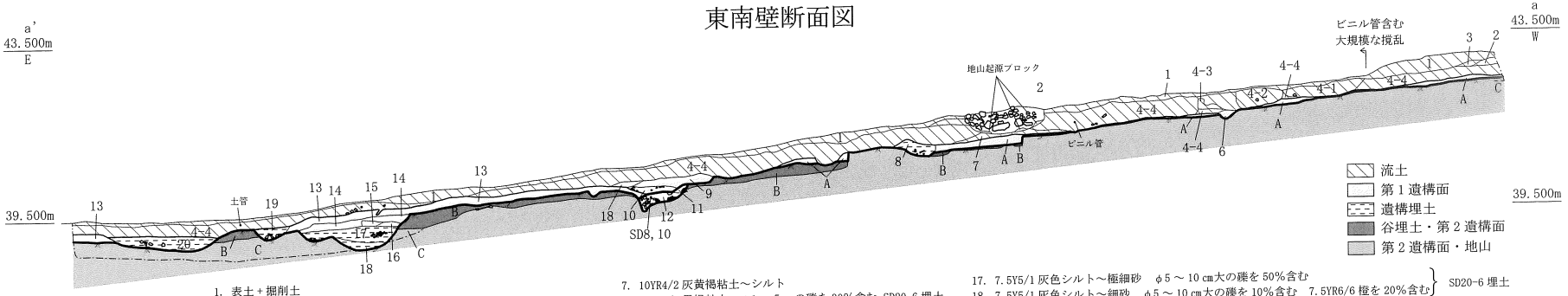
調査地全体としては、表土は果樹園の耕作土であるが、地形に沿って谷部や山裾に向かう流土層が認められる。また、頻繁に地山をブロック状に含むことが観察されたことから、開墾に至って遺構面が削平された状況がうかがえ、とくに１次調査区南西部に大きな削平痕が認められる。尾根上となる西側では、表土の直下で地山層が確認できる。地山層としたものは、黄色系の粘土層及び花崗岩起源の風化礫層である。

遺構埋土は、黒色系と灰色系の土に大別でき、この違いから２時期の遺構があることが想定できる。黒色系埋土の遺構としては、第１次調査区のSD20-8～11、13、27、SD20-6、第３次調査区のSD24-1があげられる。灰色系の遺構として、SD24-2が上げられる。また、土坑やピット群は灰色系のものが多い。東側の埋没谷では、谷の埋土の最上位に礫を多く含んだ黒色粘土層が堆積しており、これを基盤に灰色埋土の遺構が開削されており、その下面で黒色系埋土の遺構を検出している。よって埋没谷においては、２面で遺構が確認された。これより下位の埋没谷の堆積については、砂質の堆積層に大ぶりな礫が増え、安山岩系の拳～人頭大の転石を多く含むようになる。

谷部の埋没時期については、後述する谷の西肩に開削されたSD20-8～11・13・27及び谷の埋土から出土した遺物から判断して、弥生時代前期以降に埋没がはじまり、弥生時代後期にはほぼ埋没が完了していたと考えられる。

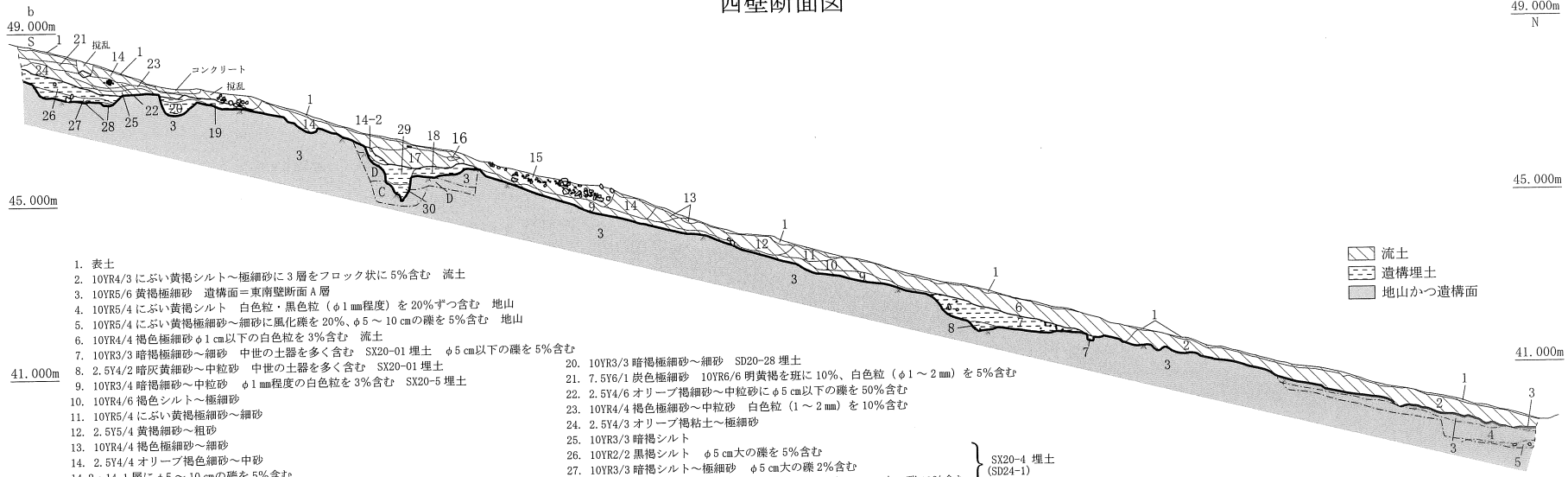
第５図　全調査区遺構配置図（S=1/250）

東南壁断面図



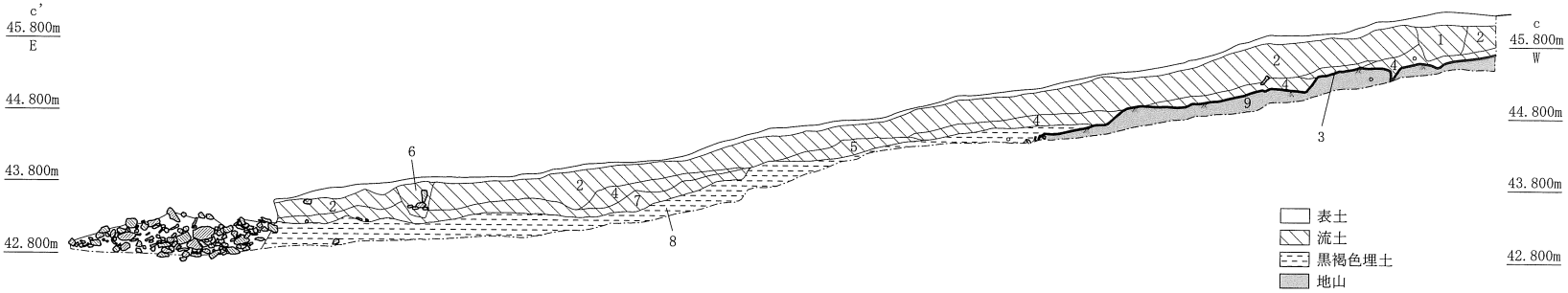
1. 表土＋掘削土
2. 10YR4/4 褐色粘土～細砂
3. 10YR4/3 にぶい黄褐シルト
4-1. 10YR5/4 にぶい黄褐シルト　地山ブロックを 20%含む
4-2. 10YR5/4 にぶい黄褐粘土
4-3. 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘土　ブロック状の撹乱
4-4. 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト～細砂　部分的に炭や地山ブロックを含む
6. 10YR4/3 にぶい黄褐シルト～細砂　炭を少量含む
7. 10YR4/2 灰黄褐粘土～シルト
8. 10YR3/2 黒褐粘土　φ1～5 cmの礫を 30%含む SD20-6 埋土
9. 10YR2/2 黒褐粘土　φ1～5 cmの礫を 5%含む
10. 5Y3/1 オリーブ黒粘土～粗砂　φ1～5 cm大の礫を 30%含む
11. 2.5Y4/1 黄灰粘土～粗砂　φ10～20 cm大の礫を 10%含む
12. 5Y4/1 灰粘土　底付近でφ5～20 cm大の礫を 50%含む
13. 7.5Y4/1 灰色粘土
14. 5Y3/1 オリーブ黒粘土～細砂　10YR6/6 明黄褐を斑に 20%含む
15. 7.5Y4/1 灰色粘土　7.5YR7/6 橙を 30%含む
16. 5Y4/1 灰色シルト～極細砂　礫含まず　7.5YR6/6 橙を 20%含む
17. 7.5Y5/1 灰色シルト～極細砂　φ5～10 cm大の礫を 50%含む
18. 7.5Y5/1 灰色シルト～細砂　φ5～10 cm大の礫を 10%含む　7.5YR6/6 橙を 20%含む　} SD20-6 埋土
19. 5Y7/1 オリーブ黒粘土～極細砂　地山ブロックを 10%含む
20. 7.5Y4/2 灰色粘土～シルト　地山ブロックを 20%含む
A. 10YR6/6 明黄褐粘土 遺構面
B. 7.5Y5/2 灰オリーブ粘土～細砂　10YR6/6 明黄褐と 7.5YR4/2 灰褐を斑に 20%ずつ含む
φ5～10 cmの礫を多く含む、特に東側では 30%以上含む
礫が多く含む汚れた土
C. 10YR5/4 にぶい黄褐シルト　白色粒・黒色粒（φ1 mm程度）を 20%ずつ含む 地山

西壁断面図

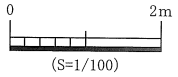


1. 表土
2. 10YR4/3 にぶい黄褐シルト～極細砂に 3 層をフロック状に 5%含む　流土
3. 10YR5/6 黄褐極細砂　遺構面＝東南壁断面 A 層
4. 10YR5/4 にぶい黄褐シルト　白色粒・黒色粒（φ1 mm程度）を 20%ずつ含む　地山
5. 10YR5/4 にぶい黄褐極細砂～細砂に風化礫を 20%、φ5～10 cmの礫を 5%含む　地山
6. 10YR4/4 褐色極細砂 φ1 cm以下の白色粒を 3%含む　流土
7. 10YR3/3 暗褐極細砂～細砂　中世の土器を多く含む　SX20-01 埋土　φ5 cm以下の礫を 5%含む
8. 2.5Y4/2 暗灰黄細砂～中粒砂　中世の土器を多く含む　SX20-01 埋土
9. 10YR3/4 暗褐細砂～中粒砂　φ1 mm程度の白色粒を 3%含む　SX20-5 埋土
10. 10YR4/6 褐色シルト～極細砂
11. 10YR5/4 にぶい黄褐極細砂～細砂
12. 2.5Y5/4 黄褐細砂～粗砂
13. 10YR4/4 褐色極細砂～細砂
14. 2.5Y4/4 オリーブ褐色細砂～中砂
14-2・14-1 層にφ5～10 cmの礫を 5%含む
15. 撹乱 2.5Y4/3 オリーブ褐極細砂にφ5～20 cmの礫 50%含む
16. 10YR4/4 褐色極細砂～細砂
17. 10YR4/6 褐色極細砂～細砂に地山ブロックを 5%、3 層をブロック状に 5%含むSX20-3 埋土
18. 10YR5/4 にぶい黄褐極細砂～細砂
19. 10YR5/3 にぶい黄褐極細砂　SD20-28 埋土
20. 10YR3/3 暗褐極細砂～細砂　SD20-28 埋土
21. 7.5Y6/1 炭色極細砂　10YR6/6 明黄褐を斑に 10%、白色粒（φ1～2 mm）を 5%含む
22. 2.5Y4/6 オリーブ褐細砂～中粒砂にφ5 cm以下の礫を 50%含む
23. 10YR4/4 褐色極細砂～中粒砂　白色粒（1～2 mm）を 10%含む
24. 2.5Y4/3 オリーブ褐粘土～極細砂
25. 10YR3/3 暗褐シルト
26. 10YR2/2 黒褐シルト　φ5 cm大の礫を 5%含む　} SX20-4 埋土 (SD24-1)
27. 10YR3/3 暗褐シルト～極細砂　φ5 cm大の礫 2%含む
28. 10YR3/3 暗褐シルト～粗砂　φ1 cm以下の礫 20%、φ10 cm大の礫 10%含む
29. 2.5Y6/8 明黄褐粘土～粗砂　地山起源の遺構埋土　} SX20-3 埋土
30. 2.5GY6/1 オリーブ灰粘土～極細砂　遺構埋土　切り株とビニール袋を含む
C. 10YR5/4 にぶい黄褐シルト　白色粒・黒色粒（φ1 mm程度）を 20%ずつ含む
D. 10YR6/6 明黄褐シルト～極細砂　10YR3/2 黒褐が縞状に 20%混じる

第６図　第１次調査区東南壁・西壁土層図（S=1/150）

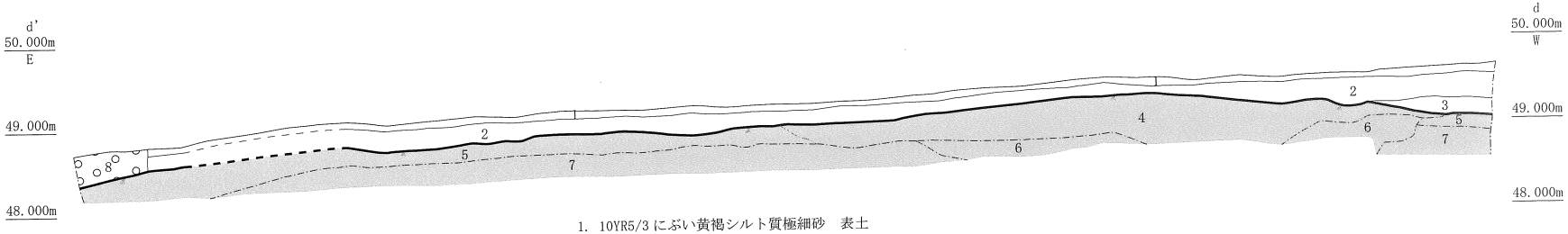


1. 10YR4/4 褐色粘土　粘性強　しまりやや強　細砂含む
2. 2.5Y5/4 黄褐粘土　粘性強　しまりやや強　細砂含む
3. 2.5Y4/4 オリーブ褐粘土　粘性強　しまりやや強　細砂含む
4. 2.5Y5/3 黄褐色粘土　粘性強　しまりやや強　細砂、φ20 cm大の角礫を 1%含む
5. 10YR4/2 にぶい黄褐色シルト　粘性弱　しまり強　細砂含む
6. 10YR2/2 黒褐色粘土　粘性弱　しまり弱　φ10 ～ 20 cm大の角礫を 5%含む
7. 10YR2/1 黒粘土　粘性強　しまり強　φ5 ～ 10 cm大の角礫を 1%含む
8. 10YR2/2 黒褐色粘土　粘性強　しまり弱 SR23-1 埋土
9. 地山



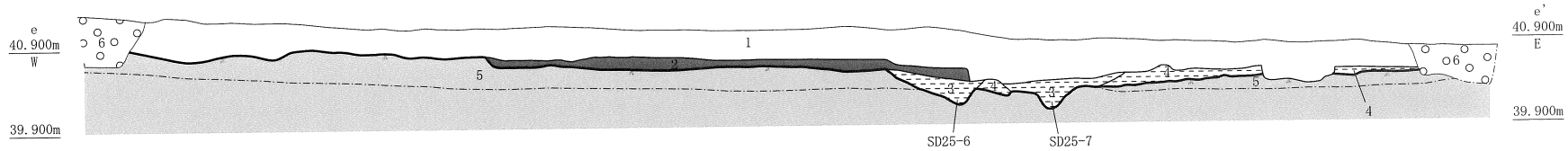
第７図　第２次調査区南壁土層図（S=1/100）

南壁土層図



1. 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂　表土
2. 10YR4/3 にぶい黄褐シルト質　小石混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐シルト質　10YR6/6 明黄褐　地山混じる
4. 10YR6/6 明黄褐砂礫混じりシルト質粘土　拳大～人頭大の角礫を多く含む
5. 510YR6/6 明黄褐シルト質粘土極細砂
6. 2.5GY6/1 オリーブ灰砂質土　角礫が混じる　グライ化
7. N5/0 灰　10YR6/2 灰黄褐　N2/0 黒　10YR6/6 明黄褐混じる花崗岩
8. 撹乱

北壁土層図



1. 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂
2. 10YR5/1 褐灰シルト質極細砂
3. 10YR3/1 黒褐シルト質粘土　10YR6/6 明黄褐の風化小礫、小石混じる
4. 10YR4/1 黒褐シルト質細砂　10YR6/6 明黄褐の風化礫混じる
5. 10YR6/6 明黄褐シルト質極細砂　風化礫混じる
6. 撹乱

表土
包含層
遺構埋土
撹乱
地山

0　2m
(S=1/80)

第８図　第４次調査区南壁・北壁土層図（S=1/80）

第３節　第１次調査区の遺構・遺物

概要（第９・10・11図）

埋没谷の西端に沿って弥生時代後期所産のSD20-7・8・9・10・11・13・27、SD20-6の他、SD20-22・23の北西方向に伸びる溝跡を確認した。埋没谷の中では弥生時代に所属するSD20-25・26及び谷埋没土に開削され中世所産と見られるSD20-3・4・5を確認した。西側に広がる微高地上では、土坑類や柱穴が比較的まとまって確認されているが、出土遺物については極少量である。埋土等の特徴によりこれら土坑類については中世を主体とする所属時期が考えられる。またSX20-1・4については西側となる第３次調査区へと展開する弥生時代後期及び中世の遺構も確認している。

出土遺物（第９図）は、谷の埋土中から出土した弥生土器である。１は突帯文系の甕で口縁部及び貼付突帯に刻目を施している。やや厚めの器壁に直立気味の器形で、色調は赤褐色に発色し、胎土はやや粗く、砂粒及び金雲母を含む。時期は前期前葉である。2は、広口壺で水平に開く口縁を持ち、口縁端部には強いヨコナデを施す。色調はにぶい赤褐色で、胎土は金雲母を含んでいる。時期は弥生時代後期である。このことから、谷部を基盤層とした遺構は、弥生時代後期以降に開削されていることがうかがわれる。

第９図　第１次調査区埋没谷出土遺物（S=1/4）

DSD20-26（第12図）

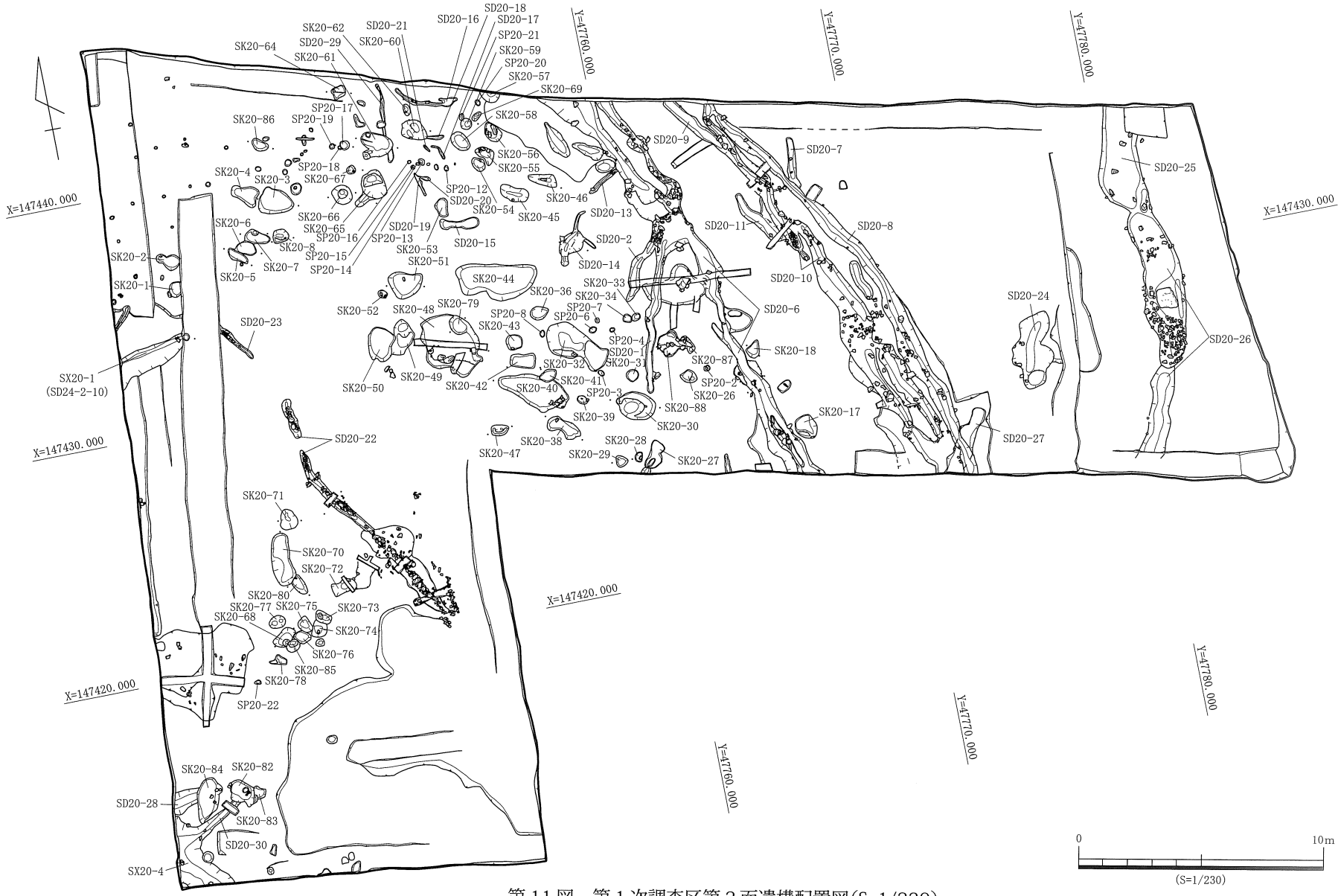
調査区東端部、標高36.2～38.8ｍで検出した北方向に走る溝である。幅約1.2ｍ、やや蛇行気味に南北方向に伸びて約10ｍに亘って検出した。深度は20～40㎝を測り、基底部は凹凸が多いものの比高差2.3ｍの傾斜で北方向に下っている。断面は台形を呈し、埋土は褐色形の粘質土、風化礫を多量に含む。また、部分的に人頭大～ひと抱え大の安山岩系の転石が認められる。出土遺物がなく詳細な時期は不明であるが、遺構は谷の最終埋没層よりも下位で認められ後述のSD20-8～11、13、27、SD20-6同様に第２面に相当する遺構であることから、弥生時代後期以前の所産と考えられる。

SD20-7・8・9・10・11・13・27（第13・14図）

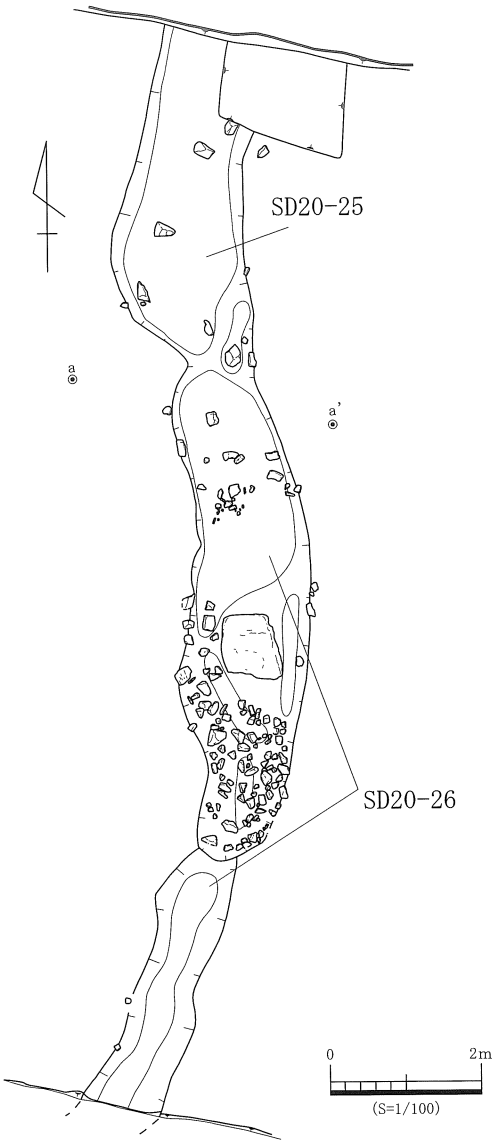
調査区東寄り中央、標高37.8～40.03ｍで検出した。埋没谷西肩で北西方向に走る溝で、複数に分岐をするが、幹線になる幅80㎝程度の規模の溝が２条併走する。深度は南側で最深50㎝を測るが、北側では削平のためか20㎝程度になる。基底部は延長18.4ｍに対し比高差2.2ｍの傾斜で北方向に下っている。残りの良い南側では２段掘りになっており、下部は断面Ｕ字形を呈している。埋土は黒及び暗褐色を呈するシルト層で、砂粒や拳大の礫を多く含む。また、北東の谷部へ下るような小規模な支流が認められる。遺構の所属時期については、一部中期に遡るものもあるが、壺、甕の口縁端部及び高杯脚端部の形状や、甕底部は平底を呈しており、甕体部で肩の張る形状などから、弥生時代後期後半と考えられる。所属時期は以下の遺物から弥生時代後期後半と考えられる。

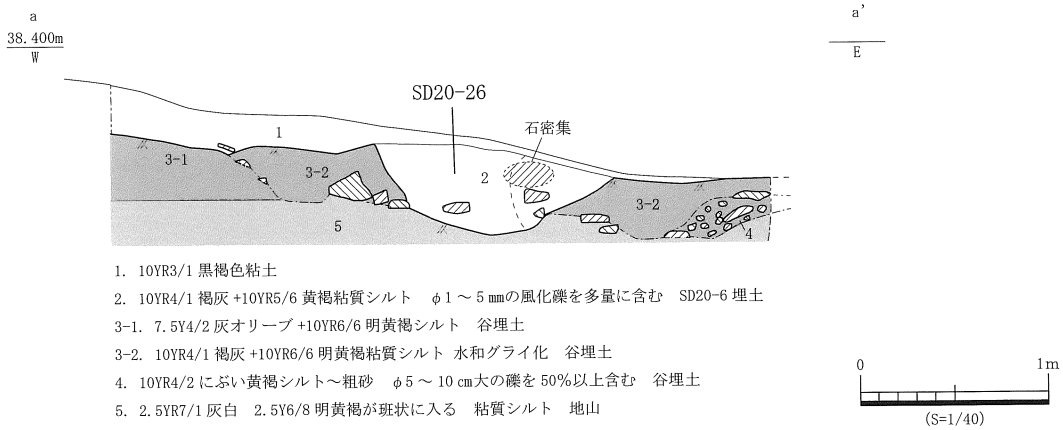
出土遺物については３・４・６～13はSD20-8、５はSD20-7から出土した（第13図）。３は弥生土器壺で器壁は薄く水平方向に開く口縁を持つ。明赤褐色に発色し胎土には砂粒及び雲母を含む。４は弥

第 10 図　第 1 次調査区第 1 面遺構配置図（S=1/230）　※網掛けは埋没谷の範囲を示す。



第11図　第1次調査区第2面遺構配置図(S=1/230)

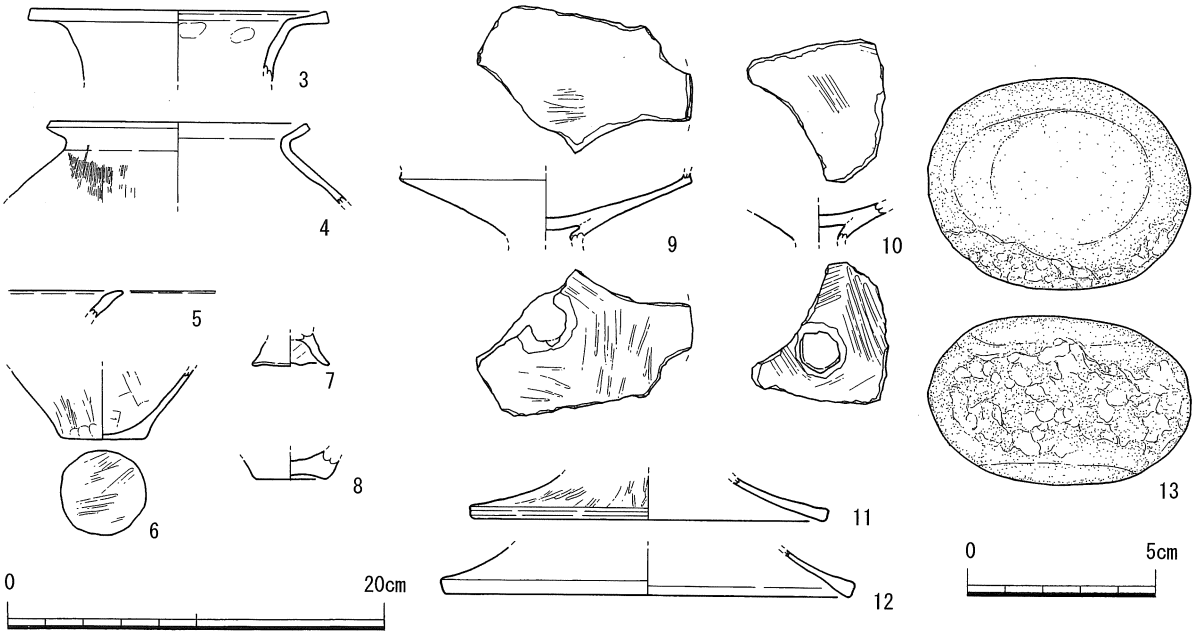




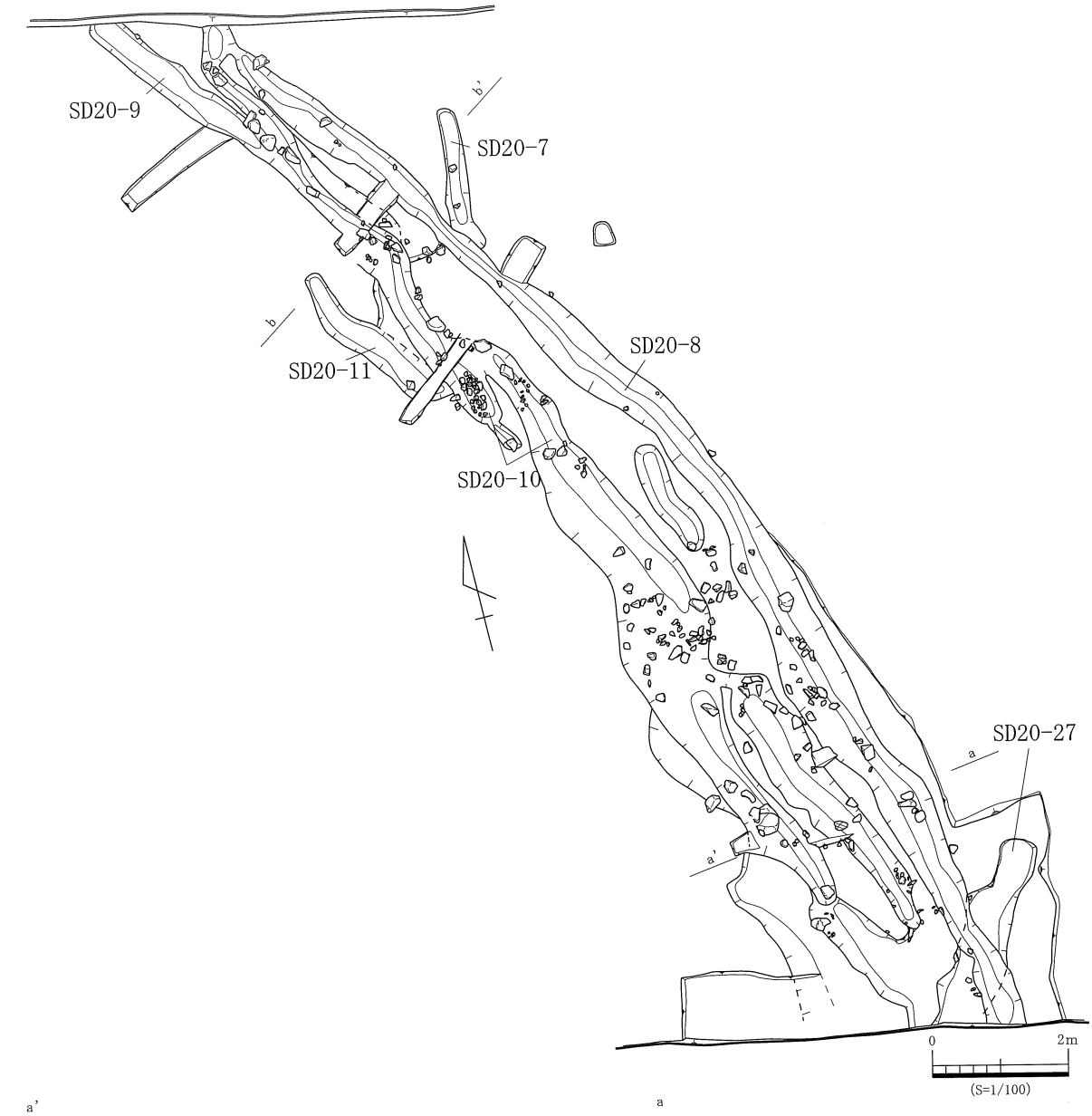
1. 10YR3/1 黒褐色粘土
2. 10YR4/1 褐灰 +10YR5/6 黄褐粘質シルト　φ1～5 ㎜の風化礫を多量に含む　SD20-6 埋土
3-1. 7.5Y4/2 灰オリーブ +10YR6/6 明黄褐シルト　谷埋土
3-2. 10YR4/1 褐灰 +10YR6/6 明黄褐粘質シルト 水和グライ化　谷埋土
4. 10YR4/2 にぶい黄褐シルト～粗砂　φ5～10 ㎝大の礫を 50%以上含む　谷埋土
5. 2.5YR7/1 灰白　2.5Y6/8 明黄褐が斑状に入る　粘質シルト　地山

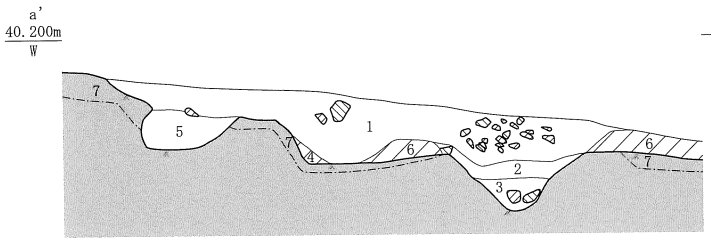
第 12 図　SD20-26 平・断面図（S=1/100・40）

生土器甕で、口縁から体部にかけてくの字に曲がる。口縁部はヨコナデで整形し、体部外面にハケ調整、内面はナデ調整である。にぶい褐色を呈し胎土には砂粒、雲母、赤褐色粒を含む。5は弥生土器高杯の口縁部、口縁端部が小さく外反している。色調は明褐色に発色し、胎土に砂粒を含む。6は弥生土器甕の底部で、調整は外面はヘラミガキ、内面はヘラ削りである。外面が媒化している。胎土には砂粒及び赤色粒を含む。7は弥生土器脚部、手捻り成形のもので製塩土器と考えられる。胎土は砂粒をほとんど含まない精良なものが用いられ、色調は明赤褐色に発色し、よく焼き締まる。8は弥生土器甕の底部である。底部が上げ底になっている。内外面は磨滅し、色調は赤褐色に発色し、胎土には砂粒及び雲母、角閃石を含む。弥生時代中期以前の所産と考えられる。9は弥生土器高杯の杯部で、外面に分割ヘラミガキ、磨滅が大きいが内面にヘラミガキ痕が残る。円盤充填より杯部を成形している。胎土は明赤褐色を発色し砂粒及び雲母を含む。10は弥生土器高杯の杯部で、外面のヘラミガキは4分割で施されており、内面は磨滅が大きいがヘラミガキ痕を残す。円盤充填による成形である。胎土は明褐色を呈し砂粒及び角閃石を含む。11は弥生土器高杯の脚部で、外面に縦方向のヘラミガキと端部に強いヨコナデを施し、内面は磨滅している。胎土は明赤褐色を発色し砂粒及び金雲母を含む。12は弥生土器高杯の脚部で、内外面ともナデ調整で、色調は明赤褐色に発色し、胎土に砂粒及び雲母を含む。13は砂岩製の叩き石、片側面に弱い窪みが連続する。拳大よりやや小ぶりな扁平の楕円形を呈し、重量は234gである。投弾の可能性を残す。

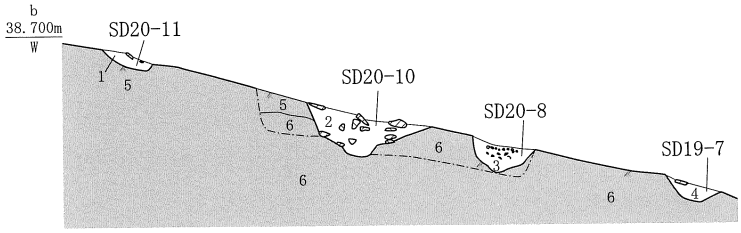


第13図　SD20-7・8出土遺物（S=1/4、1/2）





1. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト　礫を多量に含む
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土～細砂
3. 2.5Y4/1 黄灰色シルト～粗砂
   φ5～10 cm大の礫を底付近に20%含む
4. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト　粘土質
5. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト　φ1～3 cm大の礫を多量に含む
6. 10YR4/1 褐灰色粘土　谷埋土、遺構基盤層
7. 10YR5/8 黄褐色粘土　地山、遺構基盤層



1. 10YR3/3 暗褐シルト　φ5～10 cm大の礫を50%以上含む
2. 10YR3/3 暗褐シルト　φ5～10 cm大の礫を50%以上含む
3. 10YR3/4 暗褐シルト　上面にφ5 cm以下の礫を20%含む
4. 10YR3/4 暗褐シルト　上面にφ5 cm以下の礫を20%含む
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト～極細砂　地山
6. 10YR6/6 明黄褐色シルト～極細砂　黄色系地山

0　1m
(S=1/40)

第14図　SD20-7・8・10・11・27 平・断面図（S=1/100・40）

SD20-6(第15・20図)

調査区中央、標高38.14～40.92mで検出した北西方向に走る溝である。幅約0.4～1.2mの規模を持ち、基底部は延長3.5mに対し比高差2.5mの傾斜で下る。調査地の中央でSD20-1・2と合流し溜まり状となる。その後、北方向では2条に分岐している。深度は30cm程で断面はU字形であるが、微高地側の西壁が段掘りとなる箇所がある。埋土は黒褐色シルト層で拳大の礫及び弥生土器を多く含む。所属時期は以下の遺物において、甕口縁端部、やや張る肩部、底部が平底を呈すること、高杯の長くない口縁部から弥生時代後期中葉と考える。

出土遺物については(第20図)、14は弥生土器甕、器壁は薄くクの字に曲がる口縁部で、やや肩が張り丸みを帯びた体部を持つ。短めの口縁部で端部はやや強いヨコナデが施される。体部内外面とも磨滅しているが、外面にハケ調整が残る。色調は褐色に発色し、胎土には砂粒及び雲母、角閃石を含む。15は弥生土器甕底部である。平底を呈し薄い器壁のもので、内面にヘラ削りが施されている。色調は明赤褐色を呈し胎土には砂粒及び雲母が認められる。16は弥生土器高杯、ほぼ水平方向に広がり外反する口縁部を持つ。杯部内外面ともに分割ヘラミガキが施されている。色調は明赤褐色に発色し、精良な胎土が用いられているが砂粒及び雲母、角閃石が認められる。

SD20-22、23(第16図)

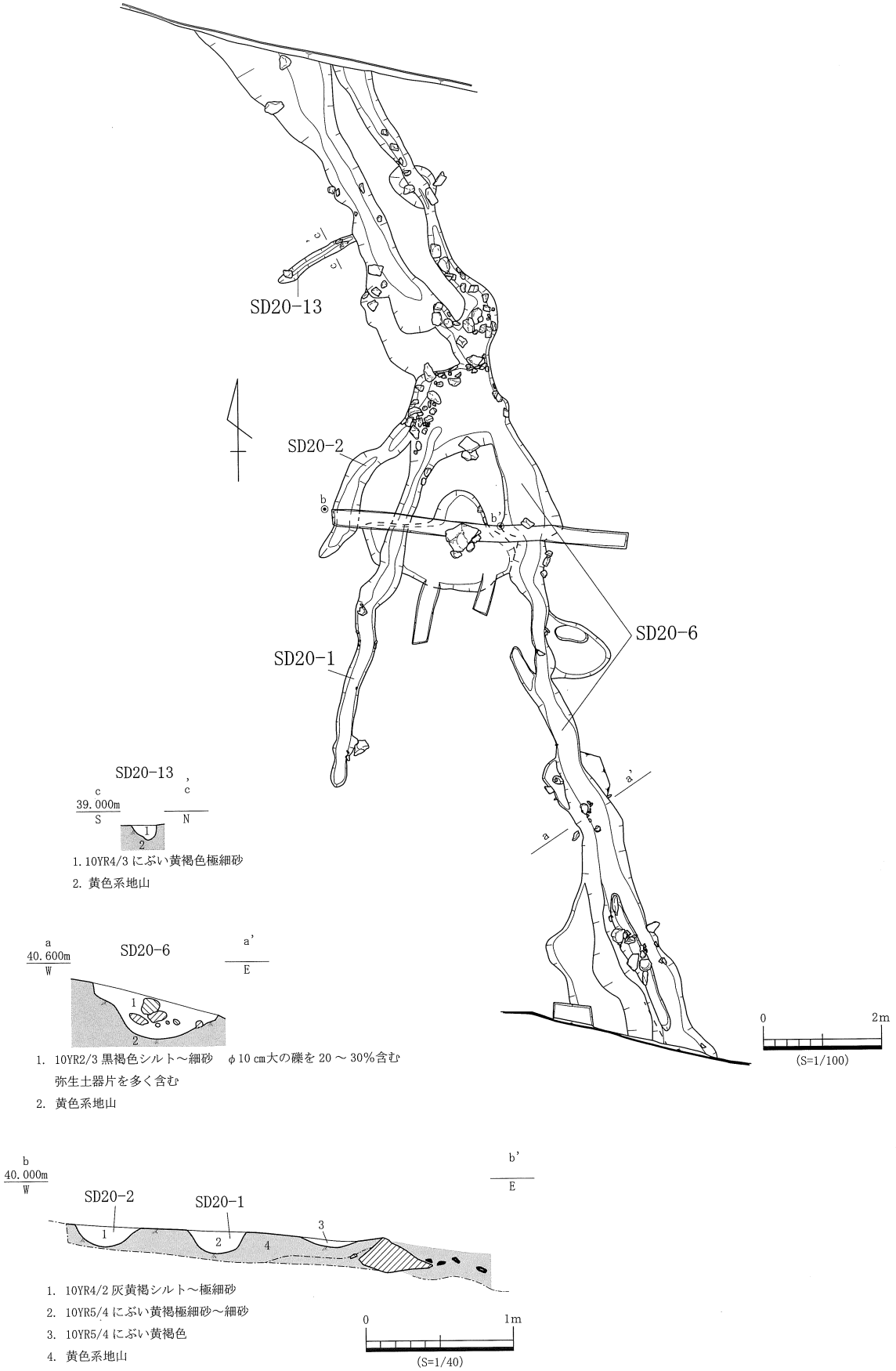
調査区西側南中央、標高41.76～44.31mで断続的に検出した北西方向に伸びる溝である。幅が20～40cmの規模を持ち、基底部は延長1.8mに対し比高差1.76mの傾斜で下る。SD20-22-1、SD20-22-2、SD22-23とは約2m程の間隔を空け、また北西方向に向きを変えている。いずれも拳大から人頭大の角礫を多く含み、転石との判別が難しいが排水機能を持たせた石組遺構の可能性が考えられる。断面はU字形を呈し、深度は20cm程度である。出土遺物はない。所属時期については中世の所産とみられるテラス状遺構(SD24-2)を迂回するようにも見えることから、その観点が考えられるが、SD20-6、8、10、SD24-1と同じ方向を示すことから弥生時代後期後半のものと想定しておきたい。

SD20-3(第17図)

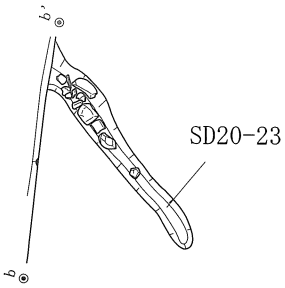
調査区東側、谷埋土の上面より切り込む第1遺構面に属する溝で、標高38.94～39.18mで検出した。北西方向に伸び、検出長8.7m、幅70cm、深度10cm程度である。断面は船底形を呈し、暗褐色シルト層の単層で充填する。基底部は比高差6cm程度で連続しないことから第2遺構面のSD20-6、SD20-8などと性格が異なる。出土遺物には弥生土器片及び土師質土器片がある。所属時期については、検出面及び出土遺物から中世を中心としたものと考えられる。

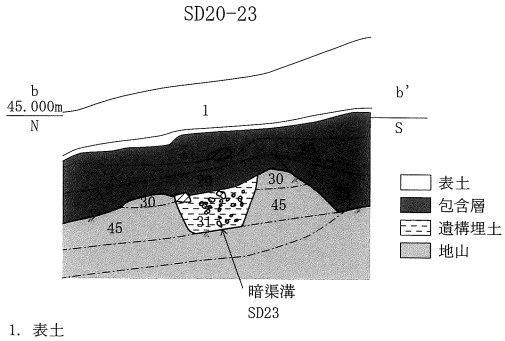
SD20-4(第17図)

調査区東側、谷埋土の上面より切り込む第1遺構面に属する溝で、標高38.34～38.99mで検出した。北方向に伸び、検出長3.5m、幅30cm、深度10cm程度で、基底部は比高差50cm程度の傾斜を測る。断面は船底形を呈し、埋土については、谷の基盤層と酷似した黒色シルトに砂礫を含む層である。出土遺物には弥生土器片がある。所属時期については、埋土の特徴及び出土遺物から弥生時代後期の所産となるが、検出面からは中世を中心とした所属時期と考えたい。

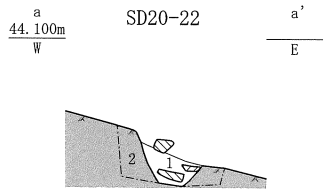


第 15 図　SD20-1・2・6 平・断面図（S=1/100・40）



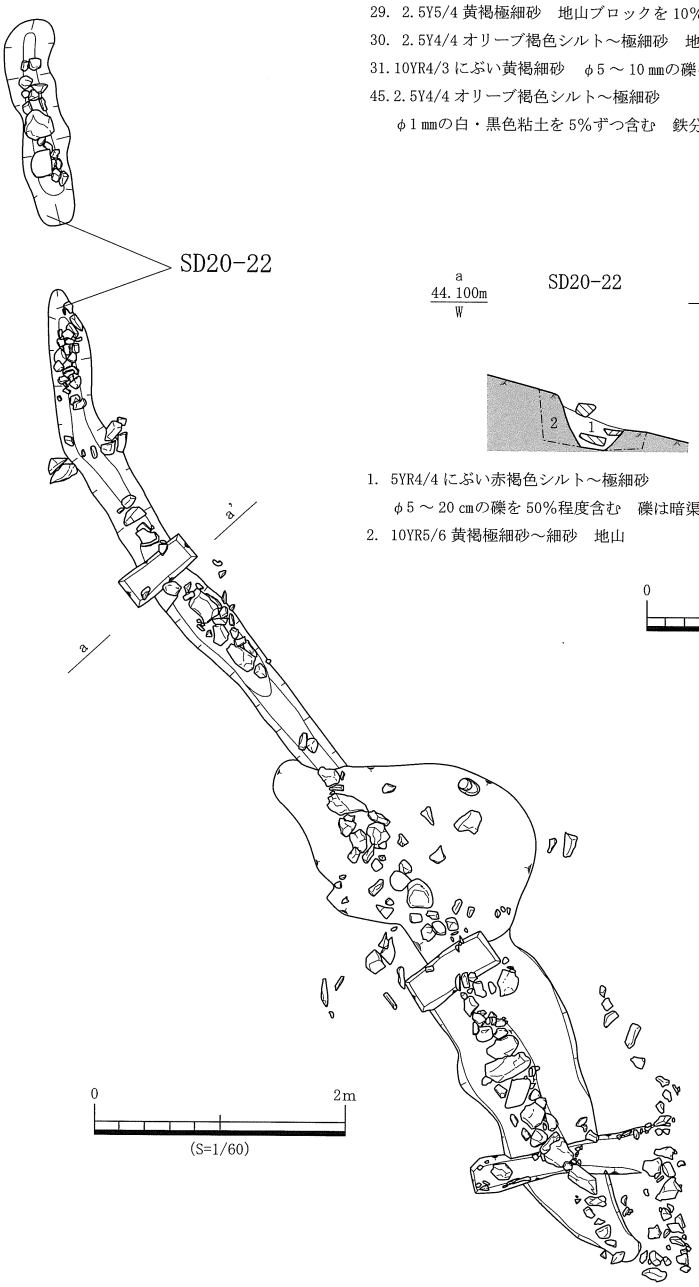


1. 表土
7. 10YR5/4 にぶい黄褐極細砂～細砂
26. 10YR5/6 にぶい黄褐シルト～細砂　地山ブロックを 50%含む
28. 2.5Y5/4 黄褐シルト～極細砂　27 層をブロック状に 50%含む
29. 2.5Y5/4 黄褐極細砂　地山ブロックを 10%含む
30. 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト～極細砂　地山
31. 10YR4/3 にぶい黄褐細砂　φ5 ～ 10 mmの礫を 50%含む
45. 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト～極細砂
φ1 mmの白・黒色粘土を 5%ずつ含む　鉄分沈着　地山

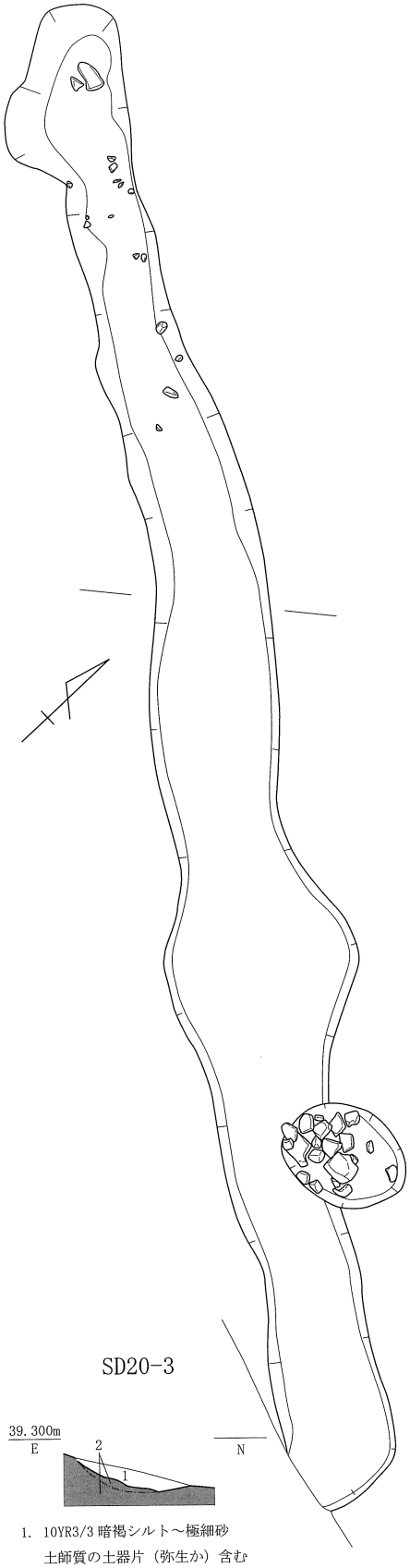


1. 5YR4/4 にぶい赤褐色シルト～極細砂
φ5 ～ 20 cmの礫を 50%程度含む　礫は暗渠の組石の可能性あり
2. 10YR5/6 黄褐極細砂～細砂　地山

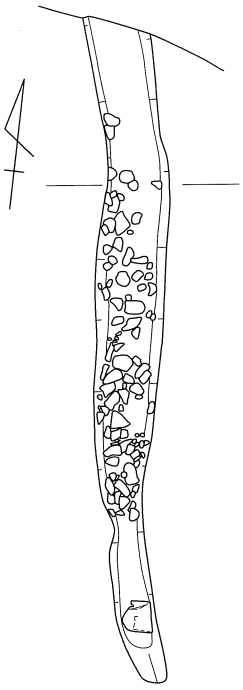
0　1m
(S=1/40)



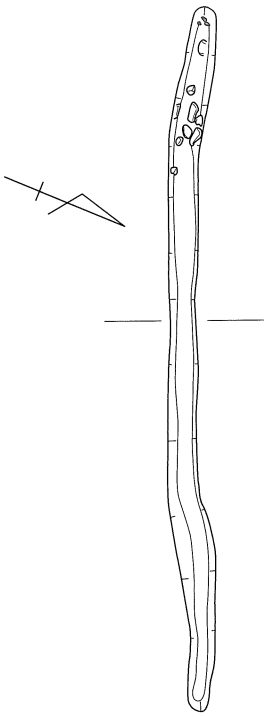
第 16 図　SD20-22・23 平・断面図（S=1/60・40）



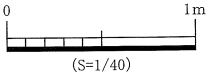
1. 10YR3/3 暗褐シルト～極細砂
土師質の土器片（弥生か）含む
2. 10YR3/2 黒褐粘土～シルト
φ1 cm大の礫を 5 ～ 10%含む 谷埋土



1. 10YR3/2 黒褐シルト～粗砂
φ10 cm程度の礫を 50%以上含む
2. 10YR3/2 黒褐粘土～シルト
φ1 cm大の礫を 5 ～ 10%含む 谷埋土



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト～極細砂
2. 10YR3/2 黒褐粘土～シルト
φ1 cm大の礫を 5 ～ 10%含む 谷埋土



第 17 図　SD20-3・4・5 平・断面図（S=1/40）

SD20-5(第17図)

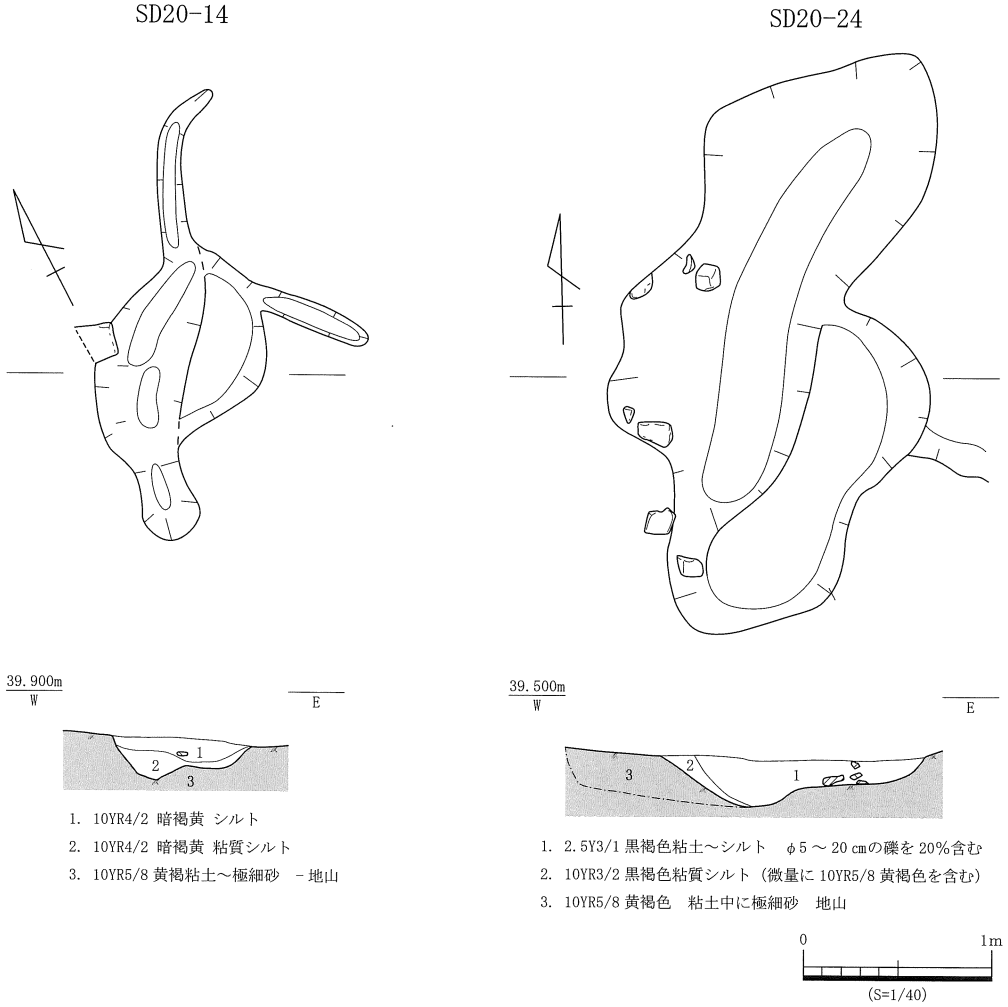
調査区東側、谷埋土の上面より切り込む第1遺構面に属する溝で、標高38.84～39.62mで検出した。北東方向に伸び、検出長3.7m、幅15cm、深度10cm程度で、基底部は比高差67cmの傾斜を測る。断面はU字形を呈し、にぶい黄褐色層である。出土遺物はない。所属時期については、検出面及び埋土の特徴から中世を中心としたものと考えられる。

SD20-14(第18図)

調査区中央、標高39.32～39.99mで検出した遺構である。深度20cm、長軸1.2m、短軸0.9mの楕円形を呈する土坑に南北及び東方向に小規模な溝状遺構が付く。断面は東側にテラスがつく段掘りになっている。埋土は2分割され上層は暗褐黄シルト質土、下層はこれにやや粘質を帯びた層となっている。出土遺物には土師質土器片がある。所属時期は、出土遺物及び埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SD20-24(第18図)

調査区東側、標高38.0～38.95mで検出した遺構である。深度25cm、長軸3.25m、短軸1.65mの不整形な楕円を呈する。断面は東側にテラスがつく段掘りになっている。埋土は拳大の礫を含む黒褐色粘質土を基調とするが、西側の壁面には礫を含まず黄褐色土が堆積している。出土遺物には弥生土



第18図 SD20-14・24平・断面図（S=1/40）

器片がある。所属時期は、出土遺物及び埋土の特徴から弥生時代後期の所産と考えられる。

SK20-18（第19・20図）

調査区南寄り中央、標高39.88～40.1mで検出した土坑である。平面は不整形な円形を呈し、深度5cm、長軸方向0.76m、短軸0.5mを測る。断面は船底形を呈し、埋土は灰黄褐色土の単層である。所属時期は、図化した弥生土器が出土しているが、埋土の特徴により中世の所産と考えられる。

出土遺物（第20図）については、17の弥生土器底部がある。甕の底部で器壁は厚く、内面にヘラミガキ痕が認められる。色調はにぶい褐色に発色し、胎土には砂粒を含む。小片であるが以上より弥生時代中期以前の所産と考えられる。

SK20-22（第19・20図）

調査区中央北側、標高38.2mで検出した土坑である。平面は楕円を呈し、深度20cm、長軸方向0.76m、短軸方向0.5mを測る。断面は船底形を呈し、埋土はにぶい黄褐色土である。出土遺物には図化した土師器があるが、所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

出土遺物（第20図）については、18の土師器杯がある。底形12cmの貼付高台を持ち、古代の所産と考えられる。

SK20-65（第19・20図）

調査区西側北寄り、標高39.7～40.15mで検出した土坑である。深度20cm程度、長軸1.2m、短軸0.94mの円形を呈し、南西方向に浅い溝状遺構が付く。断面は緩やかに北側へ下り、船底形を呈す。埋土は2分割され、上層は灰黄褐色土、下層は明黄褐色の粘質土が堆積する。出土遺物には土師質土器片がある。出土遺物には図化した土師器があるが、所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えたい。

出土遺物（第20図）については、19の平高台の土師器底部がある。色調は橙色に発色し、胎土には砂粒及び赤色粒を含む。古代の所産と考えられる。

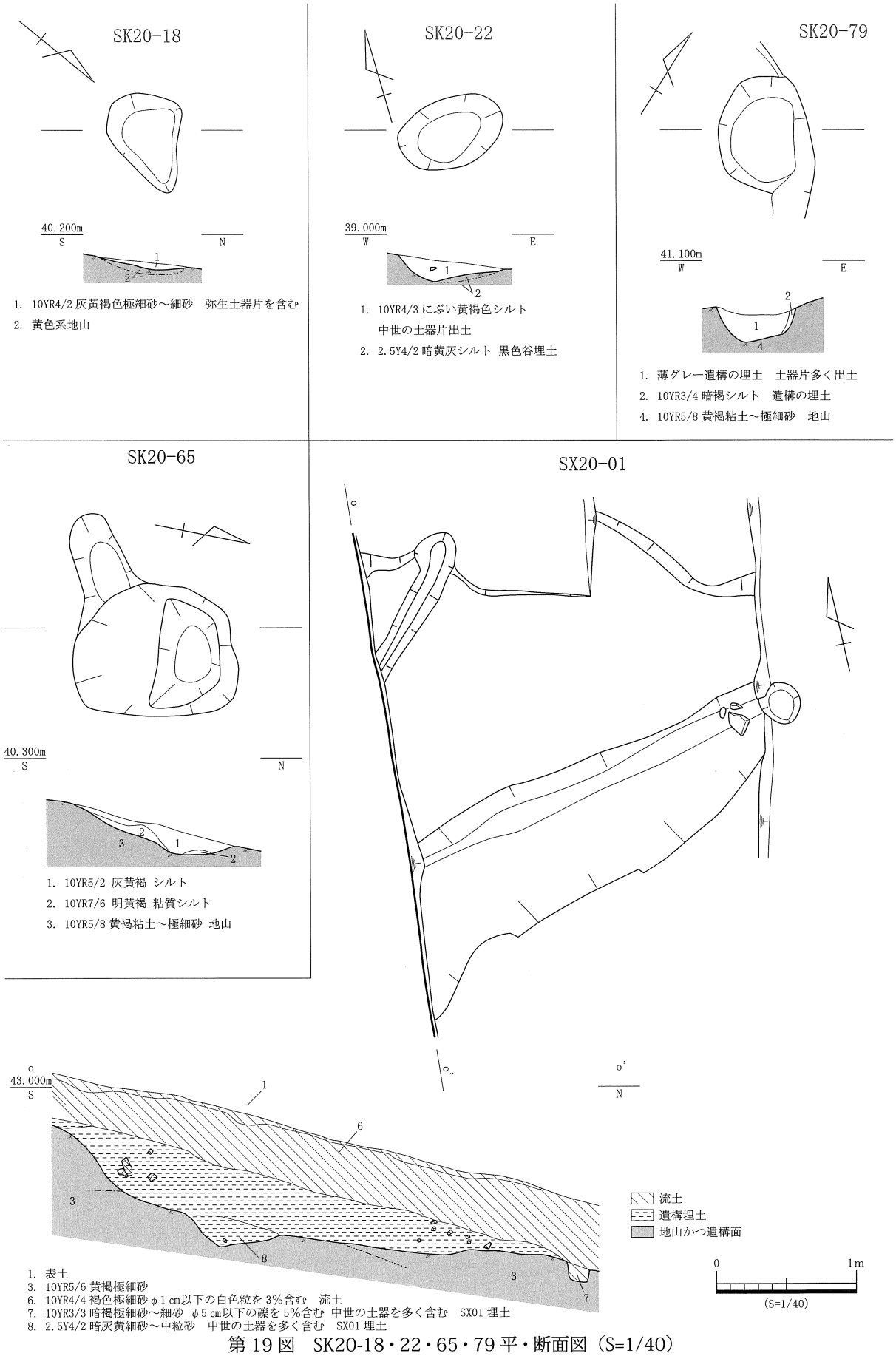
SK20-79（第19・20図）

調査区西側南寄り、標高40.77～40.8mで検出した土坑である。平面は円形を呈し、深度20cm、長軸方向0.82m、短軸方向0.66mを測る。断面は台形を呈し、埋土は灰色土、壁面に近いところでは暗褐色土である。SK20-48を切り込み構築されている。出土遺物には骨片と、図化した弥生土器片があるが、所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えたい。

出土遺物（第20図）については、20の弥生土器壺頸部がある。やや薄めの器壁にやや丸みの帯びた肩部に直立する頸部が付く。色調は明褐色を発色し、良く焼き締まっている。胎土には砂粒及び雲母、角閃石を含む。弥生時代後期の所産と考えられる。

SX20-1（第19・20図）

調査区中央西端、標高41.77～42.66mで検出したテラス状遺構である。北端は第3次調査のSD-24-2の東端に繋がる。南側の斜面をカットし、傾斜角40°前後で斜面を切り落とし、テラスを設ける。埋土は黒褐色土で、底付近において中世土器片を多く含む。テラスの奥行きは2m足らずである。壁面の下端に沿って幅20～30cmの溝が認められる。溝の深さは6cm程度である。また、テラスの北側には北西方向の同規模の溝が認められる。また、テラス基底部には幅20cm程度の北西方向の溝が認められる。



第 19 図　SK20-18・22・65・79 平・断面図（S=1/40）

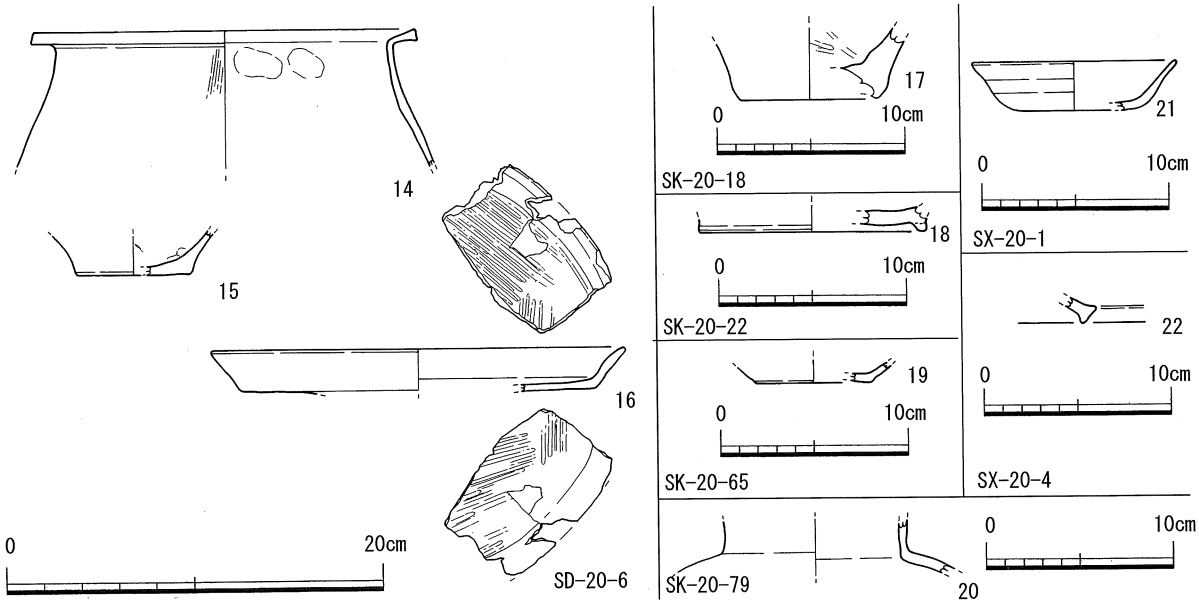
東端部には径 30 cm程度、深さ 3 cmの柱穴が認められる。出土遺物は図化した土師質土器などがある。所属時期は、埋土及び出土遺物から中世の所産であると考えられる。

出土遺物（第 20 図）については、21 の土師質土器杯がある。口径 10.8 cm、器高 2.6 cmを測る。回転ナデで整形するが、底部の切り離しは磨滅のため不明である。色調は浅黄橙を発色し、胎土は砂粒及び赤色粒を含む。

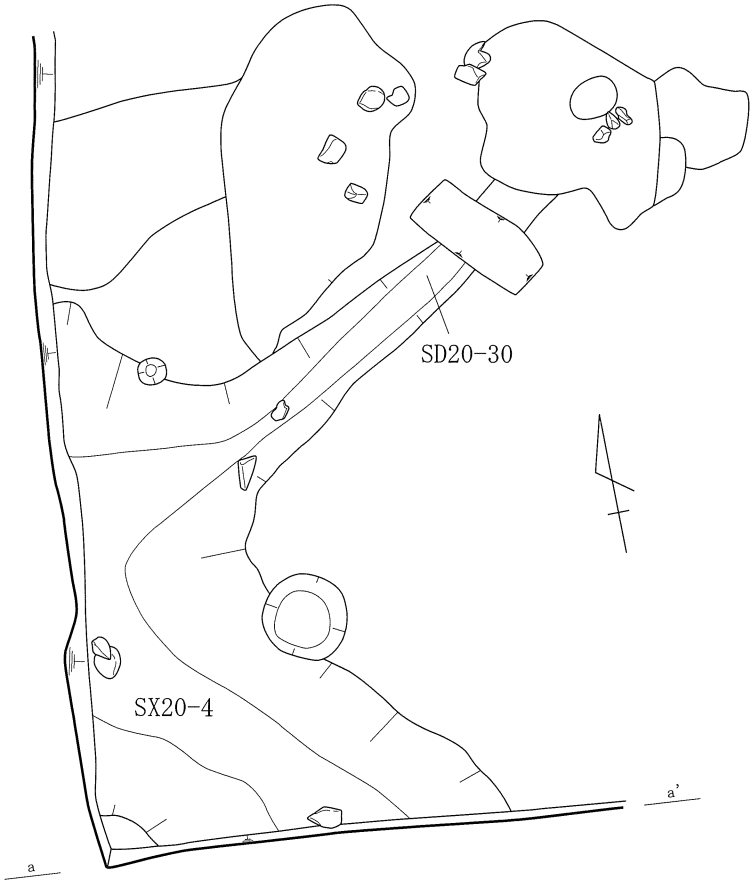
SX20-4（第 20・21 図）

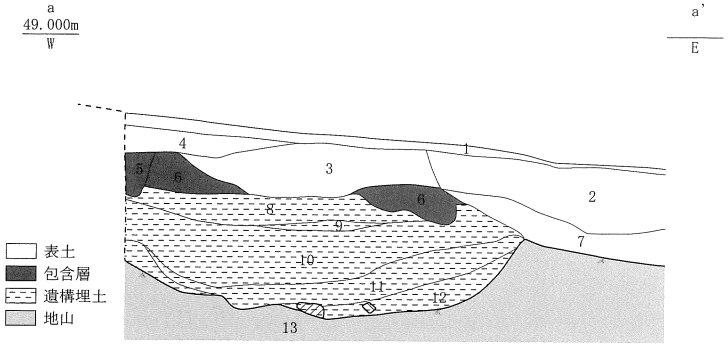
調査区西側南端、標高 47.4 ～ 48.03 mで検出した溝状遺構。西端は第 3 次調査の SD-24-1 の東端に繋がる。深度は 40 ～ 50 cmの規模を持つ。断面は台形で、埋土は 3 層に分層され、5 cm大の礫を含む黒褐色及び暗褐色土で、下層につれて砂質になる。また、これに直交し北東方向へ下る幅 40 ～ 50 cm程度の支流が付く。出土遺物は図化した弥生土器片がある。所属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

出土遺物（第 20 図）については、22 の弥生土器脚部がある。端部を上下にやや拡張し、断面は三角形状を呈す。色調は鈍い褐色に発色し、胎土は砂粒が含まれる。

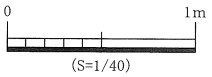


第 20 図　第 1 次調査区出土遺物（S=1/4）





1. 表土
2. 7.5YR4/3 褐色シルト　地山ブロックを 5%含む
3. 10YR6/8 明黄褐粘土～細砂
4. 10YR4/4 褐色粘土
5. 7.5Y6/1 炭色極細砂 10YR6/6 明黄褐を班に 10%、白色粒（φ1 ～ 2 mm）を 5%含む
6. 2.5Y4/3 オリーブ褐粘土～極細砂
7. 10YR5/6 黄褐粘土～細砂　φ5 cm以下の礫を 10%含む
8. 10YR3/3 暗褐シルト
9. 10YR2/3 黒褐、10YR3/3 暗褐シルト　班状に 50%ずつ含む
10. 10YR2/2 黒褐シルト　φ5 cm大の礫を 5%含む
11. 10YR3/3 暗褐シルト～極細砂　φ5 cm大の礫 2%含む
12. 10YR3/3 暗褐シルト～粗砂　φ1 cm以下の礫 20%、φ10 cm大の礫 10%含む
13. 地山



第 21 図　SX20-4 平・断面図 (1/40)

第4節　第2次調査区の遺構・遺物

概要（第23図）

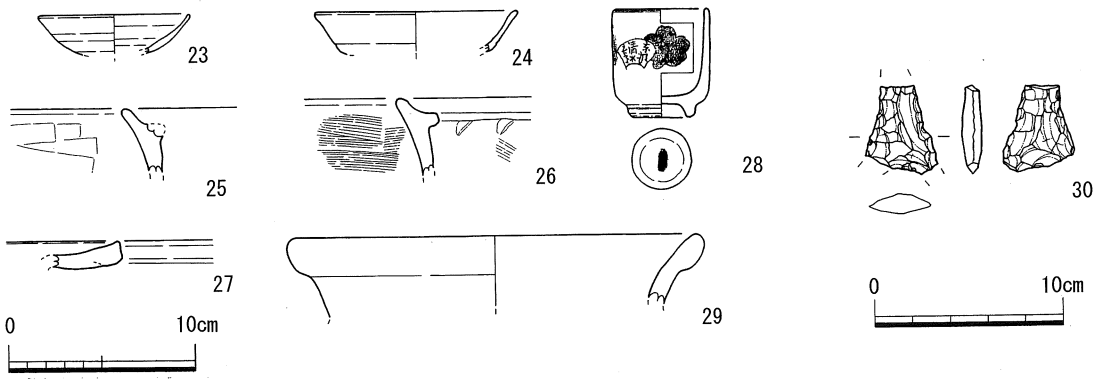
調査区の北端において第1次調査区から伸びるSD20-8・9（SD23-4）及びSD20-6（SD23-3）を確認した。削平の影響を被っており詳細は不明だが、地形に制約されやや東方向に向きを変えるようである。また、同様に第1次調査で確認されたSD20-25・26がさらに南側へと延伸するのを確認した。その他については若干の土坑状遺構を確認したに留まる。

SR23-1（第24図）

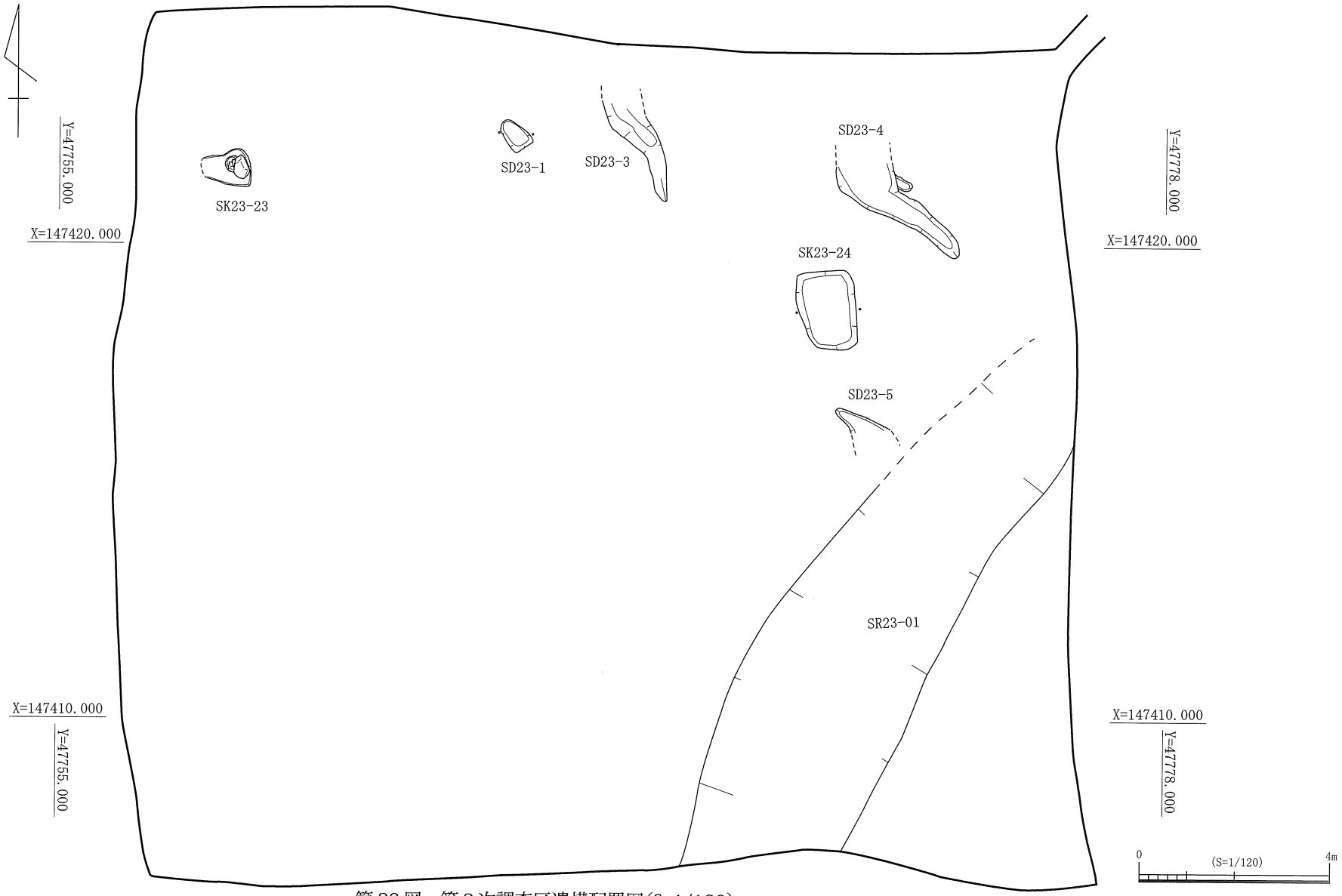
調査区南側、標高41～48.8mで検出した北東方向に走る溝跡。第1次調査のSD20-25、26に繋がるもので調査時は流路として検出し、調査の結果出土遺物がないことから、平面検出のみに留めた。自然流路の可能性もあるが、SD20-25・26と同様に溝の側壁の立ち上がりから判断して溝跡の可能性も考えられる。

出土遺物（第22図）

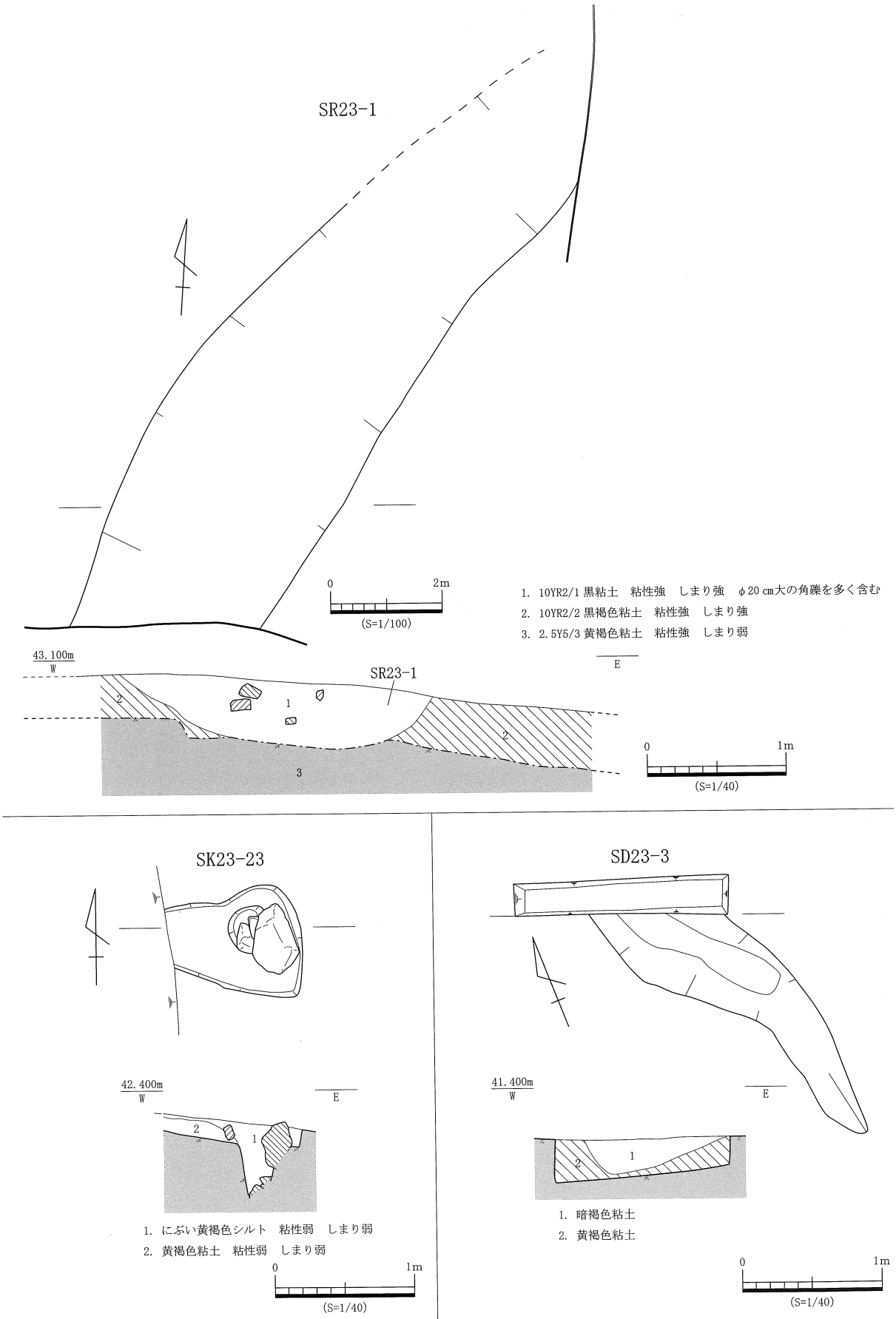
遺構に伴うものは皆無であるが、表採並びに攪乱土中及び遺構検出中に出土したものを報告する。23は攪乱土中の出土遺物で、土師質土器杯である。口径8cmを測る。色調は浅黄橙色に発色し、胎土は砂粒をほとんど含まない精良なものを用いている。24は遺構精査時の出土遺物で、土師質土器杯である。口径は11.6cmを測る。色調は橙色に発色し、胎土は砂粒をほとんど含まない精良なものを用いている。25は表採遺物で、土師質土器足釜の口縁部、鍔部を欠損している。内面に板ナデの痕が認められる。色調は明赤褐色を発色し、胎土には砂粒を含む。26は出土状態不明遺物で、土師質土器足釜の口縁部。鍔部の下端に爪形の圧痕が認められる。内面はハケ調整である。色調は明赤褐色に発色し、胎土には砂粒及び金雲母を含む。27は攪乱土中の出土品で、土師質土器鍋の口縁部である。口縁端部に強いヨコナデを施している。色調は橙色に発色し、胎土には砂粒及び金雲母を含む。28は遺構面精査中の出土遺物で、磁器製の猪口である。黒、黄、桃色で染付し、上絵に金色を用いている。高台の中には清水の銘がある。29は攪乱土中の出土遺物で、備前系陶器壺である。青備前で内面に黒褐色の自然釉がかかる。30は出土状態不明遺物で、サヌカイト製の石鏃である。凸基式であるが、先端及び基部を欠損している。重量は2gを測る。



第22図　第2次調査区出土遺物(1/4・1/2)



第23図　第2次調査区遺構配置図(S=1/120)



第 24 図　SR23-1，SD23-3・SK23-23 平・断面図（S=1/40）

第５節　第３次調査区の遺構・遺物

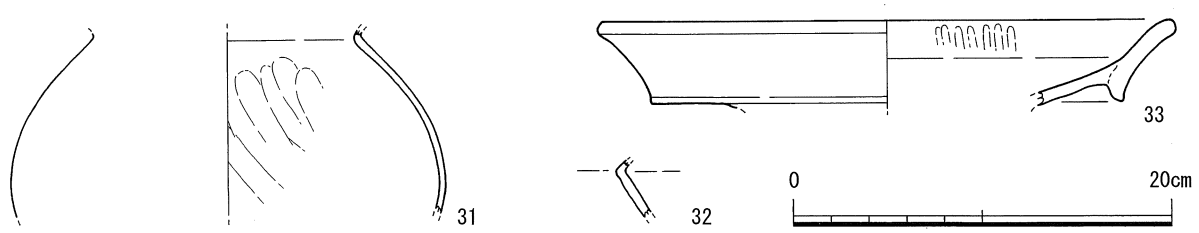
概要（第 26 図）

第１次調査区から延伸する弥生時代後期の溝 SD24-1 及び SD24-2 の中世のテラス状遺構が中心となる。その他土坑、柱穴が比較的まとまって検出されている。時期については不詳であるが、埋土等の特徴からすれば中世の所産が主体となると考えられる。

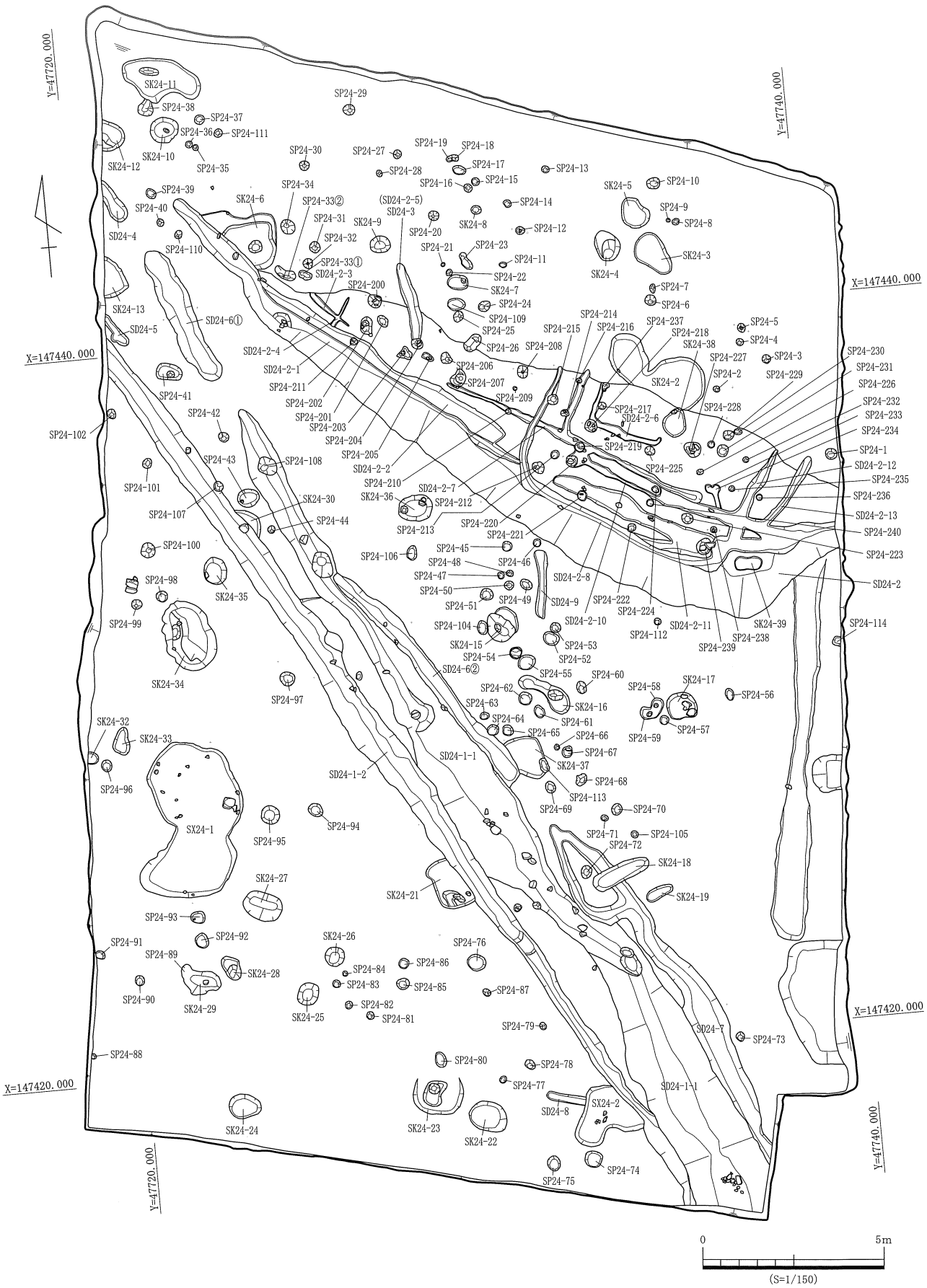
SD24-1-1・1-2・6・7（第 25・27 図）

調査区東側南端、標高 41.93 ～ 47.69 m で検出した。北西方向に基本複数条が併走して走る溝である。幅約 3.3 m の規模を持ち、基底部は延長 29.5 m に対し比高差 5.3 m の傾斜で下る。溝は基底部で二条ないし三条に分割されており、このうち堆積状況から最も古相となる西側の SD24-1-2 は幅 30 ～ 50 cm の規模で直線的に伸びている。そして標高の低い東側の SD24-1-1、SD24-6、SD24-7 では、やや蛇行しつつ複数に分岐しながら北西へと下っている。断面は SD24-1-2 が U 字形ないし台形を呈し、その他は船底形ないし台形を呈している。埋土は最上位に黒褐色土、その下位に SD24-1-2 の埋土である黄褐色土が堆積する。さらに最も東側の SD24-7・6 は鈍い黄橙色土でやや鈍い橙色土を含む堆積で充填されている。出土遺物は下記に図化した弥生土器等である。所属時期については出土遺物及び埋土の特徴から弥生時代後期後半以降の所産と考えられる。

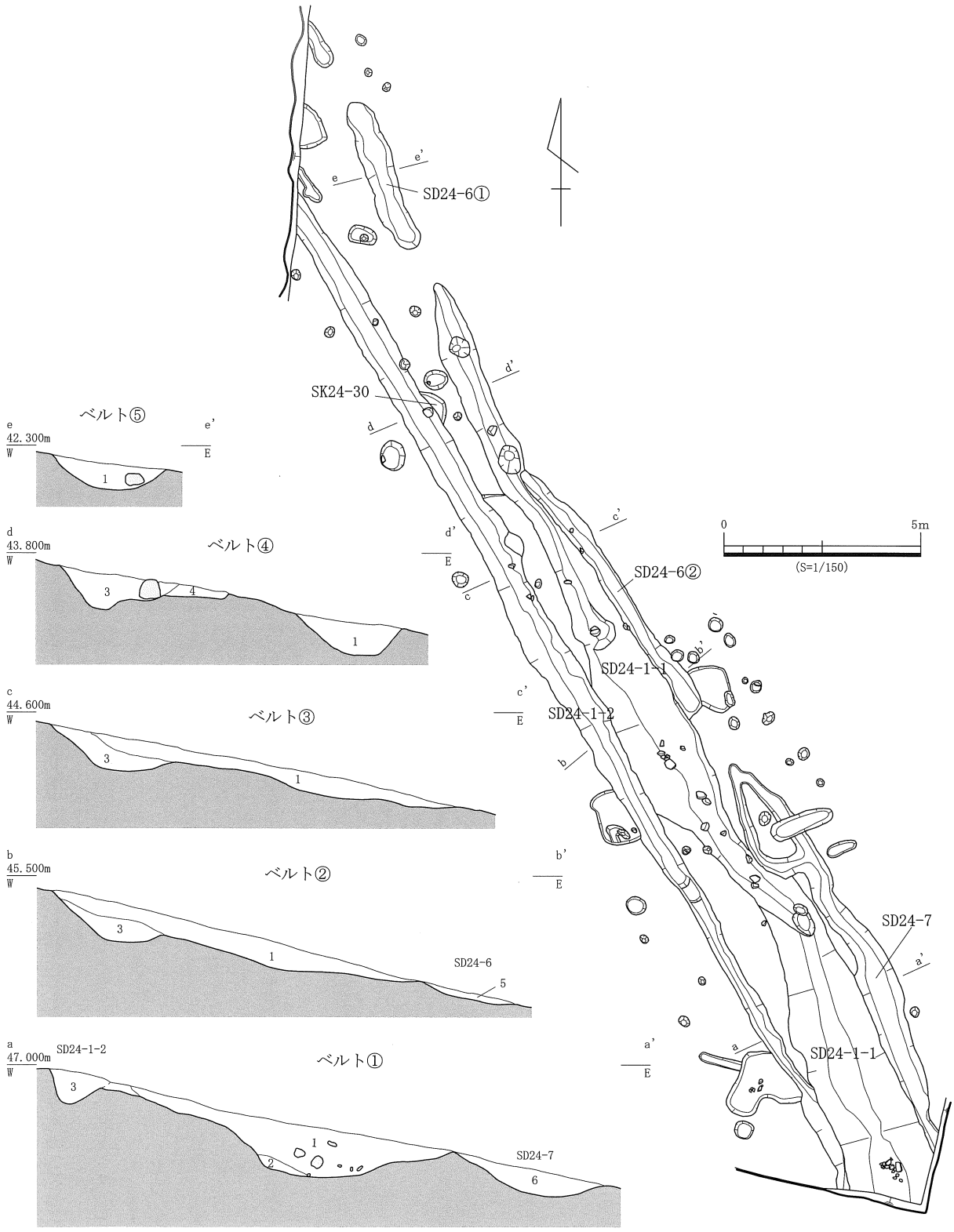
出土遺物（第 25 図）については、31 は弥生土器甕である。薄い器壁でやや丸みを帯びた肩部を持つ磨滅しているが、内面体部上半はナデ、下半はヘラ削りの痕がみられる。色調は明褐色に発色し胎土は砂粒含む。32 は弥生土器甕の体部片である。内外面とも磨滅している。色調は褐色を発色し、胎土には砂粒及び雲母、角閃石を含む。33 は壺形土器ないし特殊器台の口縁部である。口径 30 cm に復元され、やや厚めの器壁を持つしっかりした作りの個体である。口縁部は大きく外側に開き、端部は丸く仕上げ下端は垂下する。内外面とも磨滅しているが、口縁部内面に 4 ～ 5 mm 幅を単位とする縦位のヘラミガキが認められる。色調は橙色に発色し、胎土は赤色粒を含む精良なものを用いている。在地にはない器形及び胎土から搬入品と考えられる。



第 25 図　SD24-1 出土遺物（S=1/4）



第26図　第3次調査区遺構配置図(S=1/150)



第27図　SD24-1・6・7・ベルト①②③④⑤平・断面図（1/150・40）

SD24-2(第28～30図)

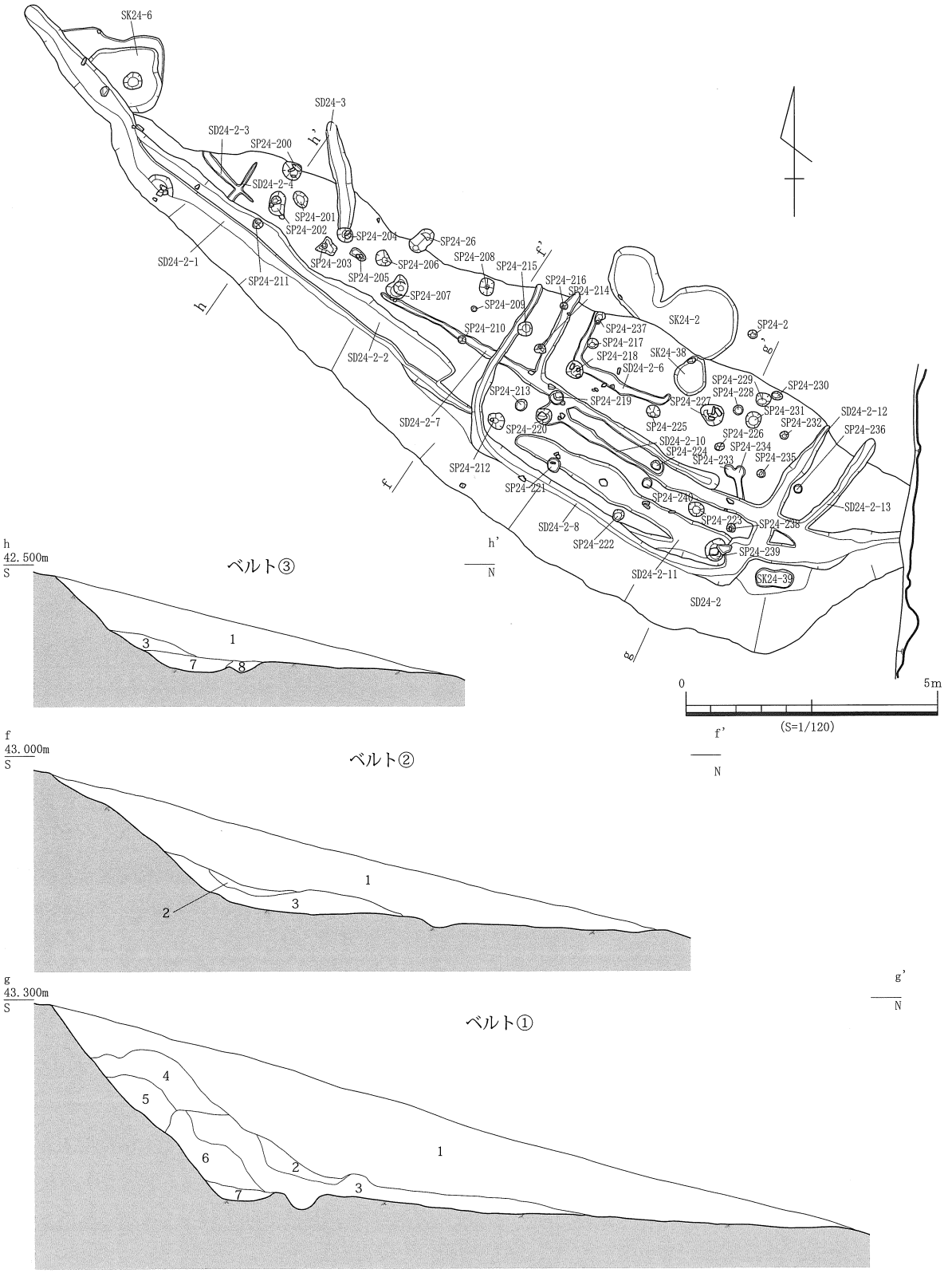
調査区北部、標高41.59～42.0mで検出したテラス状遺構。等高線にほぼ併行し長さ20.8mの規模で斜面側をカットし、テラスを造りだしている。カットされた壁面は37°～55°の傾斜を持つ。テラスの奥行は4.4m、西方向で狭くなり東方向ではL字に折れ入隅となっている。南側の斜面をテラスの壁面の下端に沿って30～60cm幅で、深さ5～15cmの溝跡が開削されている。この壁面下端の溝跡はコの字ないしT字状に平場に配されている。またこれに平行ないし直交するようにL字(SD24-2-⑥)及びT字(SD24-2-⑦)が認められる。これらは土留め用の壁溝及び何らかの区画溝の可能性も考えられるが、少なくとも南北方向では北方向に比高差がついており、排水の機能を持たせているとも考えられる。柱穴については根石あるいは根巻石と考えられる石を伴なったものが認められ一定の深度を持つものがあるが、柱筋が整うものがなく建物としての復元は難しい。埋土については上層を中心に北方向へ下る流土とみられる黄褐色系あるいは灰黄褐色土が充填されていることが認められる。一方で東部を中心に地山を含む堆積層や集石を伴う堆積層も見られたことから、人為的に埋められた可能性が考えられる。出土遺物は混入品と見られる弥生土器の他、中世土器がまとまって出土している。所属時期については出土遺物から中世段階と考えられる。

出土遺物(第29・30図)については、34～36は弥生土器である。34は広口壺でナデ調整で仕上げ、口縁の内面にハケ調整を施し、色調はにぶい橙色に発色し、良好な焼成である。35は甕の口縁部で内外面ともヨコナデで仕上げる。色調は橙色に発色し、胎土には砂粒及び金雲母を含む。36は甕でくの字に曲がる口縁を持つ。口縁部は体部外面と口縁部内面にハケ調整が施される。色調は赤黒色に発色し、胎土には砂粒及び金雲母を含む。

38は須恵器の高杯脚部である。

37は土師器羽釜の口縁部である。内面に板ナデ調整を施す。色調はにぶい黄橙色に発色し、胎土には砂粒及び金雲母を含む。

39～51は土師質土器小皿である。39は口径7.0cm、器高1.0cmを測る。口縁部は短く直立し、端部は先細る。底部にナデ調整を施し、切り離しの技法は不明である。色調は灰白色に発色し、胎土は精良。40は口径7.2cm、器高1.1cmを測る。外傾する端部は丸く収まる。色調は浅黄橙色に発色し、胎土には微砂粒を含む。41は口径7.2cm、器高1.2cmを測る。外傾する端部は丸く収まる。底部はナデ調整で仕上げ切り離し技法は不明である。色調はにぶい黄色、橙色に発色し、胎土には微砂を含む。42は口径7.1cm、器高1.0cmを測る。外傾する口縁部を持ち体部は丸く収まる。内外面は磨滅している。色調は橙色に発色し、胎土は精良である。43は口径7.4cmを測る。外傾する口縁部で端部はやや先細る。内外面とも磨滅している。色調は橙色に発色し、胎土は精良なものを用いている。44は口径7.4cmを測る。外傾する口縁部で、色調は橙色に発色し、胎土は精良である。45は口径7.4cm、器高0.9cmを測る。外反するやや長めの口縁部を持ち、端部は丸く収まる。底部はナデ調整で仕上げ、切り離し技法は不明である。色調はにぶい橙色に発色し、胎土は精良である。46は口径7.6cm、器高1.1cmを測る。やや直立する口縁部で、端部は先細る。底部はナデ仕上げで切り離し技法は不明である。色調は浅黄橙色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。47は口径7.8cm、器高0.8cmを測る。外傾する短い口縁部で端部は丸く収まる。底部はナデ仕上げで切り離し技法は不明である。色調は浅黄色に発色し、胎土は精良である。48は口径7.8cm、器高1.2cmを測る。外傾する口縁部で端部は丸く収まる。底部の切り離しは回転糸切りによる。色調はにぶい黄色、橙色に発色し、胎土は精良で黒色粒を含む。49は口径7.8cm、



1. にぶい黄褐色＋にぶい黄橙シルト質極細砂（10YR4/3+6/3）
2. 灰黄褐色シルト質（極細砂（10YR4/2））
3. にぶい黄橙色＋にぶい黄橙色シルト質極細砂（10YR7/4+5/4）
4. 明黄褐色シルト質極細砂（10YR7/6 地山のくずれ）
5. 明黄褐色シルト質極細砂（10YR7/6 浅黄橙色シルトを含む（10YR8/3））
6. にぶい黄橙色＋にぶい黄橙色シルト質極細砂（10YR7/4+5/4）＋明黄褐色シルト質極細砂（10YR7/6 地山のくずれ）
7. にぶい黄橙＋にぶい黄橙色＋にぶい黄橙色シルト質極細砂（10YR7/4+5/4）＋明黄褐色シルト質極細砂（10YR7/6 地山のくずれ）（10YR6/4+）（S=1/40）

第 28 図　SD24-2 平・断面図（1/120・40）

器高 1.0 cmを測る。外傾する口縁部である。内外面は磨滅している。色調は浅黄色に発色し、胎土は精良である。50 は土師質土器小皿である。口径 8.1 cm、器高 0.9 cmを測る。外傾する口縁部で端部は丸く収める。内外面は磨滅している。色調は浅黄色、橙色に発色し、胎土は微砂粒を含む。51 は口径 8.2 cm、器高 1.2 cmを測る。やや直立する口縁部で端部は先細る。色調は橙色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。

52 ～ 60 は土師質土器杯である。52 は口径 9.6 cm、器高 1.9 cmを測る。外傾する口縁部を持つ。底部は回転ヘラ切りを施す。色調はにぶい橙色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。53 は口径 10.0 cm、器高 2.7 cmを測る。外傾する口縁部で端部は先細る。色調は淡橙色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。54 は口径 10.0 cmを測り、外傾する口縁部を持つ。色調は浅黄橙色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。55 は口径 10.4 cm、器高 2.8 cmを測る。外傾する口縁部を持ち端部は先細る。色調は灰白色に発色し、胎土は精良である。56 は口径 10.6 cm、器高 3.1 cmを測る。薄い器壁に外傾する口縁部を持つ。底部の切り離し技法は回転ヘラ切りを施す。色調は灰褐色に発色し、胎土は精良である。57 は口径 10.8 cm、器高 2.2 cmを測る。薄い器壁に外傾する口縁部を持ち端部は先細る。底部の切り離し技法は回転ヘラ切りによる。色調は浅黄橙色に発色し、胎土には砂粒が含まれる。見込みに被熱痕が残る。58 は口径 10.9 cm、器高 2.5 cmを測る。薄い器壁に外傾する口縁部を持つ。底部は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。色調は橙色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。59 は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。色調は浅橙色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。60 は口径 11.0 cm、器高 3.5cm を測る。やや薄い器壁に直立気味の口縁部を持つ。底部は回転糸切り後ナデ調整を施す。色調は灰白色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。

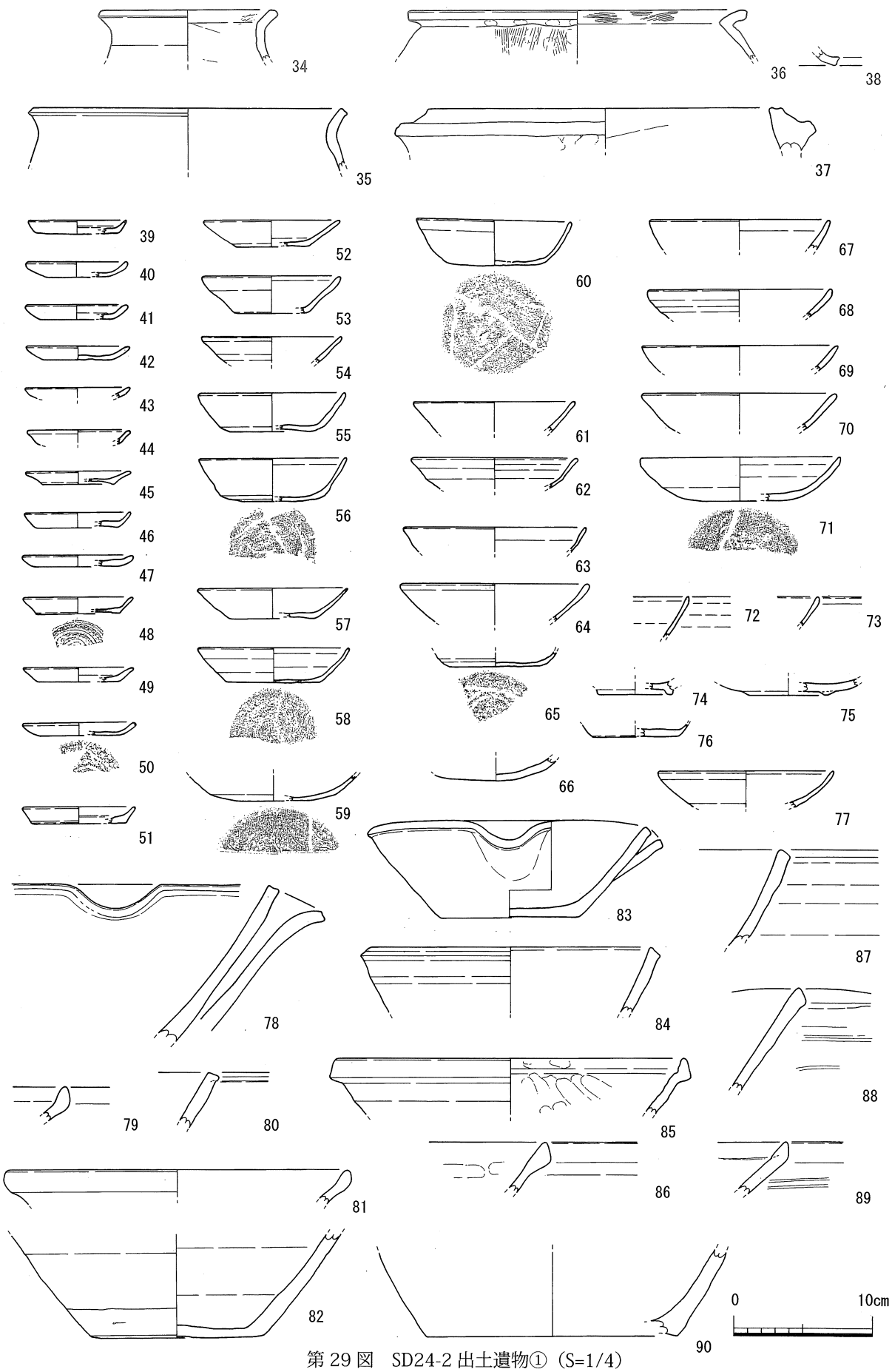
61 ～ 64 は土師質土器口縁部である。61 は口径 11.6 cmを測る。外傾する口縁部を持つ。色調は浅黄色に発色し、胎土は精良である。62 は口径 11.8 cmを測る。薄い器壁に外傾する口縁部を持ち端部は丸く収まる。色調は灰白色に発色し、胎土は砂粒、黒色粒、赤色粒を含む。63 は口径 13.0 cmを測る。器壁の薄い外傾する口縁部を持つ。色調は浅黄色に発色し、胎土は砂粒及び赤色粒を含む。64 は口径 13.4 cmを測る。外傾する口縁部で、端部を丸く収める。色調は灰白色に発色し、胎土には砂粒を含む。65 は土師質土器底部である。回転ヘラ切り痕を残す。色調は浅黄色、橙色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。

66、76 は土師質土器底部である。66 は器壁は厚く、ナデ調整を施す。色調はにぶい橙色に発色し、胎土は砂粒及び赤色粒を含む。76 は底径 6.8 cmを測る。内外面は磨滅している。色調は灰白色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。

67 ～ 70、72、73、は須恵質土器口縁部である。67 は口径 12.8 cmを測る。口縁端部は先細る。胎土は砂粒を含む。68 は外傾する口縁部で端部は先細る。胎土は精良で、調整は良好である。69 は口径 14.0 cmを測る。外傾する口縁部で端部に重ね焼きの痕が残る。胎土は精良である。70 は口径 13.8 cmを測る。外反気味の口縁部で、端部は丸く収め、重ね焼きの痕が残る。胎土には微砂粒を含む。72 は薄い器壁で外傾する口縁部で端部は先細る。口縁端部に重ね焼き痕が残る。胎土に砂粒を含む。73 は器壁は薄く外傾する口縁部で端部に重ね焼き痕を残す。胎土に砂粒を含む。

71 は須恵質土器杯である。口径 14.2 cm、器高 3.8 cmを測る。外傾する口縁部で端部は先細り、重ね焼き痕が残る。底部は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。胎土は精良である。

74 は須恵質土器椀底部である。底径 5.2 cmを測る。胎土に微砂粒を含む。75 は須恵質土器椀底部



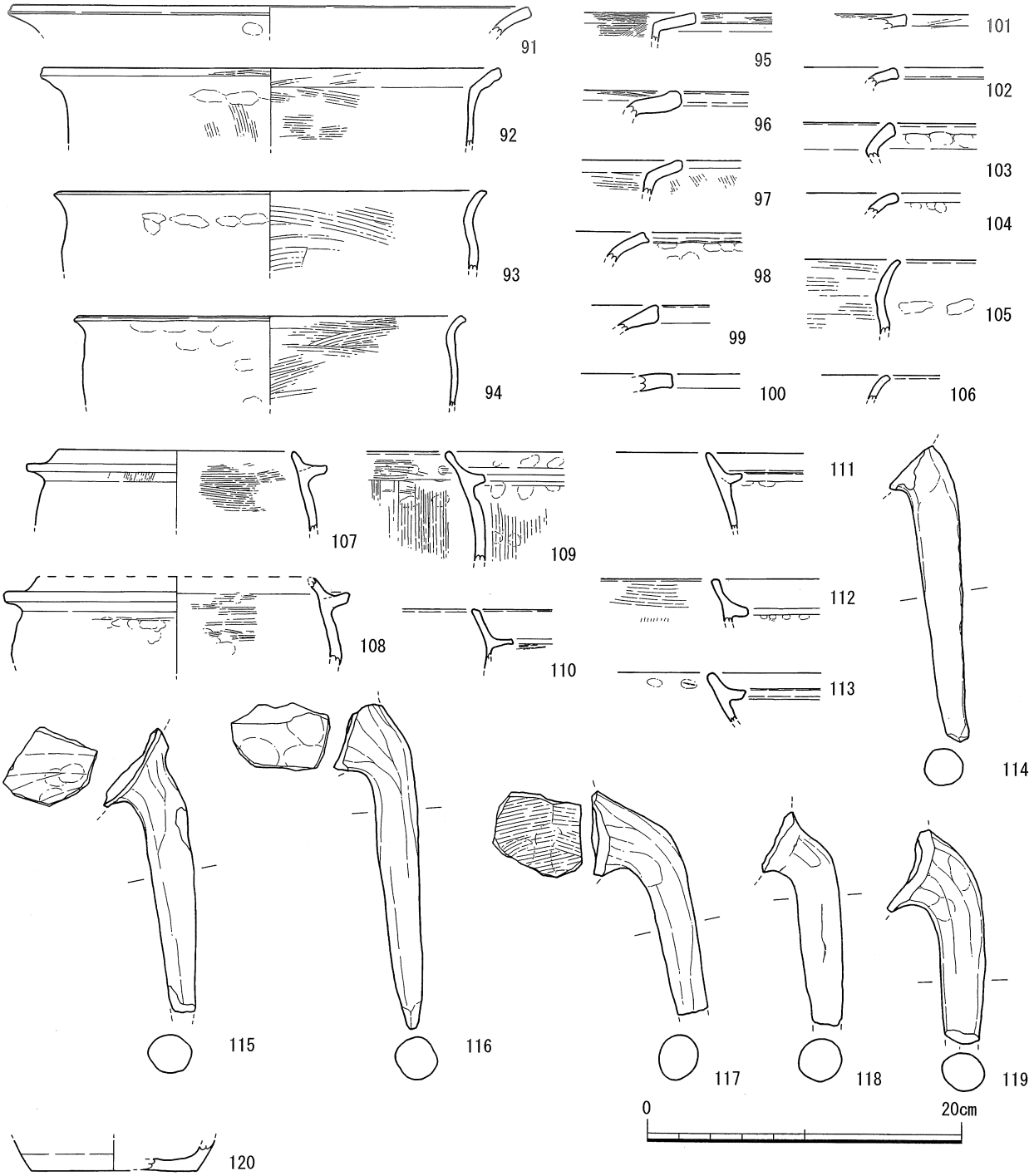
第 29 図　SD24-2 出土遺物①（S=1/4）

である。底径 5.8 cmを測る。貼付高台で内部は磨滅している。胎土に砂粒を含む。77 は瓦器椀である。口径 12.6 cmを測る。外面はナデ調整、内面は磨滅している。

78 ～ 89 は土師質土器鉢である。78 は片口が付き、体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁端部は断面が方形状になっている。また口縁の内外面が媒化している。色調はにぶい黄橙色に発色し、胎土は砂粒を含む。79 は口縁部である。上方向に摘み上げている。口縁部に重ね焼き痕が残る。色調はにぶい黄橙色に発色し、胎土に赤色粒を含む。80 は口縁部である。直線的に外傾し、口縁端部は断面方形で外側に短く摘まみ出す。色調は褐灰色に発色し、胎土には粗い砂粒を含む。81 は口縁部である。口径は 25.4 cmを測る。頸部から屈曲し口縁端部を上部に摘まみ上げる。口縁部に重ね焼きの痕が認められる。色調はにぶい黄橙色に発色し、胎土に砂粒と赤色粒を含む。82 は底部である。底径は 11.0 cmを測る。外面はナデ調整、肩に回転ヘラ削りを施す。色調は橙色に発色し、胎土は砂粒を含む。83 は片口が付き、口径 19.5 cm、底径 9.8 cm、器高 7.8 cmを測る。体部から口縁部にかけて直接的に外傾し、口縁部は断面方形で端部をわずかに外側へ摘まみ出す。内外面ナデ調整を施す。色調は灰黄色に発色し、胎土に砂粒及び黒色粒を含む。84 は口径 20.0 cmを測る。口縁部にかけて外傾し端部は回転ナデにより外側及び内側に掻きだされている。色調は灰白色に発色し、胎土には砂粒及び黒色粒を含む。85 は口径 25.2 cmである。口縁部にかけて外傾し屈曲しながら口縁部にいたる。口縁端部は上方に摘まみ上げている。色調は灰白色に発色し、胎土は砂粒及び黒色粒を含む。86 は口縁部にかけて外傾し、口縁端部は外側へ断面三角形に肥厚する。色調は灰白色に発色し、胎土は砂粒及び黒色粒を含む。87 は口縁にかけて外傾し、端部は断面方形になる。88 は口縁部にかけて外傾し、端部は外側にわずかに摘まみ出す。体部外面に回転ヘラ削りを施す。色調は灰黄色に発色し、胎土には砂粒及び黒色粒を含む。89 は口縁部である。口縁部にかけて外傾し、端部を上方に摘まみ上げる。色調は淡黄色に発色し、胎土には砂粒及び赤色粒を含む。

90 は瓦質焼成の鉢底部である。底径 18.0 cmを測る。胎土は灰白色で精良なものを用い、赤色粒、黒色粒を含む。

91 ～ 106 は土師質土器鍋の口縁部である。91 は口径 33.0 cmを測る。色調はにぶい黄橙色に発色し、胎土は粗い赤色粒を含む。92 は口径 29.0 cmを測る。内外面にハケ調整を施し、口縁端部にもハケ調整が認められる。色調は橙色に発色するが、内側は媒化している。胎土は砂粒及び赤色粒を含む。92 は口径 24.5 cmを測る。器壁が薄く直立する体部から緩やかに外反する口縁を持つ。内面に幅広のハケ調整を施し、外面は指オサエ及びナデ調整で仕上げる。色調は橙色に発色し内面は媒化している。胎土には砂粒及び赤色粒を含む。93 は口縁部である。口径 27.6cm を測る。薄い器壁で直立する体部から緩やかに外反する短い口縁を持つ。内面に幅広のハケ調整を施す。色調は橙色に発色し外面は媒化している。胎土には砂粒及び赤色粒を含む。94 は口縁部である。口径 24.4cm を測る。93 と同様な口縁部を呈し、内面はハケ調整を施す。色調は橙色に発色し外面は媒化している。胎土には砂粒及び赤褐色粒を含む。95 は内面及び口縁端部にハケ調整を施し、色調は橙色に発色する。96 は口縁部である。内面にハケ調整を施す。色調はにぶい黄橙色に発色し、胎土には砂粒及び赤色粒を含む。97 は口縁部である。体部外面に縦方向のハケ調整、内面に横方向のハケ調整を施す。色調は橙色に発色し、胎土には粗い砂粒及び金雲母、赤色粒を含む。98 は口縁部である。薄い器壁で短く外反する口縁部である。色調は明褐色に発色し、胎土には粗い砂粒及び赤色粒を含む。99 は口縁部である。色調は橙色に発色し、胎土には粗い砂粒を含む。100 は口縁部である。色調はにぶい黄橙色に発色し、胎土には粗い砂粒を含む。



第 30 図　SD24-2 出土遺物②（S=1/4）

101 は口縁部である。内外及び口縁端部にハケ調整が施される。色調はにぶい橙色に発色する。102 は口縁部である。色調は橙色に発色し、体部には砂粒及び赤色粒を含む。103 は口縁部である。色調はにぶい橙色に発色し、外面は媒化する。胎土には砂粒及び赤色粒を含む。104 は土師質土器鍋の口縁部である。色調は橙色に発色し、内面は媒化する。105 は口縁部である。薄い器壁に、緩やかに外反する口縁部を持つ。内面に幅広のハケ調整を施す。色調は赤褐色に発色し、胎土には砂粒及び雲母、角閃石を含む。106 は口縁部である。色調は明赤褐色に発色し、胎土に砂粒及び金雲母を含む。

107 ～ 119 は土師質土器の足釜である。107 は口径 14.9 ㎝を測る。鍔部が媒化し、体部内面にハケ

調整が認められる。色調は橙色に発色し胎土には砂粒及び金雲母、赤色粒を含む。108 は鍔の端に指オサエ、内部に指オサエが残る。色調は橙色に発色し、胎土には砂粒及び赤色粒を含む。109 は体部外面及び内面に縦方向のハケ調整を施す。口縁部の内面は横方向のハケ調整が認められる。色調はにぶい黄橙色に発色し、外面は鍔の端より媒化している。胎土には砂粒及び赤色粒を含む。110 は口縁部である。薄い器壁を持ち、色調は橙色に発色する。胎土には粗い砂粒を多く含んでいる。111 は口縁部である。色調は明黄褐色に発色し、胎土に砂粒を含む。112 は口縁部である。鍔部が媒化し、内面に横方向のハケ調整が認められる。色調はにぶい黄橙色に発色し、胎土に砂粒を含む。113 は口縁部である。色調はにぶい黄褐色に発色し、胎土に砂粒を含む。114 は脚部である。長さ 18.8 cmを測り、足の脚先端部が外方向に踏ん張る。色調はにぶい黄褐色に発色し、媒化している。115 は脚部である。色調は橙色に発色し、外面は媒化している。胎土は粗い砂粒及び雲母、赤色粒を含む。116 は脚部である。長さ 22.2 cmを測り、足先端が先細りになっている。色調は橙色に発色し、胎土には粗い砂粒を含む。117 は脚部である。内面に指オサエ及びハケ調整が認められる。色調は明赤褐色に発色し焼成が良好である。胎土には粗い砂粒及び赤色粒を含む。118 は脚部である。色調は橙色に発色し、外面が媒化している。119 は脚部である。内面にはハケ及びナデ調整が施される。色調はにぶい褐色に発色し、胎土に砂粒を含む。

120 は備前焼の底部である。底径 10.6 cmを測る。外面を回転ヘラ削り、底部にナデ調整を施す。色調は灰赤色に発色する。

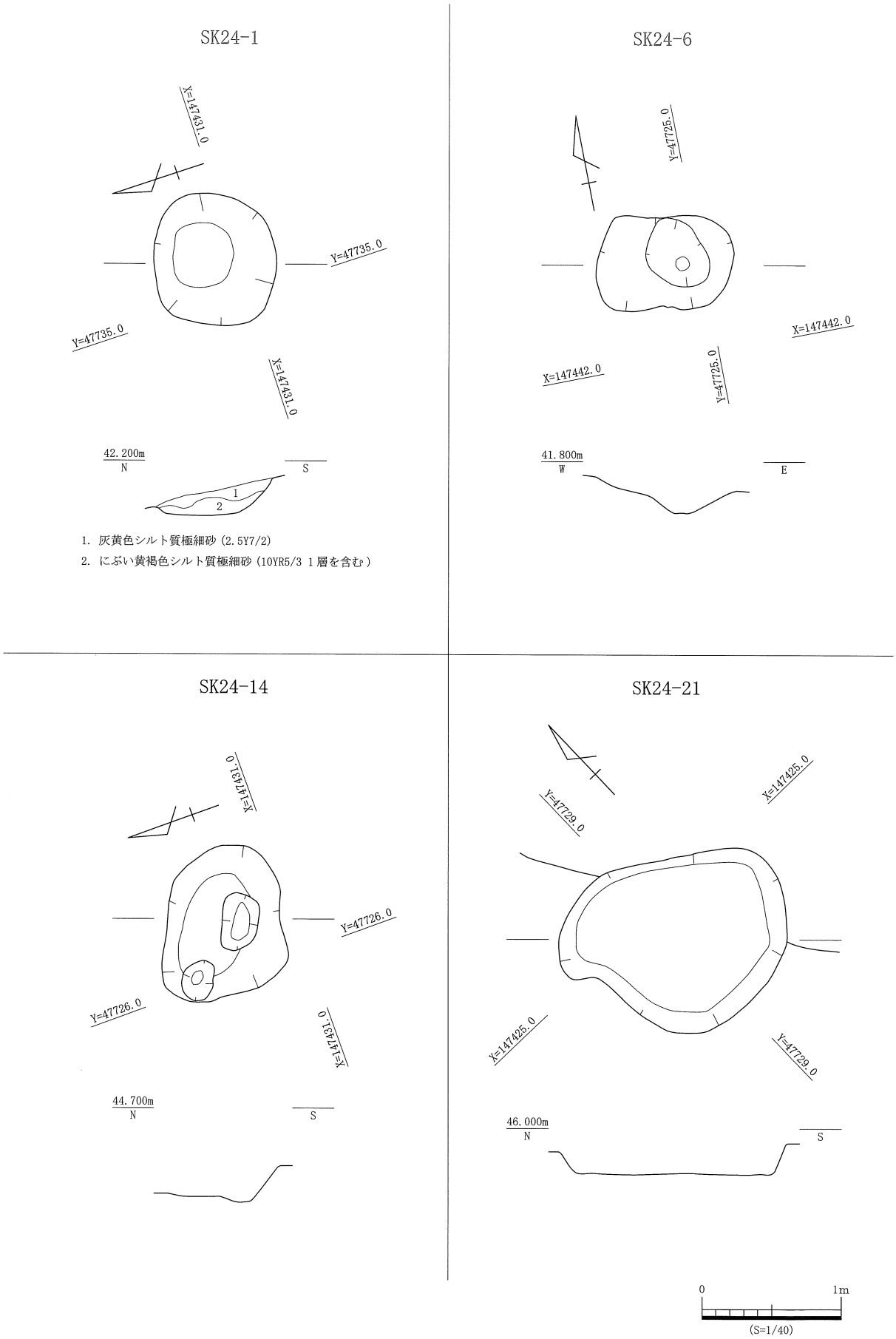
以下の遺物の年代観は、高松平野と周辺地域における中世土器（佐藤 2000）に拠る。

同編年における分類、皿及び杯については、底部の切り離し技法が明確ではないものの、ナデ仕上げの状態からヘラ切りが主体とみられ、それぞれ口径から皿 B Ⅱ 3 ～ 4 と杯 D Ⅱ 5 ～ 7 形式に相当すると考える。須恵質土器については、土師質焼成のものより口径が一回り大きい、須恵質焼成の杯 D Ⅱ－1 形式が存在している。椀については、高台の矮小化した須恵質土器椀と極少量の瓦器椀が認められる。鉢は皿杯類に比べて古い段階の鉢 D-2、3 のものもあるが、これより新層の鉢 E-3、4、5 形式のものまで認められる。土師質土器鍋、足釜については、鍋 A 1、2及び足釜 B Ⅱがある。以上の在地産土器に加えて、赤色を発色する備前の存在から、13 世紀後半～ 14 世紀前葉までを主体とした年代観が考えられる。

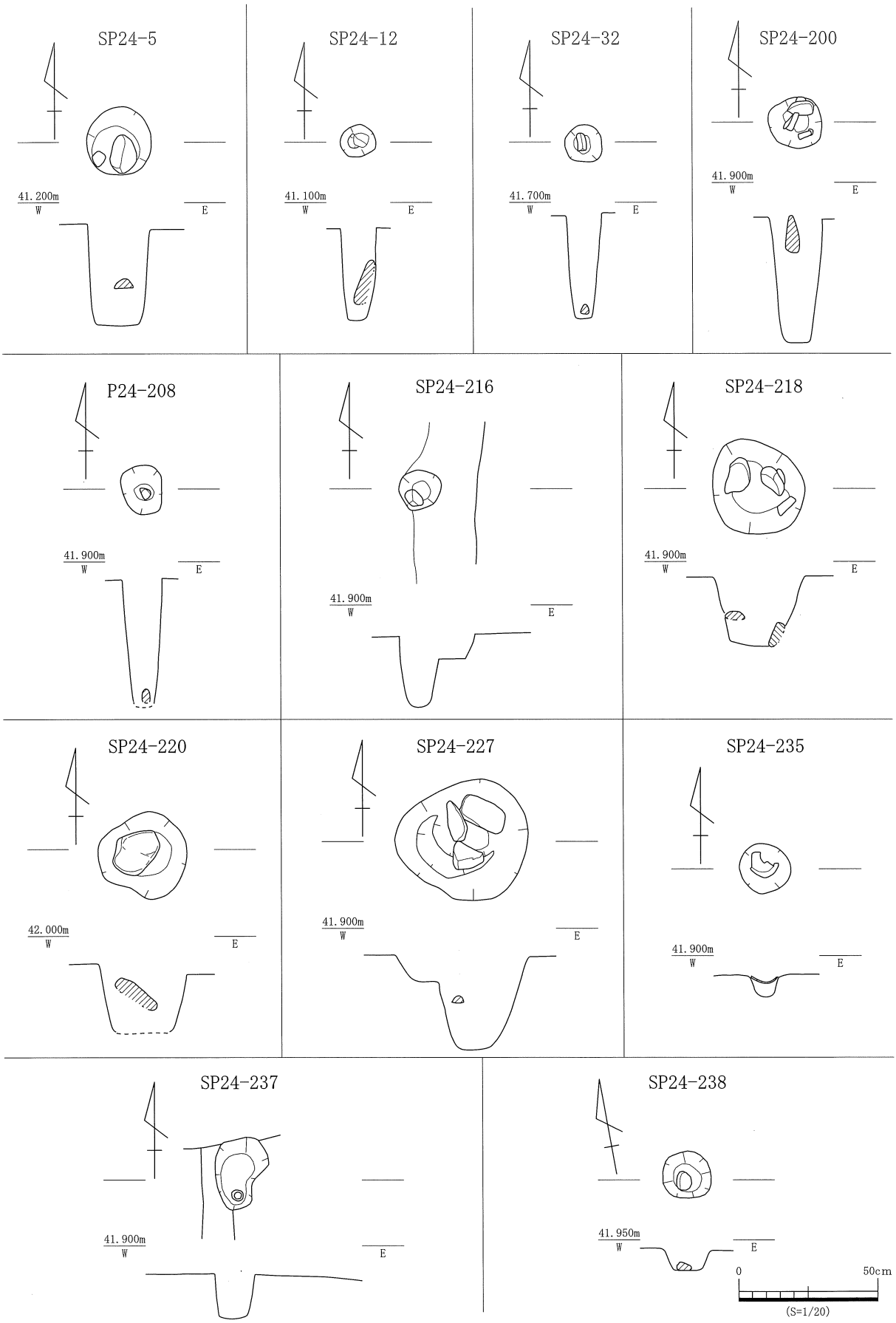
土坑及び柱穴（第 31 ～ 33 図）

SD24-1 あるいは SD24-2 の上面より切り込んで確認された土坑である。SK24-1・6 では土師質土器片が出土している。柱穴については 径 30cm 前後のものが多く、調査区の北側に集中している。ピットは調査区全体にあるが、いずれも建物等の復元には至らない。根石或いは根巻き石として用いられたような柱穴も散見され、特に SP24-200・208・216・218・220・227・235 は SD24-2 テラス状遺構の平場で集中して認められる。また SP24-235・238 では土師質土器杯や皿を埋納したと考えられるものも認められる。

出土遺物（第 33 図）については、125 は SP24-235 から出土した土師質土器杯である。口径 10.9 cm、器高 2.4 cm、底径 6.2 cmを測る。器厚は薄く、外傾する端部は丸い。回転ナデ調整で単位が明遼である。底部はナデで仕上げる。色調は灰白色に発色し、胎土には砂粒、赤色粒を含む。121、122、123 は SP24-238 から出土した土師質土器小皿である。121 は口径 6.7 cm、器高 1.05、底径 5.3 cmを測る。外傾する端部は丸く短い。ナデ調整で、底部は回転ヘラ切り技法で切り離されている。色調は外面浅黄橙色、内面は灰白色に発色し、胎土には砂粒、赤色粒を含む。122 は口径 6.8 cm、器高 0.8 cm、底径 5.5



第31図　SK24-1・6・14・21平・断面図（1/40）

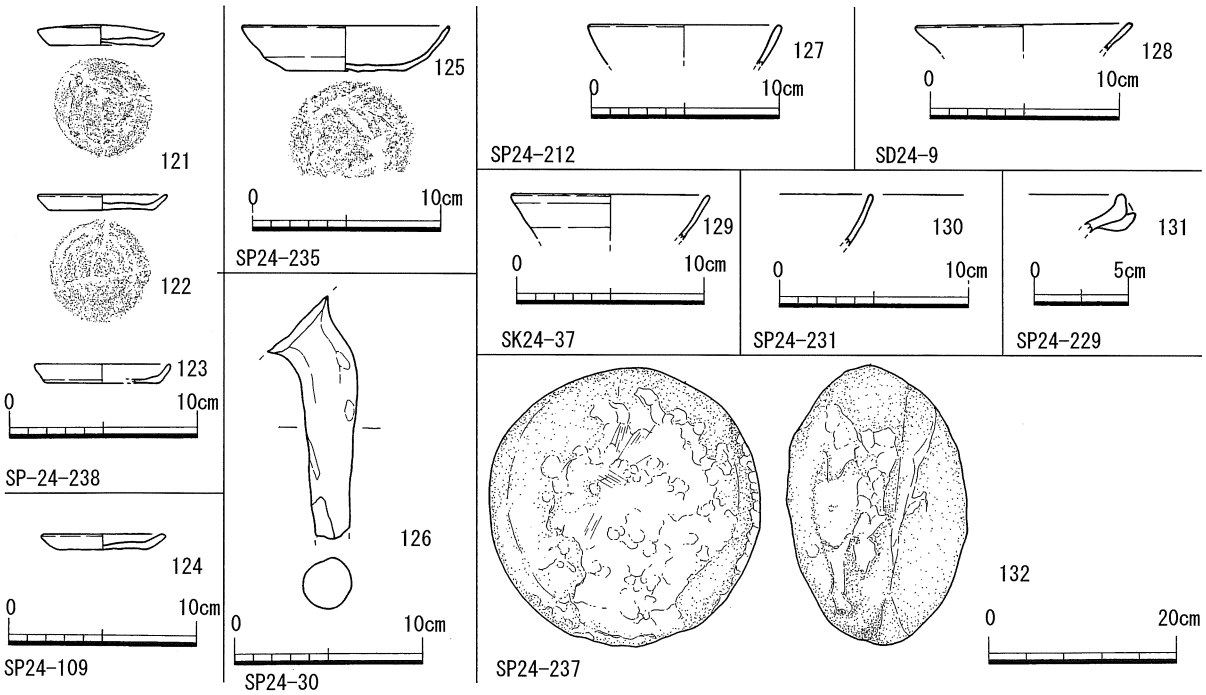


第32図　SP24-5・12・32・200・208・216・218・220・227・235・237・238 平・断面図（1/40）

cmを測る。外傾する端部は丸く短い。ナデ調整で、底部は回転ヘラ切り技法で切り離されている。色調は灰白色に発色し、胎土には砂粒、赤色粒を含む。123 は口径 7.0 cm、器高 1.0 cm、低径 6.0 cmを測る。外傾する端部は丸く短い。内外面、底部にナデ調整を施し、底部の切り離し技法は不明である。色調はにぶい橙色に発色し、胎土にはわずかに微砂粒を含む。132 は SP24-237 は出土した砂岩製の叩き石である。片側面に弱い窪みが連続する。拳大よりやや小ぶりな扁平の楕円形を呈し、重量は 275 gである。弥生時代後期の溝 SD20-8 からの出土遺物と形や大きさなどがよく似ており、同時期の所産と考えられる。

その他出土遺物（第 33 図）

124 は SP24-109 から出土した土師質土器小皿である。口径 6.2 cm、器高 0.8 cm、底径 4.6 cmを測る。外傾する端部は丸く短い。底部はナデ調整で、底部は回転ヘラ切り技法で切り離されている。色調は灰白色に発色し、胎土には砂粒、赤色粒を含む。126 は SP24-30 から出土した土師質土器足釜、脚部である。長さ 12.9 cmを測り、足の脚先端部は欠損している。色調は橙色に発色し、媒化している。胎土は砂粒を含む。127 は SP24-212 から出土した土師質土器杯口縁部である。口径 10 cmを測る。外傾する器壁は薄く、端部はやや厚く丸い。色調は浅黄橙色に発色し、胎土は精良で赤色粒を含む。128 は SD24-9 から出土した土師質土器杯の口縁部である。口径 11.2 cm、器高 1.5cm を測る。外傾する器壁は薄く、端部は丸く外面に厚く膨らむ。色調は浅黄橙色に発色し、胎土は赤色粒を含む。129 は SK24-37 から出土した土師質土器杯の口縁部である。口径 10.4 cm、器高 2.4cm を測る。外傾する器壁はやや薄く、端部は細い。底部は回転ナデ調整を施す。色調は浅黄橙色に発色し、胎土は砂粒を含む。130 は SP24-231 から出土した土師質土器杯の口縁部である。器高 2.7cm を測る。外傾する器壁はやや薄く、端部は丸い。回転ナデ調整を施す。色調は浅黄橙色に発色し、胎土は微砂粒を含む。131 は SP24-229 から出土した須恵質土器片口土器鉢の口縁部である。器高 2cm を測る。頸部はやや緩やかに伸び、外傾する口縁端部は丸く摘まみ上げ、外側へ断面三角形に肥厚する。色調は灰白色に発色する。



第 33 図　第 3 次調査区出土遺物（S=1/4・1/2）

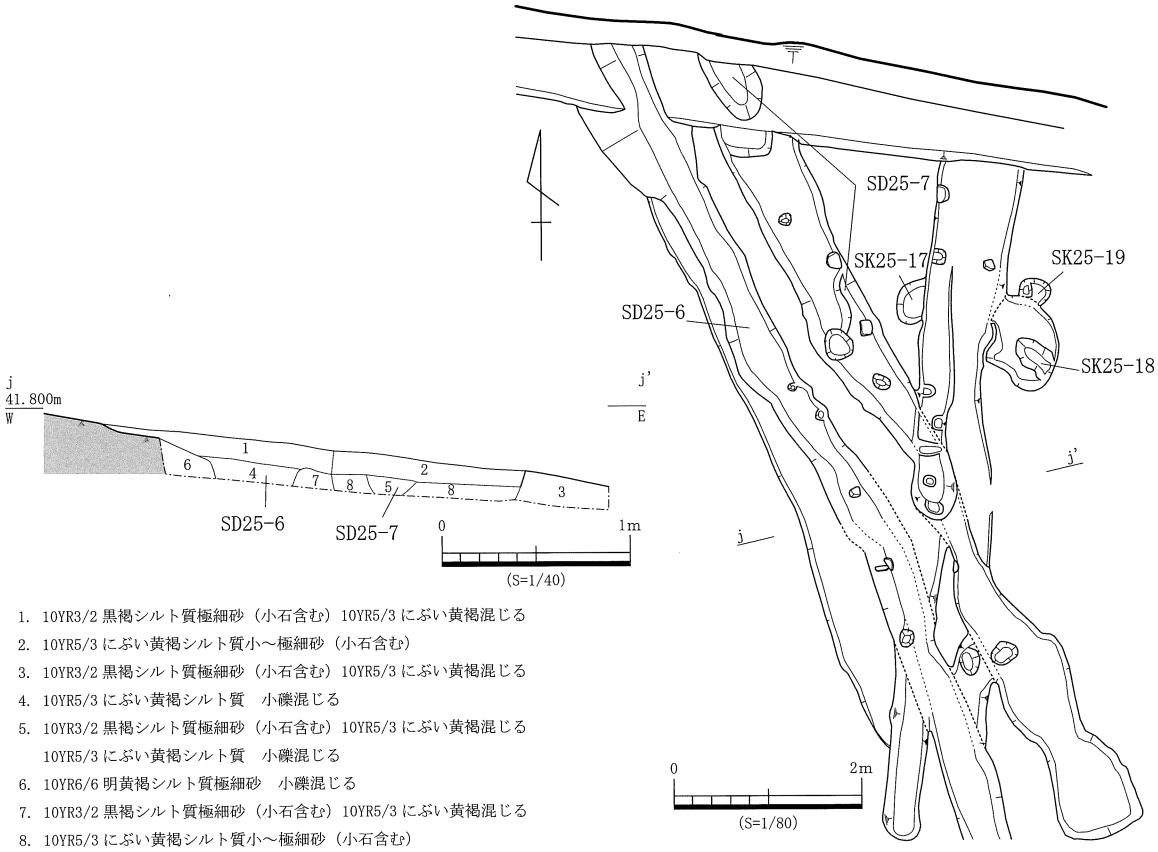
第 6 節　第 4 次調査区の遺構・遺物

概要（第 35 図）

第 3 次調査区から延伸する弥生時代後期後半の溝 SD25-6 及び SD25-7 の遺構が中心となる。その他土坑、溝、不明遺構が検出されている。時期については不詳であるが、埋土等の特徴からすれば中世の所産が主体になると考えられる。全体に出土遺物は少量である。

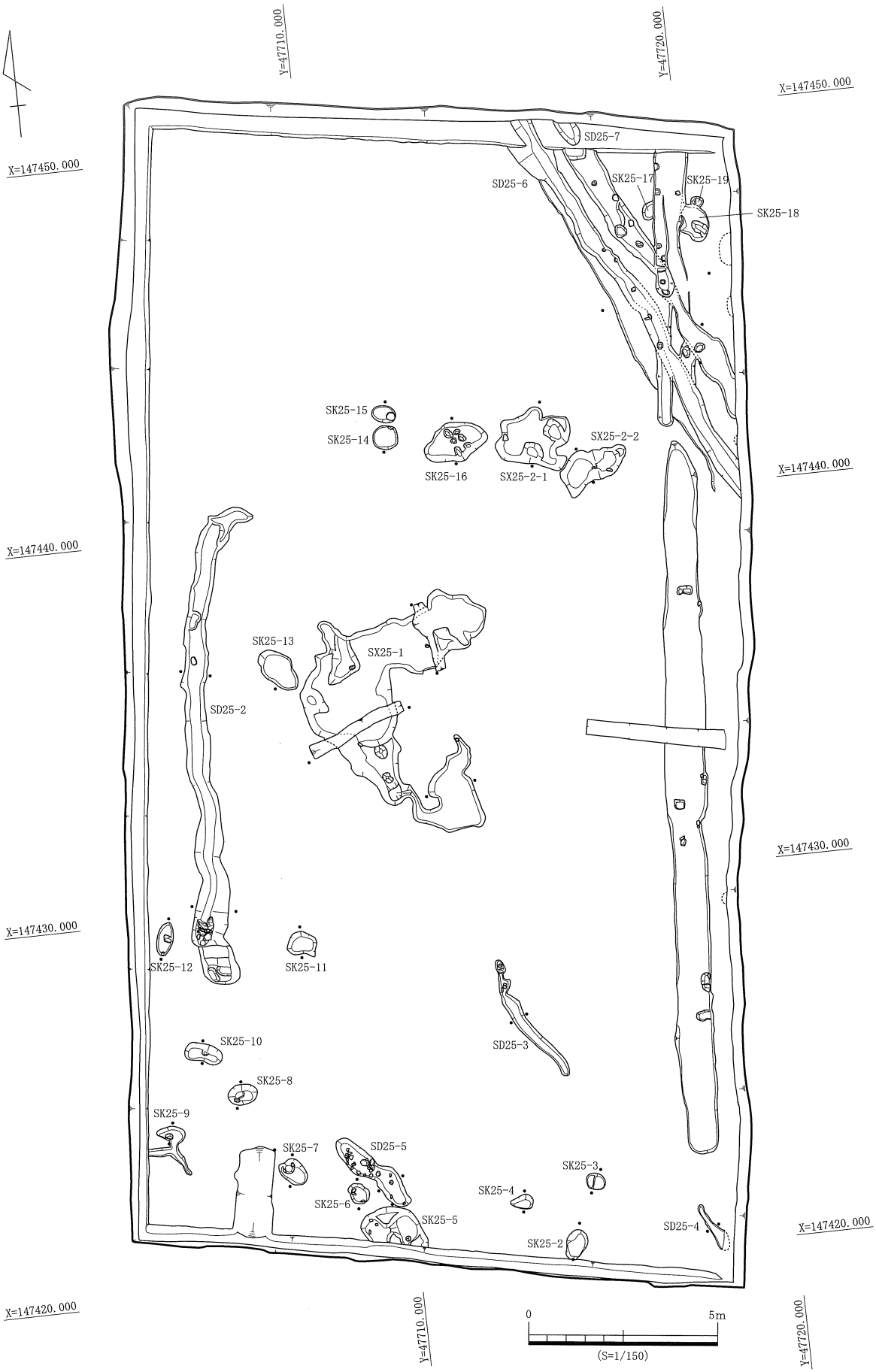
SD25-6・7（第 34 図）

調査区北東端、標高 40.58 ～ 40.67 mで検出した北西方向に走る溝。第 3 次調査の SD24-1・6・7 から繋がる溝と考える。蛇行気味に南東～北西に伸び、底部には小礫が点在する。共に SD25-1 に切られる。SD25-6 は検出延長 4.0 m、幅 28 cm、深度 48 cmを測る。SD25-7 は検出延長 6.2 m、幅 38 cm、深度 34 cmを測る。断面は台形で、埋土は共に黒褐色土、黄褐色埋土で、SD25-6 は小礫を含む。出土遺物は弥生土器片と土師質土器片である。所属時期は出土遺物に土師質土器片が含まれるが混入遺物とし、第 3 次調査の SD24-1・6・7 から繋がる溝と考えられることから、また埋土の特徴から弥生時代後期後半の所産と考えられる。



1. 10YR3/2 黒褐シルト質極細砂（小石含む）10YR5/3 にぶい黄褐混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質小～極細砂（小石含む）
3. 10YR3/2 黒褐シルト質極細砂（小石含む）10YR5/3 にぶい黄褐混じる
4. 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質　小礫混じる
5. 10YR3/2 黒褐シルト質極細砂（小石含む）10YR5/3 にぶい黄褐混じる
   10YR5/3 にぶい黄褐シルト質　小礫混じる
6. 10YR6/6 明黄褐シルト質極細砂　小礫混じる
7. 10YR3/2 黒褐シルト質極細砂（小石含む）10YR5/3 にぶい黄褐混じる
8. 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質小～極細砂（小石含む）

第 34 図　SD25-6・7 平・断面図 (1/80・40)



第35図　第4次調査区遺構配置図(1/150)

SD25-2(第36図)

調査区西側、標高44.86～46.54 mで検出した北方向に走る溝。蛇行気味に南北方向に伸び、北端は東側に曲がる。検出延長12.5 m、幅61 cm程度、深度6～40 cmを測る。断面は2ヶ所で確認し、形状は①は三角形、②は船底形を呈す。埋土は灰黄褐色で、小～大礫を含む。溝の南端は水溜めの様に特に深く60 cmを測る。また北側には同様な窪みがあり、底部には拳大～人頭大の礫が築石されている。出土遺物はない。所属時期は、埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SD25-3(第36図)

調査区中央南寄り、標高46.51～48.13 mで検出した北西方向に走る溝。蛇行気味に南東～北西方向に伸び、検出延長1.53 m、幅8 cm、深度8 cmを測る。断面は台形を呈し、北西側には拳大の礫があり、北西端で水留めの様に溝が深い。胎土はにぶい黄褐土、褐黄灰土が混ざる。出土遺物はない。所属時期は、溝の向きがSD24-1などの方向と同様なことから、弥生時代後期後半のものとも考えられるが、埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SD25-4(第36図)

調査区東南端、標高47.97～48.22 mで検出した北西方向に走る溝。南東～北西方向に伸び、北西端が北向きに曲がる。検出延長0.6 m、幅39 cm、深度8 cmを測る。断面は台形を呈し、埋土は黄褐色土である。溝の位置などからSD25-3と繋がる可能性がある。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SD25-5(第36図)

調査区中央南端、標高48.07～48.54 mで検出した北西方向に走る溝。蛇行気味に南東～北西方向に伸び、検出延長1.75 m、幅44 cm、深度18 cmを測る。断面は船底形を呈し、底部には拳大～人頭大の角礫がある。埋土は黄褐色土で小礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-1(第37図)

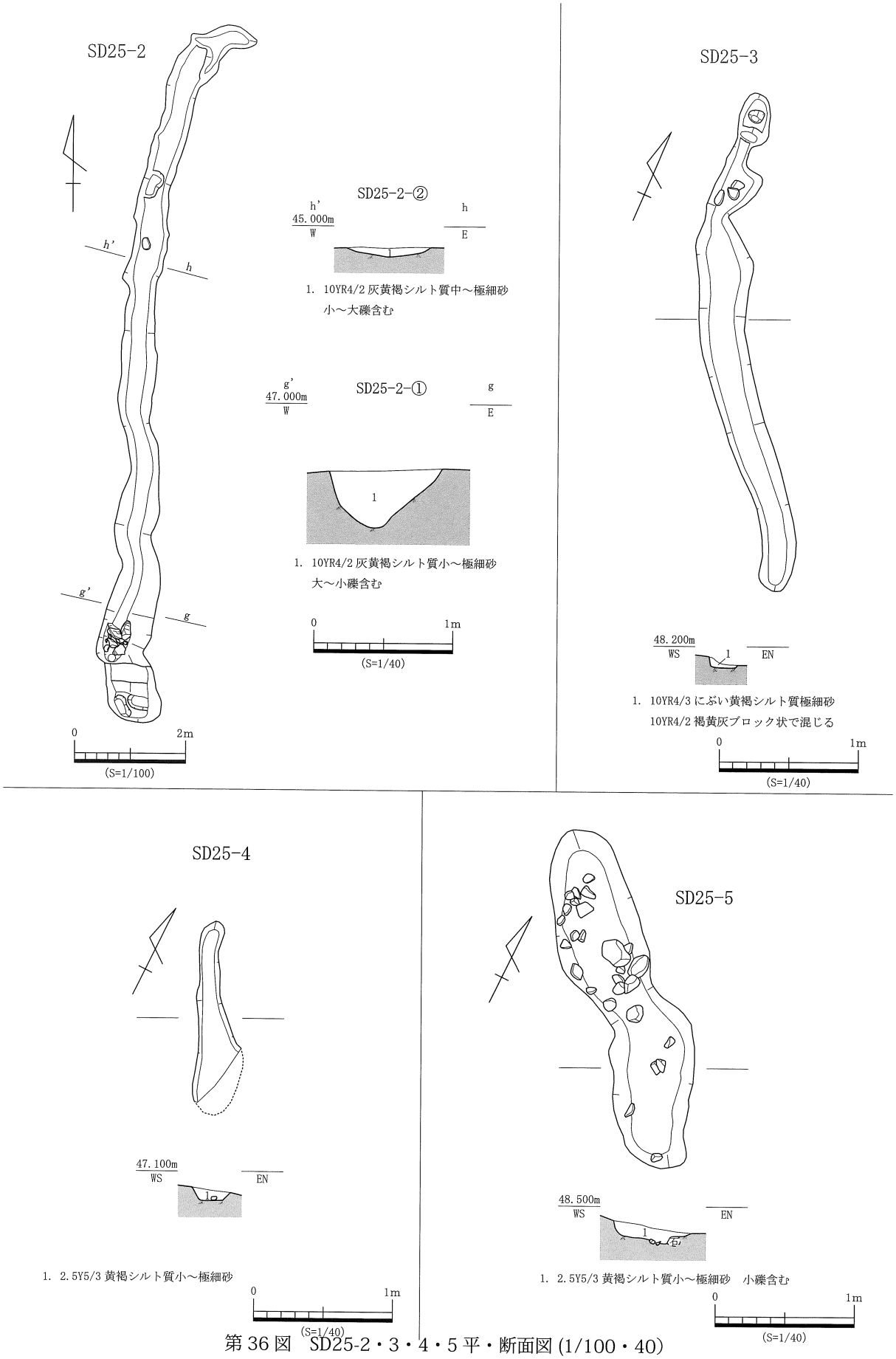
調査区東側北寄り、標高45.11 mで検出した土坑である。平面は不整形な円形を呈し、深度30 cm、長軸方向0.9 m、短軸方向0.78 mを測る。断面は船底形を呈し、埋土は2層に分かれ、上層はにぶい黄褐色土、下層は上層をブロック状に含む褐灰色土である。SD25-7を切る。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴とSD25-7を切っていることから、中世の所産と考えられる。

SK25-2(第37図)

調査区東側南端、標高48.61 mで検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、深度10 cm、長軸方向0.74 m、短軸方向0.54 mを測る。断面は船底形を呈し、埋土はやや湿りのある黄褐色土である。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-3(第37図)

調査区東側南寄り、標高48.1 mで検出した土坑である。平面は円形を呈し、深度10 cm、長軸方向0.48 m、短軸方向0.45 mを測る。断面は台形を呈す。埋土はにぶい黄褐色土である。出土遺物はない。所属時



第 36 図　SD25-2・3・4・5 平・断面図 (1/100・40)

期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-4(第37図)

調査区東側南寄り、標高48.37 mで検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、深度16 cm、長軸方向0.6 m、短軸方向0.39 mを測る。断面は船底形を呈し、底部に径10cmの柱穴のような段差を伴なう。埋土は黄褐色土である。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-5(第37図)

調査区中央南端、標高48.76 mで検出した土坑である。平面は楕円形を呈し南端は調査区外に続く。深度26 cm、長軸方向1.5 m、短軸方向0.97 mを測る。断面は台形を呈す。埋土は黄橙色土、褐灰色土で、拳大の礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-6(第37図)

調査区中央南寄り、標高48.62 mで検出した土坑である。平面は円形を呈し、深度10 cm、長軸0.52 m、短軸0.5 mを測る。断面は船底形を呈す。埋土はにぶい黄褐色土で、小礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-7(第37図)

調査区西側南寄り、標高48.5 mで検出した土坑である。平面は円形を呈し、深度10 cm、長軸0.69 m、短軸0.66 mを測る。断面は三角形を呈す。埋土はにぶい灰黄褐色土、にぶい灰黄褐色土、褐灰色土で、小礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-8(第37図)

調査区東側南寄り、標高47.9 mで検出した土坑である。平面は楕円を呈し、深度32 cm、長軸0.98 m、短軸0.41 mを測る。断面は三角形を呈す。埋土は灰黄褐色土で、褐灰色土や小礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-9(第37図)

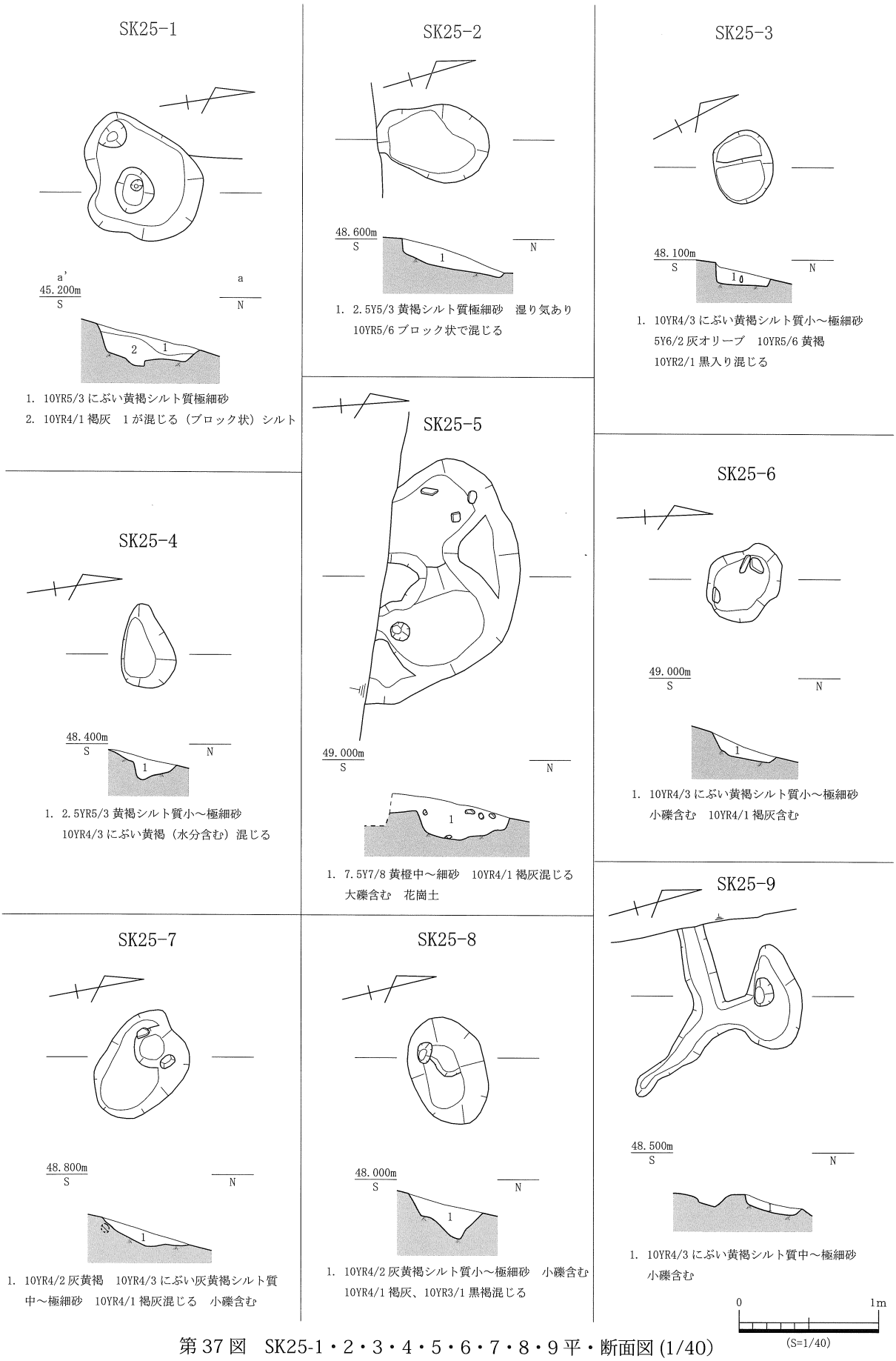
調査区西側南寄り、標高48.2 mで検出した土坑である。平面は円形を呈し、東西に伸びた溝が付く。深度6 cm、長軸0.88 m、短軸0.74 mを測る。断面は船底形を呈す。埋土はにぶい黄褐色土で、小礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-10(第38図)

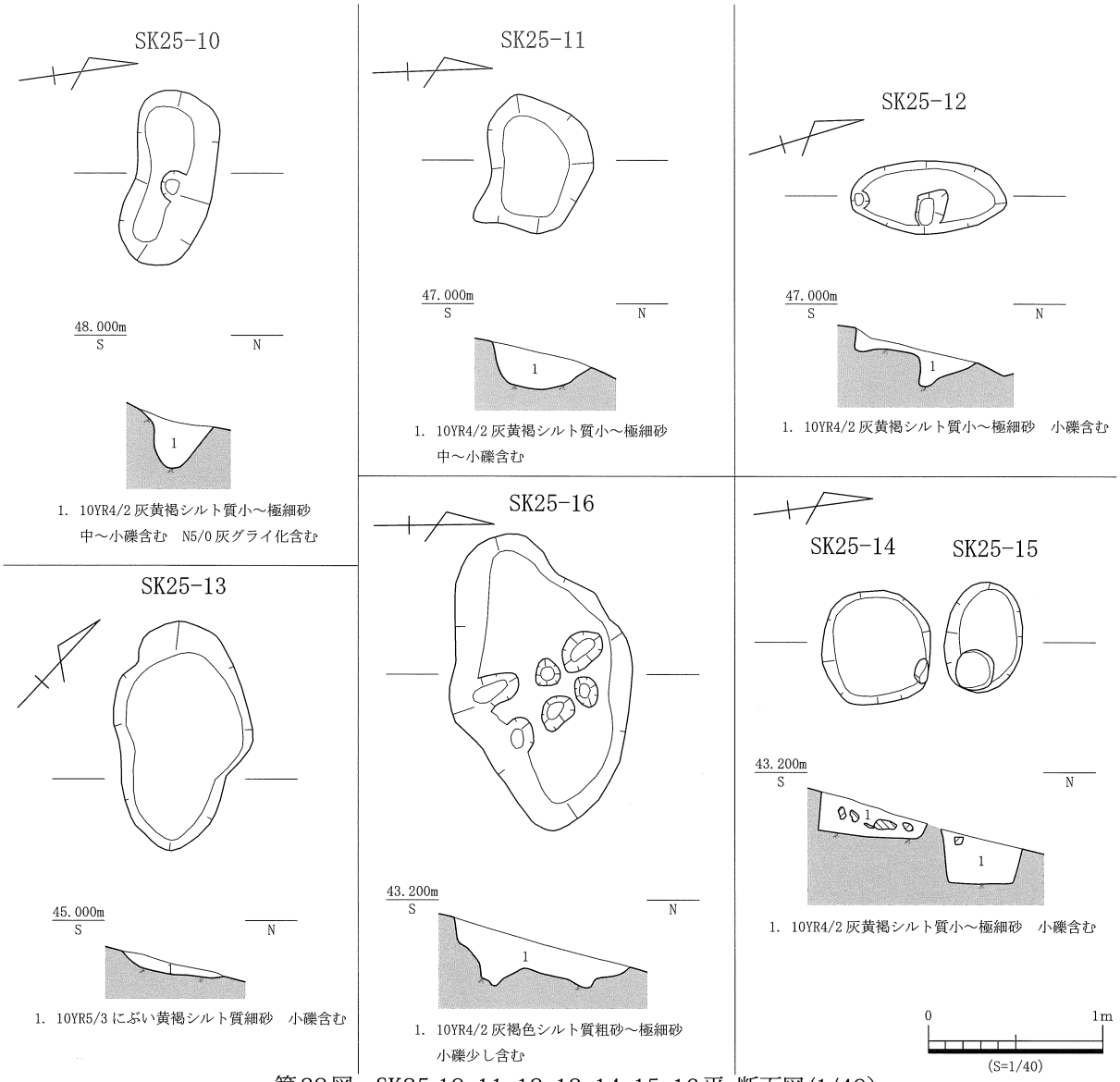
調査区南西端、標高47.58 mで検出した土坑である。平面は円形を呈し、深度28 cm、長軸0.53 m、短軸0.41 mを測る。断面はU字形を呈す。埋土は灰黄褐色土で、小～中礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-11(第38図)

調査区西側南寄り、標高46.78 mで検出した土坑である。平面は半楕円を呈し、深度22 cm、長軸0.78 m、短軸0.58 mを測る。断面は台形を呈す。埋土は灰黄褐色土で、小～中礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。



第37図　SK25-1・2・3・4・5・6・7・8・9平・断面図(1/40)



第38図　SK25-10・11・12・13・14・15・16平・断面図(1/40)

SK25-12(第38図)

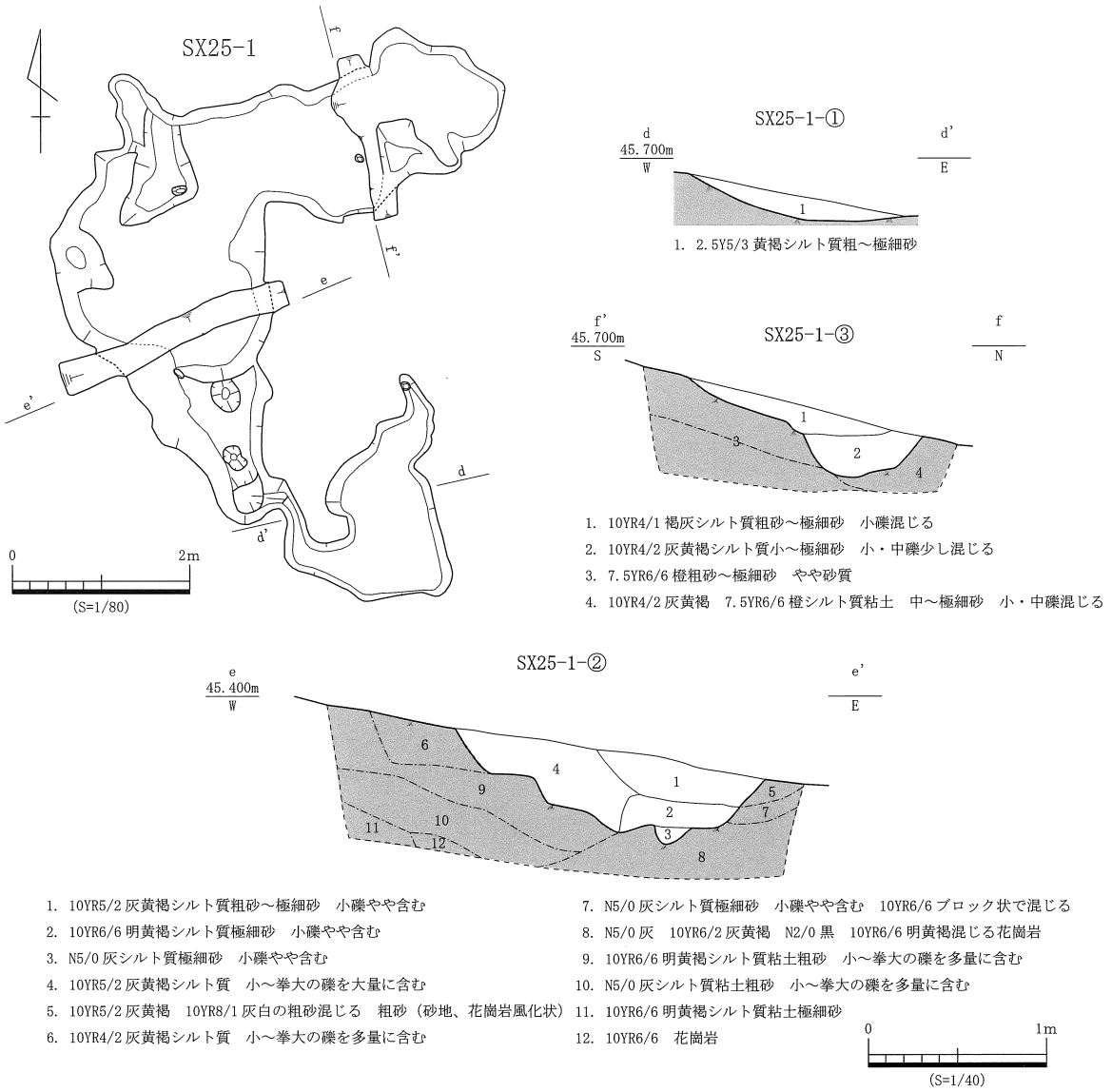
調査区西端南寄り、標高46.86 mで検出した土坑である。平面は円形を呈し、深度11・20 cm、長軸0.52 m、短軸0.5 mを測る。断面は船底形を呈し、底部に径20 cmの水溜めのような窪みがある。埋土は灰黄褐色土で、小礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-13(第38図)

調査区中央南寄り、標高44.83 mで検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、深度7 cm、長軸1.01 m、短軸0.83 mを測る。断面は船底形を呈す。埋土はにぶい黄褐色土で、小礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-14(第38図)

調査区中央北寄り、標高43.1 mで検出した土坑である。平面は円形を呈し、深度22 cm、長軸0.64 m、短軸0.63 mを測る。断面は台形を呈す。埋土は灰黄褐色土で、小礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。



第 39 図　SX25-1 平・断面図 (1/40)

SK25-15（第 38 図）

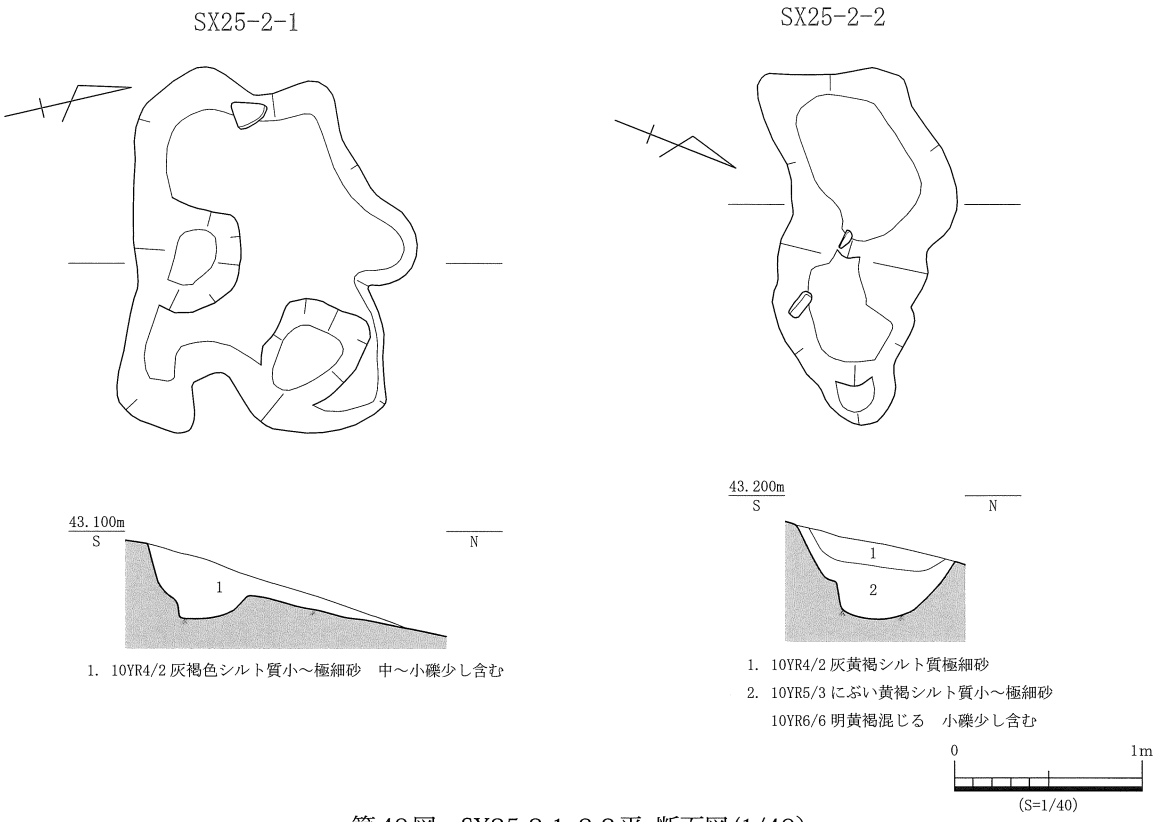
調査区中央北寄り、標高 42.9 mで検出した土坑である。平面は楕円を呈し、深度 30 cm、長軸 0.59 m、短軸 0.45 mを測る。断面は台形を呈す。埋土は灰黄褐色土で、小礫を含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SK25-16（第 38 図）

調査区中央寄り、標高 42.9 mで検出した土坑である。平面は不整形な楕円を呈し、深度 30 cm、長軸 0.59 m、短軸 0.45 mを測る。断面は船底形を呈し、底部に 20 cm程の窪みがある。埋土は灰褐色土で、小礫を少量含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SX25-1（第 39 図）

調査区中央、標高 44.11 ～ 45.58 mで検出した北方向に下る溝状遺構である。平面は南端部から北端部にかけて屈曲しており、北端部は東方向に下る。また、水溜め状のように窪みが各所にあり、段をつけ



第40図　SX25-2-1・2-2平・断面図(1/40)

ながら下っている。幅約 4.7 ㎝、深度 28 ～ 48 ㎝を測る。断面は 3 ヵ所で確認した。SX25-1- ①は船底形を呈す。埋土は黄褐色土である。SX25-1-②は台形を呈し、西側寄りに 3 段で深くなり底部は窪みがある。埋土は 4 分割され、灰黄褐色土の小～拳大の礫を多量に含む層を切る形で、小礫をやや含む灰色土、小礫をやや含む明黄褐色土、小礫をやや含む灰黄褐色土が堆積している。③は船底形を呈し、北側が 1 段深くなる。2 分割され、上層は小礫を含む褐灰色土で、一段深い層は灰黄褐色土で小礫・中礫を少し含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産であると考えられる。

SX25-2-1(第 40 図)

調査区東側北寄り、標高 42.61 ～ 43.10 m で検出した遺構である。平面は不整形な楕円を呈し、底部は水溜め状に窪む箇所が 2 ヶ所ある。長軸 2.0 m、短軸 1.56 m、深度 34 ㎝を測る。断面は南側が 1 段深く北側に向けて浅くなる。埋土は灰褐色土で、小～中礫を若干含む。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

SX25-2-2(第 40 図)

調査区東側北寄り、標高 42.71 ～ 43.07 m で検出した溝状遺構である。平面は不整形な楕円を呈し、底部に中礫が点在する。長軸 1.69 m、短軸 0.79 m、深度 40 ㎝を測る。断面は U 字形で 2 層に分かれ、下層は小礫を若干含む明黄褐色土が混ざるにぶい黄褐色土、上層は灰黄褐色土で下層を切っている。出土遺物はない。所属時期は埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

第Ⅳ章　まとめ

第１節　遺構の変遷について

弥生時代

調査地東側は谷状の地形になっており、この谷は弥生時代前期以降に埋没が始まり後期までにある程度ゆるやかな地形になったと考えられる。この段階で等高線に直交するような SD20-26 が認められ、谷を下る自然流路とも考えられるが、西に広がる微高地上に等高線に斜交するような北西方向を向く水路網（SD20-8・6 、SD24-1 など）の基幹となっていたことが伺われる。

これらの水路は調査区内において居住域や耕作地が確認できないことから、山麓の耕作地あるいは集落への配水を意図したものと考えられる。SD20-22 と SD25-3、4 については所属時期が中世に下る可能性もあるが、SD24-1、SD20-6 と等間隔で認められ、一連の水路網となることが考えられる。この時期の特筆される遺物には SD20-8、SP24-237 より出土した磨石、SD24-1 より出土した搬入品の祭祀用土器（壺形土器或いは特殊器台か）、SD20-8 より出土の製塩土器がある。この磨石については砂岩製のもので、山頂部からの転石が安山岩であることから、人為的に河原等から運ばれて来たものと考えられる。加えて 2 個とも同じ大きさで拳大よりやや小ぶりの楕円形に整形されていることから、いわゆる高地性集落で認められる投弾の可能性が指摘できる。また、搬入品の祭祀土器は近隣に墓の存在を示唆するとともに、製塩土器とあわせて他の地域や集落と交流をもった集団を想定させる。

この後、古代の遺物も若干存在することから、近隣にこの時代の遺跡が存在する可能性が考えられる。

中世

13 世紀後半～ 14 世紀前葉のテラス状遺構の SD24-2 がある。

性格は不詳だが、長さ 20 m、奥行き最大 4.4 mの規模で平地を創出したもので、基底部で検出したコの字に廻る溝跡や柱穴は、建物など構造物があったことが推定される。調査地周辺では中世山城は知られておらず、地表面の観察においても曲輪状の地形は見られない。調査範囲の制限もあり明確ではないが単独で存在する遺構のようである。眺望の優れる当地の立地から考えると、物見櫓や宗教施設などを想定されるところであるが、一方で、出土遺物からはこのような性格を示すものはなく、日常品で占められている。このことから、近隣集落と関係する臨時的な生活空間を推定しておきたい。

その他の土坑等についてはこれ以降の所産と考えられるが、水溜め状遺構などは当地が耕作地にも利用されたことを示すものと考えられる。

第 41 図　弥生時代の遺構平面図 (1/600)

第 42 図　中世の遺構平面図 (1/600)

第2節　遺跡の立地と評価

当調査地は立地上の特筆すべき点として眺望の良さが上げられ、この地からは高松平野西部ならびに広く瀬戸内海を眺める事ができる場所となっている。また、調査地南側の浄願寺山山頂や、東側の峰山山頂からは当調査地を見下ろすことができ、古墳時代には浄願寺山山頂に後期古墳群が営まれ、東の峰山山頂には猫塚等前期古墳群が築造されている。

弥生時代においては集落そのものの遺構は確認されず、水路網と思われる溝とそれに伴う遺物が出土したに留まるが、山頂部並びに下位の山麓付近には集落あるいは墓域等の存在がうかがわれる。一方で瀬戸内海を広く望める眺望の良い丘陵上の遺構は、弥生時代中期後半から後期初頭にかけて盛行する高地性集落との関連性をうかがわせる。市内での丘陵や山間部における調査事例は、古墳や山城を除けば数が少ないが、久米池南遺跡や奥ノ坊遺跡があり集落の性格を考える上で重要な遺跡となっている。前者については、いわゆる高地性集落として知られ、後者については松菊里型住居や擬朝鮮無文土器ならびに鉄器など山間部の集落における外来系文化をはじめとした他地域との交流を認められることができ、また顔型土製品などは祭祀の在り方を示すものである。当地においては、当地東側峰山山頂部では弥生時代中期後半の遺物を伴う摺鉢谷遺跡があるが、遺構等内容については不明なところが多い。一方で、谷部山頂に峰山と浄願寺山を繋ぐ馬蹄形の平坦部が認められ、さらに西側には浄願寺山より派生する尾根部も存在する。このような立地には、既に竪穴式石郭をもつとされる野山古墳群が知られているが、今回の調査結果を考え合わせると既述したように弥生時代における集落或いは祭祀遺構の存在も想定でき、今回の調査では祭祀用とみられる土器や投弾の可能性がある磨石が出土しており、今後の調査の進展が待たれる。

なお、当地で採取した粘土及び香東川下流域産土器胎土分析の結果、香川県下流域産土器の製作地として当地周辺が想定された（小川 2004）。一方で、今回の当調査結果においては粘土採取跡や土器焼成などの土器製作にかかる痕跡は認められなかった。また当調査出土の弥生時代後期の土器についても香東川下流域産土器のものは必ずしも主体的ではなく、香東川下流域産土器の胎土が採取可能な立地ではあるものの、現状では土器製作に結び付く材料にとぼしい。これに加えて、本遺跡の西に所在する佐料遺跡においては、当該期の香東川下流域産の胎土のものは主体的ではないことが明らかになっており、これとは別に複数の土器製作地が存在する可能性が考えられている。（渡邊 2012）本遺跡は浄願寺山の北麓に立地するが、浄願寺山南麓周辺の遺跡においては、香東川下流域産の土器が独占的であり、資料数に制限があるものの対照的な状況を示しているとも考えられる。今後の浄願寺山北麓ならびに西側に広がる平野の遺跡に関する調査の蓄積が今後の課題であるといえよう。

中世においては周辺で城跡などの所在は知られていないが、当地から香西氏の居城である佐料城ならびに勝賀城、藤尾城ほか香西氏の治めた香西浦海域を一望できる。今回確認したテラス状遺構と併存する時期の遺跡としては、居館跡と考えられる西打遺跡が知られており、このような眼下の遺跡或いは集落と関連してその解明が望まれる。

第43図　遺跡周辺赤色立体図(1/5,000)

参考文献

1. 佐藤竜馬『国分寺楠井遺跡』(財)香川県埋蔵文化財調査センター　1995
2. 松本和彦『松並・中所遺跡』香川県教育委員会　2000
3. 佐藤竜馬『空港跡地遺跡Ⅳ』香川県教育委員会　2003
4. 小川賢・山元敏裕『宗高坊城遺跡』高松市教育委員会　2004
5. 中西克也・中村茂央『藤尾城跡　作山城跡』高松市教育員会　2008
6. 渡邊誠・舩築紀子・池見渉『北山浦遺跡』高松市教育委員会　2012
7. 波多野篤・渡邊誠『佐料遺跡』高松市教育委員会ほか　2014
8. 佐藤竜馬『高松平野と周辺地域における中世土器編年』 2000
9. 菅原康夫・梅木謙一『弥生土器の様式と編年―四国編―』株式会社木耳社　2000
10. 中世土器研究会編『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社　1995
11. 第18回古代学協会四国支部大会徳島大会事務局『弥生社会の群像―高地性集落の実態―』
考古学協会四国支部　2004
12. 柴田昌児「高地性集落と山住みの集落」『考古資料大観10』小学館 2004

第４表　第１次調査遺構観察表①

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SK20-1	41.6	0.62	0.43	0.1	円	—	—	—	—
SK20-2	41.4	0.97	0.65	0.2	不整形円形	—	—	—	—
SK20-3	40.5	1.43	1.0	0.33	不整形楕円形	—	—	—	—
SK20-4	40.5	1.07	0.76	0.2	不整形楕円形	—	—	—	—
SK20-5	41.1	0.95	0.34	0.14	楕円	—	SK20-6を切る	—	—
SK20-6	40.1	0.82	0.52	0.2	楕円	—	SK20-7を切る, SK20-5に切られる	—	足釜脚部
SK20-7	41.0	1.0	0.49	0.08	楕円	—	SK20-6に切られる	—	—
SK20-8	40.8	0.66	0.64	0.3	不整形円形	—	—	—	—
SK20-9	—	1.42	1.3	—	不整形円形				
SK20-10	38.3	0.88	1.03	0.3	円	—	—	—	弥生土器片，土師質土器片
SK20-11	38.8	0.5	0.41	—	円	—	—	—	—
SK20-12	39.8	2.47	1.58	0.37	不整形楕円形	—	SD20-5に切られる	—	弥生土器片，土師質土器片
SK20-13	38.8	1.28	0.43	0.17	楕円	—	SD20-8を切る	—	弥生土器片，土師質土器片
SK20-14	38.9	0.7	0.64	0.18	円	—	—	—	—
SK20-15	38.6	3.0	3.13	—	不整形	—	SD20-10に切られる	—	弥生土器片
SK20-16	39.7	3.43	1.58	0.3	楕円	—	SD20-8,10に切られる	—	弥生土器片
SK20-17	40.6	1.02	0.84	0.27	円	—	—	—	—
SK20-18	40.1	0.76	0.5	0.5	不整形円形	船底形	—	第19図参照	甕(弥生土器)
SK20-19	38.0	0.88	0.7	0.24	不整形円形	—	SD20-13を切る	—	—
SK20-20	38.7	0.63	0.46	0.16	円	—	SD6を切る	—	土師質土器片
SK20-21	38.5	1.0	0.6	0.18	長方形	—	SD6を切る	—	土師質土器片
SK20-22	38.2	0.76	0.5	0.2	円	船底形	—	第19図参照	杯(土師質土器)
SK20-23	38.9	1.43	1.38	0.3	不整形円形	—	—	—	土師質土器片
SK20-24	38.6	0.44	0.43	—	円	—	—	—	土師質土器片
SK20-25	38.8	2.0	—	0.1	不明	—	SD20-8,10に切られる	—	—
SK20-26	40.5	0.72	0.51	—	不整形円形	—	—	—	—
SK20-27	41.5	1.14	0.58	0.13	不整形楕円形	—	—	—	—
SK20-28	41.5	0.42	0.29	0.11	楕円	—	—	—	—
SK20-29	41.7	0.46	0.45	0.19	不整形円形	—	—	—	緑釉土器片
SK20-30	41.1	1.62	1.12	0.33	楕円	—	—	—	土師質土器片
SK20-31	40.7	0.5	0.5	0.17	円	—	—	—	—
SK20-32	40.7	2.73	1.2	0.34	楕円	—	—	—	—
SK20-33	40.0	0.37	0.3	0.11	円	—	—	—	—
SK20-34	40.1	0.37	0.31	0.11	円	—	—	—	—
SK20-36	40.5	0.77	0.59	0.16	円	—	—	—	—
SK20-38	41.6	1.42	0.47	0.2	不整形楕円形	—	—	—	—
SK20-39	41.1	0.44	0.33	0.14	円	—	—	—	—
SK20-40	40.6～41.4	2.9	1.2	0.2	楕円	—	SK20-41に切られる	—	—
SK20-41	41.2	0.75	0.49	0.22	円	—	SK20-40を切る	—	—
SK20-42	40.9～41.1	1.4	0.52	0.26	長方形	—	—	—	—

第５表　第１次調査遺構観察表②

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SK20-43	40.9	0.66	0.62	0.19	円	—	—	—	—
SK20-44	40.6	3.27	1.45	0.27	楕円	—	—	—	—
SK20-45	39.6	1.17	0.55	0.14	楕円	—	—	—	—
SK20-46	39.2	1.2	0.43	0.16	楕円	—	—	—	—
SK20-47	42.0	0.73	0.45	0.32	楕円	—	—	—	土師質土器片
SK20-48	41.0～41.6	2.83	2.31	0.53	円	—	SK20-79に切られる	—	—
SK20-49	41.3～41.6	14.6	0.86	0.27	不整形楕円形	—	SK20-50に切られる	—	—
SK20-50	41.4～41~6	14.5	11.6	0.16	楕円	—	SK20-49を切る	—	—
SK20-51	40.9	13.7	0.95	0.34	楕円	—	—	—	—
SK20-52	40.9	1.37	1.07	0.17	不整形円形	—	—	—	—
SK20-53	39.9	0.78	0.52	0.7	楕円	—	—	—	—
SK20-54	39.4	0.64	0.48	0.23	円	—	—	—	—
SK20-55	39.3	0.81	0.43	0.09	不整形円形	—	—	—	—
SK20-56	39.0	0.9	0.57	0.16	楕円	—	—	—	—
SK20-57	38.7	0.8	0.38	0.32	半円	—	北側調査区枠にあたる	—	—
SK20-58	39.3	0.6	0.88	0.18	楕円	—	—	—	—
SK20-59	39.0	0.45	0.47	0.15	円	—	—	—	—
SK20-60	39.3	1.17	0.83	0.37	不整形円形	—	SD20-18を切る	—	土師質土器片
SK20-61	39.6	1.35	0.94	0.21	不整形円形	—	SD20-29を切る	—	—
SK20-62	39.0	0.48	0.26	0.12	円	—	—	—	—
SK20-64	39.2	0.66	0.6	0.21	不整形円形	—	—	—	—
SK20-65	39.7～40.2	1.2	0.94	0.2	円	船底形	—	第19図参照	—
SK20-66	40.0	0.7	0.8	0.51	円	—	—	—	—
SK20-67	39.9	0.37	0.35	0.22	円	—	—	—	—
SK20-68	45.2	0.94	0.58	0.33	楕円	—	SK20-85に切られる	—	—
SK20-69	39.0	2.16	0.73	0.15	楕円	—	—	—	—
SK20-70	44.2～44.7	2.16	0.73	0.2	楕円	—	SK20-80に切られる	—	土師質土器片
SK20-71	43.9	0.84	0.6	0.3	円	—	—	—	—
SK20-72	44.6	0.59	0.45	0.7	長方形	—	—	—	—
SK20-73	44.9	0.67	0.41	0.23	長方形	—	SK20-74を切る	—	—
SK20-74	45.0	0.6	0.6	0.27	楕円	—	SK20-73に切られる	—	炭
SK20-75	45.0	0.64	0.48	0.12	楕円	—	SK20-74に切られる	—	—
SK20-76	45.1	0.74	0.57	0.14	楕円	—	SK20-75,85に切られる	—	—
SK20-77	45.0	0.68	0.51	0.24	円	—	—	—	—
SK20-78	45.3	0.7	0.4	0.14	不整形円形	—	—	—	—
SK20-79	40.8	0.82	0.66	0.2	円	台形		第19図参照	弥生土器片，骨
SK20-80	44.7	0.8	0.44	0.1	楕円	—	SK20-70を切る	—	—
SK20-82	47.2	1.04	0.86	0.29	楕円	—	SK20-83を切る	—	—
SK20-83	47.0	0.48	0.44	0.16	円	—	SK20-82に切られる	—	—
SK20-84	47.4	1.95	0.9	0.12	楕円	—	SD20-28を切る,SD20-30に切られる	—	—

第６表　第１次調査遺構観察表③

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SK20-85	45.2	0.57	0.48	0.48	円	—	SK20-76,68を切る	—	—
SK20-86	39.9	0.7	0.42	0.26	楕円	—	—	—	—
SK20-87	40.1	0.4	—	0.21	不整形	—	SK20-88と繋がる	—	—
SK20-88	40.2	1.11	0.83	0.12	不整形円形	—	SK20-87と繋がる	—	—
SP20 -2	40.5	0.26	0.2	0.1	円	—	—	—	—
SP20 -3	40.8	0.28	0.18	0.13	楕円	—	—	—	—
SP20 -4	40.3	0.2	0.18	0.21	円	—	—	—	—
SP20 -6	40.3	0.32	0.26	0.13	円	—	—	—	—
SP20 -7	40.2	0.2	0.17	0.15	円	—	—	—	—
SP20 -8	40.7	0.28	0.2	0.16	楕円	—	—	—	—
SP20-12	39.6	0.24	0.18	0.08	円	—	—	—	—
SP20-13	39.6	0.2	0.31	0.1	不整形円形	—	—	—	—
SP20-14	39.6	0.15	0.1	0.03	不整形円形	—	—	—	—
SP20-15	39.6	0.16	0.16	0.07	円	—	—	—	—
SP20-16	39.6	0.14	0.14	0.07	円	—	—	—	—
SP20-17	39.7	0.36	0.36	0.18	円	—	SP20-18を切る	—	—
SP20-18	39.7	1.6	1.0	0.07	円	—	SP20-17に切られる	—	—
SP20-20	38.8	0.24	0.2	0.08	円	—	—	—	—
SP20-21	38.9	0.28	0.17	0.15	楕円	—	—	—	—
SP20-22	45.7	0.26	0.17	0.12	不整形円形	—	—	—	—
SD20 -1	39.4～40.8	0.65	0.44	0.1	直線	台形	—	第15図参照	—
SD20 -2	39.3～39.8	3.0	0.5	0.12	直線	台形		第15図参照	—
SD20 -3	38.9～39.2	8.72	0.7	0.1	直線	船底形	南側調査区枠にあたる	第17図参照	弥生土器片，土師質土器片
SD20 -4	38.3～39.0	3.48	0.35	0.1	直線	船底形	—	第17図参照	弥生土器片
SD20 -5	38.8～39.6	3.7	0.16	0.1	直線	台形	—	第17図参照	—
SD20 -6	38.1～40.9	17.4	0.7	0.3	直線	台形	—	第15図参照	甕・壺・破片(弥生土器)，その他破片
SD20 -7	37.8～40.0	2.0	0.29	0.2～0.5	直線	台形	SD20-8に切られる	第14図参照	高坏(弥生土器)
SD20 -8	37.8～40.0	18.7	0.7	0.2～0.5	直線	U字形	SD20-7,13,27を切る	第14図参照	高坏・甕・壺・破片(弥生土器)，甕(土師質土器)，その他砕片
SD20 -9	37.8～40.0	3	0.53	0.2～0.5	直線	—	SD20-10と繋がる	—	弥生土器片，その他砕片
SD20-10	37.8～40.0	10.7	0.67	0.2～0.5	直線	U字形	SD20-11と繋がる	第14図参照	土師質土器片
SD20-11	37.8～40.0	2.65	0.47	0.2～0.5	直線	船底形	SD20-10と繋がる	第14図参照	弥生土器片，土師質土器片
SD20-12	38.8	3.6	0.62	0.08	直線	—	SD20-6と繋がる	—	—
SD20-13	37.8～40.0	2.35	0.35	0.2～0.5	直線	U字形	SD20-8,27に切られる SD20-10と繋がる	第15図参照	破片
SD20-14	39.3～40.0	2.38	0.4	0.2	不定形直線	不整形	—	第18図参照	土師質土器片
SD20-15	40.0	1.6	0.4	0.1	直線	—	—	—	—
SD20-16	38.9	2.6	0.14	0.08	直線	—	—	—	弥生土器片
SD20-17	39.4	0.8	0.11	0.05	直線	—	—	—	—
SD20-18	39.3	0.7	0.18	0.04	直線	—	SK20-60に切られる	—	—

第７表　第１次調査遺構観察表④

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SD20-19	39.9	1.03	0.7	0.12	直線	—	SK20-20と繋がる	—	—
SD20-20	39.7	0.5	0.17	0.1	直線	—	SK20-19と繋がる	—	—
SD20-21	39.3	0.8	0.35	0.12	直線	—		—	—
SD20-22①	41.8～44.3	9.13	0.37	0.2	直線	台形	—	第16図参照	—
SD20-22②	41.8～44.3	1.3	0.3	0.2	直線	台形	—	第16図参照	—
SD20-23	41.8～44.3	1.75	0.2	0.2	直線	台形	—	第16図参照	—
SD20-24	38.0～39.0	3.25	1.65	0.25	直線	船底形	—	第18図参照	弥生土器片
SD20-25	36.0～36.6	4.3	1.5	0.13	直線	—	—	—	—
SD20-26	36.2～38.8	10.0	1.52	0.2～0.4	直線	台形	—	第12図参照	—
SD20-27	37.8～40.0	2.8	0.66	0.2～0.5	直線	—	SD20-13を切る,SD20-8に切られる	—	—
SD20-28	—	1.0	0.75	0.23	直線	—	SK20-84に切られる	—	—
SD20-29	38.9～39.5	3.28	0.17	0.07	直線	—	SK20-61に切られる	—	—
SD20-30	47.3～47.6	2.3	0.36	0.17	直線	—	SX20-4に繋がる,SK20-83に切られる	第21図参照	—
SX20-1	41.8～42.7	—	—	0.2	—	—	SD24-2と繋がる	第19図参照	
SX20-4	47.4～48.0	1.7	1.32	0.4～0.5	不整形	船底形	SD20-30と繋がる,西側調査区枠にあたる SD24-1と繋がる	第21図参照	弥生土器片、杯・破片(土師質土器)

第８表　第２次調査遺構観察表

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SK23-23	42.5	0.95	0.7	0.5	不整形円形	V字形	西側途切れる。	第24図参照	—
SK23-24	40.9～41.7	1.67	1.22	0.8	長方形	船底形	—	—	—
SD23-01	41.6	0.87	0.35	0.13	直線	台形	—	—	—
SD23-03	40.9～41.6	—	—	0.32	直線	台形	SD20-6に繋がる。	第24図参照	—
SD23-04	40.3～40.5	—	—	—	直線	—	SD20-13に繋がる。	—	—
SD23-05	41.7～41.9	0.7	0.45	0.12	直線	船底形	南側途切れる。	—	—
SR23-01	41.0～48.8	12.36	3.1	0.65	—	不定形台形	東側が南側調査区枠にあたる。	第24図参照	—

第９表　第３次調査遺構観察表①

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SK24-1	42.1	0.94	0.88	0.2	円形	船底形	—	第31図参照	土師質土器片
SK24-2	41.8	2.43	1.4	0.3	不整形	—	SD24-2に切られる	—	—
SK24-3	41.0	0.81	0.54	0.2	楕円形	—	—	—	—
SK24-4	41.0	0.81	0.7	0.3	円形	—	—	—	—
SK24-5	40.7	0.83	0.77	0.2	円形	—	—	—	—
SK24-6	41.7	1.5	1.11	0.3	円形	船底形	SD24-2-1に切られる	—	土師質土器片
SK24-7	41.5	0.56	0.37	0.15	不整形円形	—	—	—	—
SK24-8	42.0	0.28	0.23	0.1	円形	—	—	—	—
SK24-9	41.5	0.55	0.45	0.3	円形	—	—	—	—
SK24-10	41.0	0.64	0.64	0.3	円形	—	—	—	土師質土器片
SK24-11	40.7	2.02	1.05	0.3	不整形円形	—	P24-38を切る	—	—
SK24-12	41.3	0.57	0.73	0.3	円形	—	—	—	—
SK24-14	44.1	1.07	0.8	0.1	不整形円形	不整形	—	—	—
SK24-15	43.8	0.84	0.62	0.4	不整形円形	—	—	—	—
SK24-16	44.2	1.59	0.39	0.2	楕円形	—	—	—	—
SK24-17	44.0	0.79	0.69	0.2	円形	—	—	—	—
SK24-18	45.3	1.69	0.47	0.2	楕円形	—	SD24-7を切る	—	—
SK24-19	45.4	0.79	0.3	0.2	楕円形	—	—	—	—
SK24-21	46.0	14.5	0.81	0.3	長方形	台形	SD24-1-2に切られる	—	—
SK24-22	47.5	1.07	0.81	0.2	円形	—	—	—	—
SK24-23	47.5	1.3	1	0.3	円形	—	—	—	—
SK24-24	48.0	0.88	0.67	0.2	楕円形	—	—	—	—
SK24-25	47.0	0.64	0.55	0.3	円形	—	—	—	—
SK24-26	46.7	0.53	0.51	0.25	円形	—	—	—	—
SK24-27	46.5	1.05	0.75	0.3	楕円形	—	—	—	—
SK24-28	47.0	0.72	0.42	0.2	楕円形	—	—	—	—
SK24-29	47.2	1.16	0.72	0.3	不整形円形	—	SP24-89と繋がる	—	—
SK24-30	43.5	0.94	0.31	0.1	円形	—	SD24-1-2に切られる	—	—
SK24-32	45.6	0.33	0.29	0.6	円形	—	西側調査区枠にあたる	—	—
SK24-33	46.0	0.71	0.44	0.6	楕円形	—	—	—	—
SK24-34	44.8	0.19	0.13	0.5	楕円	—	—	—	—
SK24-35	44.0	0.74	0.62	0.15	円形	—	—	—	—
SK24-36	43.2	0.92	0.69	0.3	楕円	—	—	—	—
SK24-37	44.8	1.3	0.87	0.2	不整形円形	—	SD24-6,SP24-113に切られる	—	土師質土器(杯,破片)
SK24-38	41.8	0.79	0.65	0.1	円形	—	—	—	土師質土器片
SK24-39	42.0	0.75	0.32	0.07	楕円形	—	—	—	—
SP24-1	41.7	0.3	0.29	0.2	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-2	41.6	0.17	0.17	0.1	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-3	41.3	0.25	0.23	0.3	円形	—	—	—	—
SP24-4	41.3	0.2	0.19	0.3	円形	—	—	—	土師質土器片

第 10 表　第 3 次調査遺構観察表②

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SP24-5	41.1	0.19	0.15	0.3	円形	U字形	—	—	—
SP24-6	41.2	0.3	0.29	0.2	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-7	41.2	0.25	0.15	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-8	40.6	0.17	0.16	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-9	40.6	0.11	0.1	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-10	40.4	0.63	0.3	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-11	41.3	0.22	0.15	0.4	円形	—	—	—	弥生土器片
SP24-12	41.0	0.25	0.21	0.3	円形	U字形	—	—	土師質土器片
SP24-13	40.5	0.2	0.19	0.3	円形	—	—	—	—
SP24-14	40.9	0.24	0.19	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-15	40.8	0.21	0.2	0.07	円形	—	—	—	—
SP24-16	40.8	0.23	0.22	0.07	円形	—	—	—	—
SP24-17	40.8	0.34	0.21	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-18	40.7	0.18	0.17	0.2	円形	—	SP24-19と繋がる	—	—
SP24-19	40.7	0.17	0.15	0.1	円形	—	SP24-18と繋がる	—	—
SP24-20	41.2	0.27	0.24	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-21	41.4	0.11	0.11	0.07	円形	—	—	—	—
SP24-22	41.5	0.28	0.26	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-23	41.4	0.44	0.2	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-24	41.6	0.32	0.26	0.4	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-25	41.7	0.25	0.21	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-26	41.9	0.36	0.21	0.6	楕円形	—		—	土師質土器片
SP24-27	40.8	0.22	0.2	0.16	円形	—	—	—	—
SP24-28	41.0	0.18	0.15	0.16	円形	—	—	—	—
SP24-29	40.6	0.31	0.27	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-30	41.1	0.26	0.25	0.2	円形	—	—	—	足釜,杯(土師質土器)
SP24-31	41.6	0.31	0.28	0.3	円形	—	—	—	—
SP24-32	41.7	0.28	0.26	0.4	円形	U字形	—	—	土師質土器片
SP24-33①	41.8	0.33	0.15	0.1	楕円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-33②	41.8	0.52	0.2	0.3	楕円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-34	41.5	0.39	0.38	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-35	41.1	0.15	0.15	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-36	41.1	0.18	0.18	0.08	円形	—	—	—	—
SP24-37	40.9	0.26	0.25	0.15	円形	—	—	—	—
SP24-38	41.0	0.4	0.37	0.2	円形	—	SK11に切られる	—	—
SP24-39	41.5	0.27	0.26	0.07	円形	—	—	—	—
SP24-40	41.6	0.21	0.18	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-41	42.7	0.68	0.41	0.35	楕円形	—	—	—	—
SP24-42	43.0	0.28	0.26	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-43	43.3	0.59	0.51	0.1	円形	—	—	—	—

第 11 表　第 3 次調査遺構観察表③

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SP24-44	43.6	0.2	0.19	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-45	43.2	0.28	0.26	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-46	43.1	0.21	0.21	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-47	43.4	0.19	0.17	0.05	円形	—	—	—	—
SP24-48	43.4	0.18	0.16	0.06	円形	—	—	—	—
SP24-49	43.4	0.26	0.18	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-50	43.5	0.25	0.24	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-51	43.6	0.33	0.31	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-52	43.7	0.33	0.28	0.06	円形	—	—	—	—
SP24-53	43.7	0.29	0.25	0.08	円形	—	—	—	—
SP24-54	43.9	0.34	0.32	0.04	円形	—	—	—	—
SP24-55	44.0	0.48	0.37	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-56	43.8	0.32	0.22	0.16	楕円形	—	—	—	—
SP24-57	44.1	0.25	0.25	0.15	円形	—	—	—	—
SP24-58	44.0	0.28	0.26	0.1	不整形円形	—	SP24-59と繋がる	—	—
SP24-59	44.1	0.57	0.32	0.2	不整形円形	—	SP24-58と繋がる	—	—
SP24-60	44.1	0.33	0.25	0.2	楕円形	—	—	—	—
SP24-61	44.4	0.2	0.16	0.1	楕円形	—	—	—	—
SP24-62	44.3	0.36	0.35	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-63	44.5	0.25	0.2	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-64	44.5	0.31	0.29	0.1	円形	—	SD24-6を切る	—	—
SP24-65	44.5	0.29	0.27	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-66	44.6	0.11	0.11	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-67	44.6	0.28	0.24	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-68	44.8	0.28	0.21	0.4	楕円	—	—	—	—
SP24-69	44.9	0.26	0.22	0.15	楕円形	—	—	—	—
SP24-70	44.9	0.31	0.29	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-71	45.0	0.75	0.2	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-72	45.4	0.34	0.29	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-73	46.4	0.26	0.23	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-74	47.6	0.48	0.45	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-75	47.7	0.41	0.35	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-76	46.4	0.46	0.49	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-77	47.2	0.19	0.19	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-78	47.1	0.29	0.25	0.3	円形	—	—	—	—
SP24-79	46.7	0.21	0.18	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-80	47.1	0.41	0.28	0.05	円形	—	—	—	—
SP24-81	46.9	0.21	0.2	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-82	46.9	0.19	0.15	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-83	46.8	0.2	0.21	0.1	円形	—	—	—	—

第 12 表　第 3 次調査遺構観察表④

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SP24-84	46.7	0.14	0.13	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-85	46.7	0.34	0.3	0.15	円形	—	—	—	—
SP24-86	46.5	0.28	0.28	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-87	46.6	0.18	0.11	0.2	楕円形	—	—	—	—
SP24-88	47.9	0.14	0.13	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-90	47.3	0.28	0.25	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-91	47.2	0.91	0.24	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-92	46.8	0.41	0.36	0.15	円形	—	—	—	—
SP24-93	46.7	0.39	0.31	0.15	円形	—	—	—	—
SP24-94	45.6	0.38	0.33	0.15	円形	—	—	—	—
SP24-95	45.7	0.51	0.5	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-96	45.7	0.24	0.22	0.05	円形	—	—	—	—
SP24-97	44.7	0.41	0.38	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-98	44.3	0.31	0.3	0.15	円形	—	—	—	—
SP24-99	44.4	0.29	0.25	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-100	44.1	0.41	0.39	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-101	43.4	0.22	0.17	0.2	楕円	—	—	—	—
SP24-102	43.2	0.26	0.22	0.2	円形	—		—	—
SP24-104	43.8	0.37	0.27	0.07	円形	—	—	—	—
SP24-105	45.1	0.19	0.18	0.08	円形	—	—	—	土師質土器片,その他破片
SP24-106	43.4	0.39	0.27	0.05	楕円形	—	—	—	—
SP24-107	43.3	0.28	0.26	0.1	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-108	43.1	0.57	0.51	0.42	円形	—	—	—	—
SP24-109	41.6	0.35	0.48	0.08	楕円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-110	41.7	0.2	0.16	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-111	41.0	0.23	0.22,	0.2	円形	—	—	—	
SP24-113	44.8	0.23	0.22	0.2	円形	—	SK24-37を切る	—	—
SP24-114	43.2	0.63	0.54	0.1	円形	—		—	土師質土器片
SP24-200	41.8	0.37	0.35	0.4	円形	U字形	—	—	—
SP24-201	41.8	0.28	0.28	0.1	楕円形	—	—	—	—
SP24-202	41.8	0.48	0.31	0.3	楕円形	—	—	—	—
SP24-203	41.8	0.42	0.32	0.15	不整形円形	—	—	—	—
SP24-204	41.8	0.3	0.28	0.2	円形	—	SD24-3を切る	—	—
SP24-205	41.8	0.27	0.15	0.1	楕円形	—	—	—	—
SP24-206	41.8	0.31	0.26	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-207	41.9	0.47	0.43	0.3	不整形円形	—	SD24-2-7を切る	—	—
SP24-208	41.9	0.33	0.27	0.45	円形	U字形	—	—	土師質土器片
SP24-209	41.9	0.11	0.1	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-210	41.9	0.13	0.13	0.3	円形	—	SD24-2-7を切る	—	土師質土器片
SP24-211	41.8	0.2	0.2	0.1	円形	—	SD24-2-2を切る	—	—

第 13 表　第 3 次調査遺構観察表⑤

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SP24-212	42.0	0.32	0.3	0.4	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-213	41.9	0.22	0.19	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-214	41.9	0.22	0.18	0.1	円形	—	—	—	—
SP24-215	41.8	0.28	0.27	0.4	円形	—	SD24-2-8を切る	—	土師質土器片
SP24-216	41.8	0.14	0.11	0.2	円形	U字形	—	—	—
SP24-217	41.8	0.21	0.19	0.3	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-218	41.8	0.3	0.28	0.2	円形	U字形	SD24-2-6を切る	—	—
SP24-219	41.8	0.28	0.28	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-220	41.9	0.31	0.3	0.2	円形	台形	SD24-2-10を切る	—	土師質土器片
SP24-221	42.0	0.24	0.24	0.1	円形	—	SD24-2-11を切る	—	—
SP24-222	42.0	0.18	0.17	0.1	円形	—	SD24-2-8を切る	—	—
SP24-223	41.9	0.26	0.26	0.3	円形	—	—	—	—
SP24-224	41.9	0.14	0.14	0.05	円形	—	—	—	—
SP24-225	41.8	0.26	0.23	0.2	円形	—	—	—	—
SP24-226	41.8	0.18	0.15	0.25	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-227	41.8	0.4	0.24	0.35	円形	U字形	—	—	—
SP24-228	41.8	0.14	0.13	0.02	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-229	41.8	0.27	0.23	0.2	円形	—	—	—	須恵質土器(片口(口縁部)),土師質土器片
SP24-230	41.8	0.19	0.13	0.1	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-231	41.8	0.26	0.25	0.5	円形	—	—	—	土師質土器(小皿),土師質土器片
SP24-232	41.8	0.13	0.11	0.2	円形	—	—	—	土師質土器片
SP24-233	41.9	0.23	0.19	0.02	不整形円形	—	SP24-234と繋がる SD24-2-10に切られる	—	—
SP24-234	41.9	0.24	0.18	〃	円形	—	SP24-233と繋がる SD24-2-10に切られる	—	—
SP24-235	41.8	0.14	0.12	0.1	円形	U字形	—	—	土師質土器片
SP24-236	41.9	0.16	0.16	0.03	円形	—	—	—	—
SP24-237	41.8	0.23	0.2	0.15	円形	台形	SD24-2-6を切る	—	叩き石,土師質土器片
SP24-238	41.9	0.16	0.16	0.1	円形	台形	—	—	小皿(土師質土器)
SP24-239	41.9	0.43	0.32	0.1	円形	—	SD24-2-10を切る	—	—
SP24-240	41.9	0.19	0.19	0.03	円形	—	—	—	—
SD24-1-1	41.9 ～47.0	25.87	1.67	0.5	直線	台形	—	第27図参照	弥生土器片,土師質土器片
SD24-1-2	41.9 ～47.0	28.5	0.86	0.5 0.3 0.1	直線	船底形・U字形	SK24-21,SK24-30, SX24-2,SD1-1を切る SD24-1-1,SP24-107に切られる	第27図参照	弥生土器片,土師質土器片
SD24-2-1	41.6 ～42.0	11.95	0.6	0.1 0.1	直線	—	SD24-2-2,SK24-6を切る SD24-2-8に切られる	第28図参照	土師質土器(足釜,杯,小皿,破片),須恵質土器片,その他破片
SD24-2-2	41.6 ～42.0	0.78	0.45	0.05	直線	—	SD24-2-3,2-4を切る SP24-211に切られる	第28図参照	土師質土器(足釜(脚部),杯,甕(口縁部),小皿,
SD24-2-3	41.6 ～42.0	0.98	0.12	0.02 0.02	直線	—	S24D2-2に切られる,SD24-2-4と交わる	第28図参照	—
SD24-2-4	41.6 ～42.0	1	0.37	0.02	直線	—	SD24-2-2に切られる,SD24-2-3と交わる	第28図参照	—
SD24-2-6	41.6 ～42.0	2.94	0.2	0.3	直線	—	P24-217,218,237に切られる	第28図参照	土師質土器,須恵質土器片
SD24-2-7	41.6 ～42.0	7.7	0.19	0.03	直線	—	SD24-2-10と繋がる SP24-205,210,214,216, 219,SD24-2-8に切られる	第28図参照	弥生土器片,土師質土器(足釜,皿,破片),須恵質土器(鉢,破片)
SD24-2-8	41.6 ～42.0	11.4	0.26	0.15	曲線	—	SD24-2-1,2-7,2-11を切る SP24-215に切られる	第28図参照	須恵質土器(鉢,碗),弥生土器片,土師質土器片,須恵質土器片

第 14 表　第 3 次調査遺構観察表⑥

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SD24-2-10	41.6 ～42.0	7.68	0.31	0.05	直線	—	SP24-233,234,SD24-2-12,2-13を切る SP24-220,SD24-7に切られる	第28図参照	甕(土師質土器)
SD24-2-11	41.6 ～42.0	4.73	0.53	0.1	直線	—	SP24-221,239,SD24-2-8に切られる	第28図参照	—
SD24-2-12	41.6 ～42.0	2	0.34	0.1	直線	—	SD24-2-10に切られる	第28図参照	土師質土器片
SD24-2-13	41.6 ～42.0	21.8	0.26	0.05	直線	—	SD24-2-10に切られる	第28図参照	—
SD24-3	41.8 ～41.6	2.1	0.36	0.05 0.1	直線	—	SP24-204に切られる	—	—
SD24-4	41.657	0.7	0.1	0.15	直線	—	—	—	—
SD24-5	42.536	0.95	0.21	0.15	直線	—	—	—	—
SD24-6①	41.9 ～47.7	7.1	4	0.1 0.1	直線	船底形	—	第27図参照	—
SD24-6②	41.9 ～47.7	7.5	0.49	0.1 0.1	直線	船底形	SK24-37を切る,SP24-64に切られる	第27図参照	—
SD24-7	41.9 ～47.7	10.9	0.73	0.15 0.1	直線	船底形	SK18に切られる	第27図参照	—
SD24-8	47.283	11.9	0.23	0.1	直線	—	SX24-2に切られる	—	
SD24-9	43.627	1.85	0.21	0.1	直線	—	—	—	—
SX24-1	46.524	4.23	2.38	0.2	不整形 長方形	—	—	—	—
SX24-2	47.457 47.330	1.7	1.63	0.1 0.15	不整形 円形	—	SD24-8を切る,SD1-2に切られる	—	—

第 15 表　第 4 次調査遺構観察表

遺構番号	検出高	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形状	断面形状	重複関係	埋土特徴	出土遺物
SK25-1	45.1	0.9	0.78	0.3	不整形円形	船底	SD25-7に切られる。	第37図参照	—
SK25-2	48.6	0.74	0.54	0.1	楕円形	船底	—	第37図参照	—
SK25-3	48.1	0.48	0.45	0.1	円形	台形	—	第37図参照	—
SK25-4	48.4	0.6	0.39	0.16	不整形円形	山型	—	第37図参照	—
SK25-5	48.8	1.5	0.97	0.26	不整形円形	台形	南側側溝で切れる。	第37図参照	—
SK25-6	48.6	0.52	0.5	0.1	不整形円形	船底	—	第37図参照	—
SK25-7	48.5	0.69	0.66	0.1	楕円形	船底	—	第37図参照	—
SK25-8	47.9	0.98	0.41	0.32	楕円形	山型	—	第37図参照	—
SK25-9	48.2	0.88	0.74	0.06	不整形円形	船底	西側調査区枠にあたる。	第37図参照	—
SK25-10	47.6	0.53	0.41	0.28	楕円形	山型	—	第38図参照	—
SK25-11	46.8	0.78	0.58	0.22	不整形円形	半楕円	—	第38図参照	—
SK25-12	46.9	0.78	0.58	0.2 0.11	楕円形	山型 2つ	—	第38図参照	—
SK25-13	44.8	1.01	0.83	0.07	楕円形	船底	—	第38図参照	—
SK25-14	43.1	0.64	0.63	0.22	円形	台形	—	第38図参照	—
SK25-15	42.9	0.59	0.45	0.3	楕円形	台形	—	第38図参照	—
SK25-16	42.9	1.63	1.04	0.38	不整形楕円形	船底	—	第38図参照	—
SK25-17	40.9	0.44	0.28	0.06	円形	船底	SD25-1に切られる。 SD1に東側切られる。	—	—
SK25-18	41.0	0.97	0.66	0.07	不整形円形	船底	SK25-19を切る。 SX3に切られる。 SD1に西側切られる。	—	—
SK25-19	40.9	0.33	0.24	0.09	円形	船底	SK25-18に切られる。 SK18に南側切られる。	—	—
SD25-2①	44.9～46.5	12.5	0.61	0.4	直線	山型	—	第36図参照	—
SD25-2②	44.9～46.5	—	—	0.06	直線	船底	—	第36図参照	—
SD25-3	46.5～48.1	1.53	0.32	0.08	直線	船底	—	第36図参照	—
SD25-4	48.0～48.2	0.6	0.39	0.08	直線	台形	—	第36図参照	—
SD25-5	48.1～48.5	1.75	0.44	0.18	直線	船底	—	第36図参照	—
SD25-6	40.6～40.7	4.0	0.48	0.28	直線	台形	SD25-1,SX25-3を切る。 SD24-1に繋がる。 北側調査区枠にあたる。	第34図参照	土師質土器片
SD25-7	40.6～40.7	6.2	0.38	0.34	直線	山型	SD25-1,SX25-3,SK25-17を切る。 北側調査区枠にあたる。	第34図参照	弥生土器片, 土師質土器片
SX25-1-①	44.1～45.6	5.06	4.7	0.28	不整形	船底	—	第39図参照	—
SX25-1-②	44.1～45.6	〃	〃	0.48	〃	船底	—	第39図参照	—
SX25-1-③	44.1～45.6	〃	〃	0.32	〃	船底 台形	—	第39図参照	—
SX25-2-1	42.61～43.1	2.0	1.56	0.34	不整形楕円形	半楕円	—	第40図参照	—
SX25-2-2	42.7～43.1	1.67	0.79	0.4	不整形楕円形	半楕円	—	第40図参照	—

第 16 表 実測遺物観察①

実測No.	挿図No.	調査年度	遺構名	種類	器種	法量			調整		色調		胎土	焼成	備考
						口径	低径	器高	外面	内面	外面	内面			
1	9	1次	谷部前期土器出土状況	弥生土器	甕(口縁部)	(22.4)	—	〔4.0〕	ナデ 口縁端部及び突帯に刻目	ナデ	5YR4/1 褐灰～5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐～10YR7/4 にぶい黄	粗 4mm以下の長石・石英・金雲母含む	やや不良	貼付突帯文
2	9	1次	谷埋土中	弥生土器	壺(口縁部)	(16.0)	—	〔1.0〕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	普 3mm大の長石・石英・金雲母含む	良	広口壺
3	13	1次	SD8	弥生土器	壺	(15.8)	—	〔3.8〕	マメツ	マメツ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	普 5mm以下の長石・石英・雲母含む	良	広口壺
4	13	1次	SD8	弥生土器	甕	13.6	—	4.3	口縁部:ヨコナテ 体部:ハケ	口縁部:ヨコナデ 体部:ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	—	普 2mm以下の長石・雲母・赤褐色粒含む	良好	—
5	13	1次	SD7	弥生土器	高杯(口縁部)	—	—	〔1.5〕	マメツ	マメツ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	普 2mm以下の長石・石英・赤褐色粒含む	良	—
6	13	1次	SD8	弥生土器	甕(底部)	—	(4.7)	〔3.7〕	ヘラミガキ,マメツ	ヘラケズリ	2.5YR6/8 橙～5YR3/1 黒褐	5YR5/6 明赤褐～3/1 黒褐	普 3mm以下の長石・石英・赤褐色粒含む	良	外面煤化
7	13	1次	SD8付近	弥生土器	製塩土器(脚部)	—	4.1	〔1.7〕	ナデ,指オサエ	ナデ,指オサエ	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR6/6 橙	精良 赤褐色粒を含む,砂粒をほとんど含まない	良好	堅緻に焼き締まる
8	13	1次	SK16	弥生土器	甕(底部)	—	3.9	〔1.5〕	マメツ	マメツ	5YR4/6 赤褐	5YR4/6 赤褐	普 2mm以下の長石・石英・雲母・角閃石含む	良	—
9	13	1次	SD8	弥生土器	高杯(杯部)	—	—	〔3.5〕	分割ヘラミガキ,マメツ	ヘラミガキ,マメツ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	普 3mm以下の長石・石英・雲母含む	良	円盤充填
10	13	1次	SD8	弥生土器	高杯(杯部)	—	—	〔1.8〕	分割ヘラミガキ	ヘラミガキ,マメツ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	普 3mm以下の長石・石英・雲母・角閃石含む	良	円盤充填
11	13	1次	SD8	弥生土器	高杯(脚部)	—	(19.4)	〔2.3〕	ヘラミガキ,マメツ 端部:凹線2条	ナデ,マメツ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	普 2mm以下の長石・石英・雲母・赤褐色粒含む	良	—
12	13	1次	SD8	弥生土器	高杯(脚部)	—	(21.5)	〔2.5〕	ナデ	ナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	普 2mm以下の長石・石英・雲母含む	良	—
14	20	1次	SD6	弥生土器	甕	20.2	—	〔7.2〕	口縁部:ヨコナデ 体部:マメツ,ハケ	口縁部:ヨコナデ 体部:マメツ,指オサエ	5YR5/6 明赤褐～4/2灰褐	7.5YR4/4 褐	普 3mm以下の長石・石英・雲母・金雲母・角閃石含む	良	—
15	20	1次	SD6	弥生土器	底部	—	(6.0)	〔2.3〕	マメツ	ヘラケズリ,指オサエ	5YR4/6 赤褐～3/2 暗赤褐	5YR4/6 赤褐～3/2 暗赤褐	普 5mm以下の長石・石英・雲母含む	良	—
16	20	1次	SD6	弥生土器	高杯(杯部)	22	—	〔2.3〕	口縁部ヨコナデ,杯部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ,杯部分割ヘラミガキ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	精良 1mm以下の長石・雲母・角閃石・赤褐色粒を含む	良	—
17	20	1次	SK18	弥生土器	底部	—	7.2	〔3.7〕	マメツ	ヘラミガキ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	普 2mm以下の長石・石英含む	良	中期
18	20	1次	SK22	土師質土器	杯(底部)	—	(12.0)	〔1.3〕	ナデ	回転ナデ	N3/0 暗灰	7.5YR5/4 にぶい褐	普 2mm以下の長石・石英含む	良	—
19	20	1次	SK65	土師質土器	杯(底部)	—	(6.0)	〔1.05〕	マメツ	マメツ	7.5YR7/6 橙	10YR7/2 にぶい黄橙	普 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
20	20	1次	SK79断面	弥生土器	壺(頸部)	—	—	〔2.9〕	ナデ	ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	普 1mm以下の長石・石英・雲母・角閃石含む	良	—
21	20	1次	SX1	土師質土器	小皿	10.8	6.2	2.6	回転ナデ 底部:マメツ	回転ナデ	10TR8/4 浅黄橙	10TR8/4 浅黄橙	普 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
22	20	1次	SX4 断面	弥生土器	高杯(脚部)	—	—	〔1.4〕	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰褐	普 1mm以下の長石・石英を少量含む	良	—
23	22	2次	南側の石垣内出土	土師質土器	杯	(8.0)	—	〔2.1〕	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙～7/4 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	精良 砂粒をほとんど含まない	良	—
24	22	2次	SX1上面	土師質土器	杯	11.6	—	〔2.2〕	回転ナデ	回転ナデ	2.5YR6/6 橙～7.5YR7/4にぶい橙	2.5YR6/6 橙～7.5YR7/4にぶい橙	精良 砂粒をほとんど含まない	良	—
25	22	2次	表採	土師質土器	足釜(口縁部)	—	—	〔3.2〕	口縁部:ナデ 鍔下端:指オサエ	ナデ,板ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR4/6 赤褐	普 2mm以下の長石・石英含む	良	—
26	22	2次	北東スミ黒色土中	土師質土器	足釜(口縁部)	—	—	〔4.0〕	口縁,鍔部:ナデ 鍔下端:指オサエ(瓜形圧痕) 体部:ナデ,ハケ	口縁部:ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	普 2mm以下の長石・石英・金雲母含む	良	—
27	22	2次	南側の石垣内出土	土師質土器	鍋	—	—	〔1.5〕	ナデ,マメツ	マメツ	2.5YR6/6 橙～7.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙～7.5YR6/6 橙	普 2mm以下の長石・石英・金雲母含む	良	—
28	22	2次	SX1 上面検出中	磁器	猪口	4.8	3.0	5.8	染付け,イッチン技法による上絵付		N8/0 灰白	N8/0 灰白	粗密:密 内容:精良	良好	染付:黒,黄,桃,赤 上絵:金色
29	22	2次	南側の石垣内出土	陶器	壺	(21.2)	—	3.7	回転ナデ	自然釉,回転ナデ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y3/1 黒褐	普 1mm以下の微細粒・黒色粒含む	良	備前
31	25	3次	SD24-1	弥生土器	甕(体部)	—	—	〔9.65〕	ナデ,マメツ,ハクリ	指ナテ,ヘラケズリ,マメツ	5YR5/6 明黄褐	5YR5/6 明黄褐	普 1mm以下の長石・石英含む	良	—
32	25	3次	SD24-1	弥生土器	甕(体部)	—	—	〔3.1〕	マメツ	マメツ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	普 1mm以下の長石・石英・雲母,角閃石含む	良好	—
33	25	3次	SD24-1	土師質土器	二重口縁壺(口縁部)	30.2	—	〔4.5〕	口縁端部:ヨコナデ 以下マメツ	ヘラミガキ,マメツ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	精良 1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	壺形埴輪か
34	29	3次	SD24-2	弥生土器	壺(口縁部)	11.8	—	〔3.7〕	ナデ	ナデ,ハケメ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	普 3mm以下の長石・石英含む	良好	広口壺
35	29	3次	SD24-2	弥生土器	鉢(口縁部)	(22.0)	〔4.5〕	—	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	普 1mm以下の長石・石英・金雲母含む	良	—

第 17 表 実測遺物観察表②

実測No.	挿図No.	調査年度	遺構名	種類	器種	法量			調整		色調		胎土	焼成	備考
						口径	低径	器高	外面	内面	外面	内面			
36	29	3次	SD24-2	弥生土器	甕	23.4	—	〔3.5〕	口縁部:ナデ 体部:ハケ 上端:指オサエ	口縁部:ハケ 体部:ナデ	7.5YR2/1 赤黒	7.5YR2/1 赤黒	普 1.5mm以下の長石・石英・金雲母含む	良	口縁外側・頸部歪な仕上がり
38	29	3次	SD24-2	土師質土器	羽釜	25.4	—	〔3.0〕	ナデ,指オサエ	ナデ,板ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	普 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
36	29	3次	SD24-2	須恵質土器	脚部	—	—	〔1.1〕	ナデ	ナデ	5Y5/1 灰	N5/0 灰	精良 微細粒含む	良好	—
39	29	3次	SD24-2-7	土師質土器	小皿	7.0	5.8	1.0	回転ナデ 底部:ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	精良 1mm以下の長石・石英含む	良	—
40	29	3次	SD24-2	土師質土器	皿	(7.2)	4.3	1.1	剥離	回転ナデ,剥離	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	普 微細粒少量含む	良	—
41	29	3次	SD24-2	土師質土器	小皿	7.2	5.2	1.1	回転ナデ 底部:ナデ	回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙～6/2灰黄褐	普 1mm以下の砂粒含む	良	—
42	29	3次	SD24-2	土師質土器	小皿	7.4	4.8	1.0	マメツ	マメツ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	精良 1～1.5mm大の長石・石英含む	良	—
43	29	3次	SD24-2	土師質土器	小皿	7.4	—	〔0.75〕	マメツ	マメツ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	精良 砂粒をほとんど含まない,赤色粒を含む	良	—
44	29	3次	SD24-2-7	土師質土器	小皿	7.4	—	〔1.0〕	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR 橙	7.5YR 橙	精良 砂粒をほとんど含まない	良	
45	29	3次	SD24-2-1	土師質土器	小皿	7.4	5.2	0.9	回転ナデ 底部:ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	精良 1～3mm大の長石・石英・赤色粒含む	良	
46	29	3次	SD24-2	土師質土器	小皿	7.6	5.9	1.1	マメツ 底部:ナデ	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	精良 砂粒をほとんど含まない,赤色粒を含む	良	—
47	29	3次	SD24-2	土師質土器	小皿	7.8	5.9	0.8	回転ナデ 底部:ナデ	回転ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	精良 砂粒をほとんど含まない	良	—
48	29	3次	SD24-2 ベルト①	土師質土器	小皿	7.8	10.0	1.2	回転ナデ 底部:回転糸切り	回転ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	精良 1mm以下の長石・石英・黒色粒含む	良	—
49	29	3次	SD24-2	土師質土器	小皿	(7.8)	(5.8)	〔1.0〕	マメツ	マメツ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	精良 砂粒をほとんど含まない	良	—
50	29	3次	SD24-2	土師質土器	小皿	(8.1)	0.9	〔5.5〕	マメツ,剥離	マメツ,剥離	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	普 微細粒少量含む	良	—
51	29	3次	SD24-2	土師質土器	小皿	8.2	6.5	1.2	マメツ	マメツ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	精良 長石・石英・赤色粒含む	良	—
52	29	3次	SD24-2-1	土師質土器	杯	9.6	5.0	1.9	回転ナデ 底部:回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5YR6/6 にぶい橙	2.5YR6/6 にぶい橙	精良 1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
53	29	3次	SD24-2-1	土師質土器	杯	10.0	5.4	2.65	回転ナデ	回転ナデ	5YR8/4 淡橙	5YR8/4 淡橙	精良 2mm前後の長石・石英・赤色粒含む	良	—
54	29	3次	SD24-2	土師質土器	杯 (口縁部)	10.0	—	〔1.9〕	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	精良 砂粒をほとんど含まない,赤色粒を含む	良	—
55	29	3次	SD24-2-12	土師質土器	杯	10.4	5.8	2.75	マメツ	ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	精良 2mm以下の長石・石英を若干含む	良	—
56	29	3次	SD24-2	土師質土器	杯	10.6	4.2	3.1	回転ナデ,回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	精良	良	—
57	29	3次	SD24-2	土師質土器	杯	10.8	6.2	2.2	回転ナデ 底部:回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	2.5YR7/6 橙	普 0.5～2mmの長石・石英含む	良	見込み被熱
58	29	3次	SD24-2	土師質土器	杯	10.9	6.6	2.45	回転ナデ 底部:回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5YR6/6 橙	5YR5/2 灰褐	精良 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
59	29	3次	SD24-2-1	土師質土器	杯 (底部)	—	5.4	1.8	回転ナデ 底部:回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	5YR8/4 淡橙	2.5YR8/2 灰白	精良 砂粒をほとんど含まない,赤色粒を含む	良	—
60	29	3次	SD24-2-1	土師質土器	杯	11.0	7.3	3.5	回転ナデ 底部:回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	精良 2～3mm大の長石・石英・赤色粒含む	良	—
61	29	3次	SD24-2	土師質土器	杯 (口縁部)	11.6	—	2.2	マメツ	マメツ	10YR8/3 浅黄橙～6/2 灰黄褐	10YR5/1 褐灰～8/3浅黄橙	精良 砂粒をほとんど含まない	良	—
62	29	3次	SD24-2	土師質土器	碗 (口縁部)	11.8	—	〔2.2〕	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	普 2mm以下の長石・石英・黒色粒・赤色粒含む	良	—
63	29	3次	SD24-2-1	土師質土器	杯 (口縁部)	13.0	—	〔1.8〕	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	普 1mm以下の長石・赤色粒含む	良	—
64	29	3次	SD24-2	土師質土器	杯 (口縁部)	13.4	—	〔2.6〕	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	普 2mm以下の長石・石英含む	良	—
65	29	3次	SD24-2-9	土師質土器	杯 (底部)	—	6.6	1.0	回転ナデ 底部:ヘラ切り	マメツ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	精良 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
66	29	3次	SD24-2	土師質土器	杯(底部)	—	5.2	〔1.6〕	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR6/2 灰黄褐	普 1mm程度の長石・石英・赤色粒含む	良	—
67	29	3次	SD24-2	須恵質土器	碗 (口縁部)	12.8	—	〔2.2〕	マメツ	マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	普 1mm以下の長石・石英含む	良	—
68	29	3次	SD24-2	須恵質土器	碗 (口縁部)	—	—	〔2.0〕	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	精良 砂粒をほとんど含まない	良好	—
69	29	3次	SD24-2	須恵質土器	碗 (口縁部)	14.0	—	〔1.8〕	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	精良 砂粒を少量含む	良	口縁部に重ね焼痕
70	29	3次	SD24-2-8	須恵質土器	碗	13.8	—	2.7	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白～7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白～7/1 灰白	普 微細粒含む	良	口縁部に重ね焼痕
71	29	3次	SD24-2-1	須恵質土器	杯	14.2	7.8	3.15	回転ナデ 底部:回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	精良 1～3mmの長石・石英含む	良	口縁部に重ね焼痕
72	29	3次	SD24-2	須恵質土器	碗 (口縁部)	—	—	〔2.9〕	マメツ	マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	普 1mm以下の長石・石英含む	良	口縁部に重ね焼痕

第 18 表 実測遺物観察表③

実測No.	挿図No.	調査年度	遺構名	種類	器種	法量			調整		色調		胎土	焼成	備考
						口径	低径	器高	外面	内面	外面	内面			
73	29	3次	SD24-2	須恵質土器	碗（口縁部）	—	—	〔2.1〕	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	普 1mm以下の長石・石英含む	良	口縁部に重ね焼痕
74	29	3次	SD24-2	須恵質土器	碗（底部）	—	(5.2)	〔0.95〕	回転ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	普 微細粒含む	良	—
75	29	3次	SD24-2	須恵質土器	碗	—	—	〔1.25〕	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/3 淡黄	普 1～2mmの砂粒含む	良	貼付高台
76	29	3次	SD24-2 ベルト①	土師質土器	杯（底部）	—	6.4	(0.9)	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	10YR8/2 灰白	10YR7/2 にぶい黄橙	精良 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
77	29	3次	SD24-2	瓦質土器	碗（口縁部）	(12.6)	—	〔2.6〕	ﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	N3/0 暗灰	N3/0 暗灰	普 1mm以下の石英含む	良	瓦器碗
78	29	3次	SD24-2 ベルト①	土師質土器	鉢	—	—	(11.2)	ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,ﾏﾒﾂ	10YR7/6 明黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙	普 2mm以下の長石・石英含む	良	口縁端部煤化
79	29	3次	SD24-2	土師質土器	こね鉢（口縁部）	—	—	〔2.4〕	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/6 明黄褐	普 1～3mmの長石・赤色粒含む	良	口縁部に重ね焼痕
80	29	3次	SD24-2 集石部	土師質土器	鉢（口縁部）	—	—	(4.0)	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	10YR4/4 褐	10YR4/1 褐灰	普 2～3mmの長石・石英含む	良	—
81	29	3次	SD24-2	土師質土器	鉢（口縁部）	25.4	—	〔2.5〕	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	5Y6/2 灰オリーブ～10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	普 1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	口縁部に重ね焼痕
82	29	3次	SD24-2 集石部	土師質土器	鉢(底部)	—	11.0	(7.4)	ﾅﾃﾞ,回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ,ﾏﾒﾂ	5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	普 1～3mm大の長石・石英含む	良	—
83	29	3次	SP24-2-8	須恵質土器	片口鉢	(19.5)	(9.8)	7.0	口縁部：回転ﾅﾃﾞ 体部：ﾅﾃﾞ,指ｵｻｴ	ﾅﾃﾞ	2.5Y7/3 灰黄	2.5Y8/3 淡黄	普 1～3mm大の長石・石英・黒色粒含む	不良	須恵器の生焼け
84	29	3次	SD24-2	須恵質土器	鉢	20	—	〔4.7〕	回転ﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	2.5Y7/1 灰白	N5/0 灰白	普 3mm以下の長石・石英・黒色粒含む	良	13c第2四半期～第3四半期
85	29	3次	SD24-2	須恵質土器	鉢	25.2	—	(4.0)	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,指ﾅﾃﾞ	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	普 1～3mm大の長石・石英・黒色粒含む	不良	東播系
86	29	3次	SD24-2-7	須恵質土器	鉢（口縁部）	—	—	〔3.6〕	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,指ﾅﾃﾞ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	普 1～3mmの長石・石英・黒色粒含む	良	—
87	29	3次	SD24-2	須恵質土器	鉢	—	—	〔6.9〕	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ			普 1mm以下の長石・石英含む	良	—
88	29	3次	SD24-2	須恵質土器	鉢	—	—	(7.3)	口縁部：回転ﾅﾃﾞ 体部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	普 1～2mmの長石・石英・黒色粒含む	良	—
89	29	3次	SD24-2 集石部	須恵質土器	鉢（口縁部）	—	—	〔3.7〕	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	普 1mm以下の赤色粒含む	良	接合痕あり
90	29	3次	SD24-2 集石部	瓦質土器	鉢（底部）	—	18.0	6.0	ﾅﾃﾞ,ﾏﾒﾂ	ﾅﾃﾞ,ﾏﾒﾂ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	精良 2mm以下の黒色粒,褐色粒含む 1mm以下の砂粒含む	良	瓦質焼成
91	30	3次	SD24-2-10	土師質土器	鍋（口縁部）	(33.0)	—	〔1.8〕	回転ﾅﾃ,指ｵｻｴ	回転ﾅﾃﾞ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	粗 1～3mmの長石・石英・赤色粒含む	良	—
92	30	3次	SD24-2	土師質土器	甕	29.0	5.0	—	口縁部：回転ﾅﾃﾞ 端部：ﾊｹ 体部：ﾊｹ 上端：指ｵｻｴ	ﾊｹ	7.5YR3/2 黒褐	7.5YR7/6 橙	普 長石・石英・赤色粒含む	良	外面煤化
93	30	3次	SD24-2	土師質土器	鍋（口縁部）	27.6	—	〔5.1〕	口縁端部：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部上端：指ｵｻｴ	ﾊｹ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	普 1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	外面煤化
94	30	3次	SD24-2 集石部	土師質土器	鍋（口縁部）	24.4	—	〔5.7〕	ﾅﾃﾞ,指ｵｻｴ	ﾊｹ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	普 2mm以下の長石・石英・赤褐色粒含む	良	外面煤化
95	30	3次	SD24-2	土師質土器	鍋（口縁部）	—	—	〔1.9〕	口縁部ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾊｹ	5YR6/6 橙	5YR7/6 橙	普	良	—
96	30	3次	SD24-2	土師質土器	鍋（口縁部）	—	—	〔1.6〕	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾏﾒﾂ	ﾊｹﾒ,ﾏﾒﾂ	10YR6/3 にぶい黄橙～4/2 灰黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙	普 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
97	30	3次	SD24-2	土師質土器	鍋（口縁部）	(20.8)	—	〔2.3〕	体部：ﾊｹ	口縁部：ﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	やや粗 1mm以下の長石・金雲母・赤色粒含む	良	—
98	30	3次	SD24-2	土師質土器	鍋（口縁部）	—	—	(1.9)	指ｵｻｴ 口縁端部：回転ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR7/6 橙	粗 1mm程度の赤色粒含む	良	—
99	30	3次	SP24-2	土師質土器	鍋（口縁部）	—	—	〔1.6〕	回転ﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	7.5YR7/6 橙	7.5YR8/6 浅黄橙	粗 3mm以下の長石・石英含む	良	—
100	30	3次	SD24-2 集石部	土師質土器	鍋（口縁部）	—	—	〔2.2〕	ﾏﾒﾂ	ﾅﾃﾞ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄褐	粗 2mm以下の長石・石英含む	良	—
101	30	3次	SP24-2	土師質土器	鍋（口縁部）	—	—	〔0.9〕	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	普 1mm以下の長石含む	良	—
102	30	3次	SD24-2	弥生土器	甕（口縁部）	—	—	〔1.1〕	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	普 1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
103	30	3次	SD24-2	土師質土器	鍋（口縁部）	—	—	〔1.6〕	ﾖｺﾅﾃﾞ,指ｵｻｴ	ﾅﾃﾞ、ﾏﾒﾂ	5YR6/3 にぶい橙～3/1黒褐	7.5YR7/4にぶい橙～5/3にぶい褐	普 3mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
104	30	3次	SD24-2	土師質土器	口縁部	—	—	1.3	ﾅﾃﾞ,指ｵｻｴ	ﾅﾃﾞ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙	普 2mm以下の長石,1mm以下の石英含む	良	外面煤化
105	30	3次	SD24-2	土師質土器	鍋（口縁部）				指ｵｻｴ,ﾏﾒﾂ	ﾊｹ	5YR4/6 赤褐	5YR5/6 明赤褐	普 1～2mmの長石・石英・黒雲母・角閃石含む	良	—
106	30	3次	SD24-2 ベルト①	弥生土器	鉢あるいは高杯（口縁部）	—	—	〔1.6〕	ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	普 1mm以下の長石・石英・金雲母・赤色粒含む	良	39と同一個体か
107	30	3次	SD24-2-7	土師質土器	足釜（口縁部）	(14.9)	—	5.2	口縁部：回転ﾅﾃﾞ 鍔下端：ﾊｹ 体部：ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	普 1mm以下の長石・石英・金雲母・赤色粒含む	良	鍔部煤化

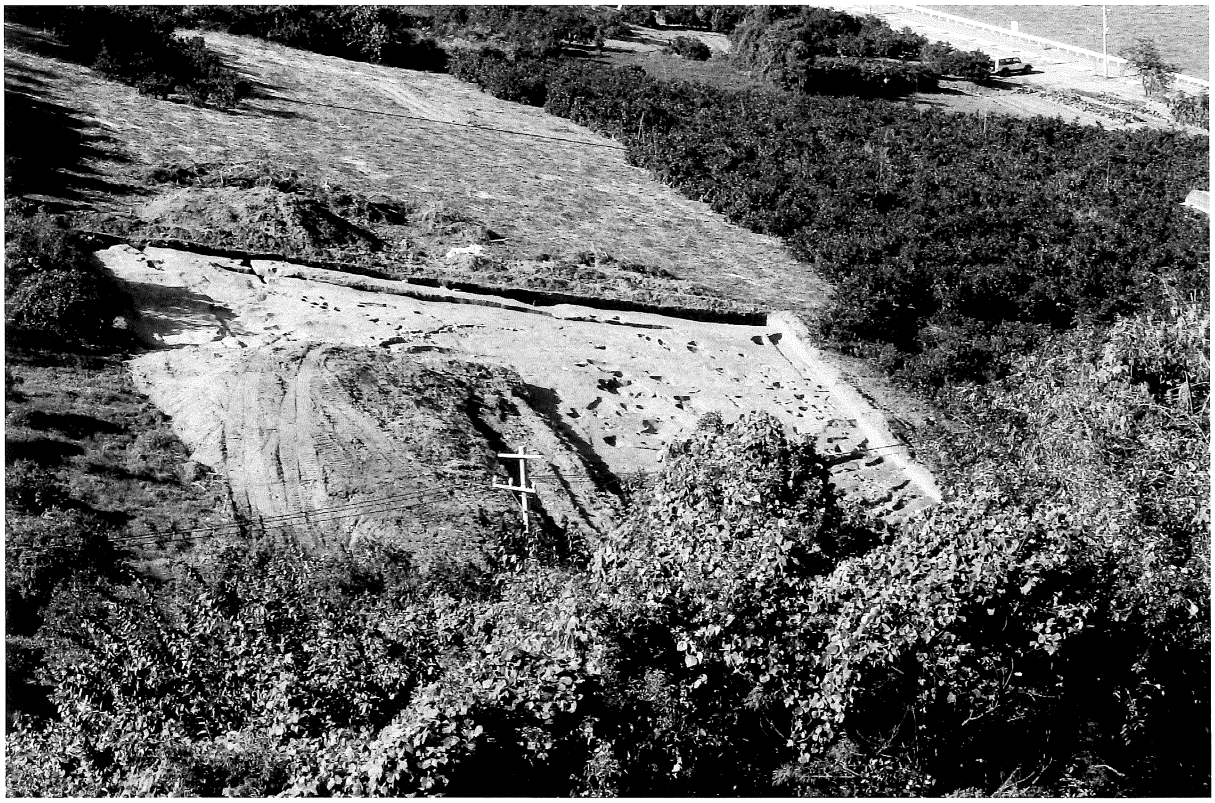
第 19 表 実測遺物観察表④

実測No.	挿図No.	調査年度	遺構名	種類	器種	法量			調整		色調		胎土	焼成	備考
						口径	低径	器高	外面	内面	外面	内面			
108	30	3次	SD24-2-1	土師質土器	足釜	—	—	〔5.6〕	口縁部～鍔部:ヨコナデ 体部:ナデ,指オサエ	ナデ,指オサエ,ハケ	7.5YR7/6 橙～3/1 黒褐	7.5YR6/6 橙	普 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	外面煤化
109	30	3次	SD24-2	土師質土器	足釜(口縁部)	—	—	〔6.0〕	口縁部:指オサエ後回転ナデ 鍔部:回転ナデ 下端:指オサエ 体部:ハケ	指オサエ後ハケ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	普 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	鍔部および体部煤化
110	30	3次	SD24-2	土師質土器	足釜(口縁部)	—	—	〔3.8〕	ナデ,マメツ	ナデ,マメツ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	粗 4mm以下の長石・石英多量に含む	良	—
111	30	3次	SD24-2	土師質土器	足釜(口縁部)	—	—	〔4.9〕	ナデ 鍔下端:指オサエ	ナデ	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	普 1mm以下の長石・石英含む	良	—
112	30	3次	SD24-2 集石部	土師質土器	足釜(口縁部)	—	—	〔2.75〕	ナデ,指オサエ	ナデ,ハケメ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	普 3mm以下の長石・石英含む	良	鍔部煤化
113	30	3次	SD24-2	土師質土器	足釜(口縁部)	—	—	〔3.2〕	ナデ,ハケメ,マメツ	指オサエ,マメツ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	普 1mm以下の長石・石英含む	良	中世Ⅱ-2期
114	30	3次	SD24-2 集石部	土師質土器	足釜(脚部)	長巾〔18.8〕	短巾〔5.15	—	ナデ,指状圧痕	—	10YR5/3 にぶい黄褐	—	普 1mm以下の長石・石英含む	良	煤化
115	30	3次	SD24-2-1	土師質土器	足釜(脚部)	—	—	〔18.2〕	指オサエ,板ナデ	指オサエ,板ナデ	5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	やや粗 2mm以下の長石・石英・赤色粒・雲母含む	良	外面煤化
116	30	3次	SD24-2	土師質土器	足釜(脚部)	—	—	〔21.15〕	ナデ,指オサエ	ナデ,指オサエ	7.5YR7/6 橙	5YR6/6 橙	やや粗 1.5mm以下の長石・石英含む	良	—
117	30	3次	SD24-2	土師質土器	足釜(脚部)	—	—	〔14.4〕	ナデ	指オサエ,ハケ	5YR5/8 明赤褐	5YR5/8 明赤褐	やや粗 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良好	—
118	30	3次	SD24-2	土師質土器	足釜(脚部)	—	—	〔13.8〕	ナデ,指オサエ	指オサエ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	普 2mm以下の長石・石英含む	良好	外面煤化
119	30	3次	SD24-2	土師質土器	足釜(脚部)	長巾	短巾	〔13.7〕	指ナデ	ハケ,ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/1 褐灰	普 2～3mmの長石・石英含む	良	—
120	30	3次	SD24-2	陶器	底部	—	10.6	〔2.0〕	回転ヘラケズリ 底部:ナデ	回転ナデ	2.5YR5/2 灰赤 2.5YR1.7/1 赤黒	5Y5/1 灰	普 1.5mm以下の長石・石英含む	良	備前 ※混入品か
121	33	3次	SP24-238	土師質土器	小皿	6.7	5.3	1.05	回転ナデ,回転ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/2 灰白	普 1.5mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	拓本
122	33	3次	SP24-238	土師質土器	小皿	6.8	5.5	0.8	回転ナデ,回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	普 1mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
123	33	3次	SP24-238	土師質土器	小皿	(7.0)	(6.0)	1.0	回転ナデ 底部:ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	普 砂粒ほとんど見えない	良	—
124	33	3次	SP24-109	土師質土器	小皿	6.2	4.6	0.8	回転ナデ 底部:ナデ仕上げ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	精良 2mm以下の長石・石英・赤色粒含む	良	—
125	33	3次	SP24-235	土師質土器	杯	10.9	6.2	2.4	回転ナデ 底部:ナデ仕上げ	回転ナデ	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	精良 1mm以下の赤色粒を若干含む	良	—
126	33	3次	SP24-30	土師質土器	足釜(脚部)	—	—	12.9	マメツ,ケズリ,指オサエ	(ハクリ)	5YR7/8 橙 7.5YR7/6 橙	—	普 2mm以下の長石含む	良	煤化
127	33	3次	SP24-212	土師質土器	杯(口縁部)	(10.0)	—	〔2.1〕	マメツ	マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	精良 1mm程度の赤色粒含む	良	—
128	33	3次	SD24-9	土師質土器	杯	11.2	—	〔1.5〕	ナデ,マメツ	ナデ,マメツ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	普 1mm以下の長石・赤褐色粒含む	良	—
129	33	3次	SK24-37	土師質土器	杯	10.4	—	〔2.4〕	回転ナデ	回転ナデ	2.5YR7/4 淡赤橙	2.5YR7/4 淡赤橙	普 1mm以下の長石含む	良	—
130	33	3次	SP24-231	土師質土器	杯	—	—	2.7	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	普 1mm以下の微細粒含む	良	—
131	33	3次	SP24-229	須恵質土器	鉢(片口口縁部)	—	—	2.0	ナデ,マメツ	ナデ,マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	普	不良	頸部屈曲ややゆるやか,口縁端部短いつまみ上げ

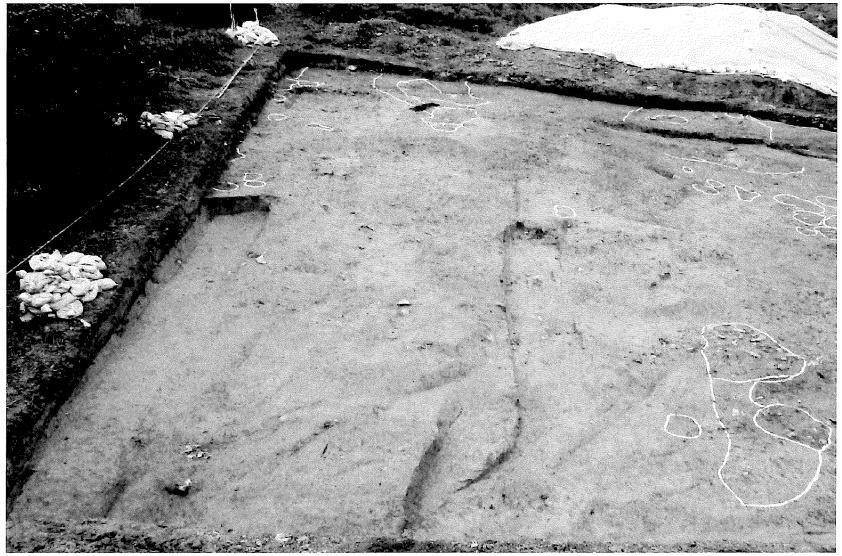
第 20 表 石器観察表

図版No.	遺物No.	調査年度	遺構名	種類		長径	幅	厚	重	備考
13	13	1	SD08付近	砂岩	叩き石	5.65	6.9	4.5	233.9g	
22	30	2	北東スミ黒色層中	石器	石鏃 石器	〔2.35〕	〔1.9〕	0.5	2.0g	2.0g,サヌカイト製凹基式先端及び基部を欠損
33	132	3	SP24-237	砂岩	叩き石	7.2	7.4	4.8	274.6g	

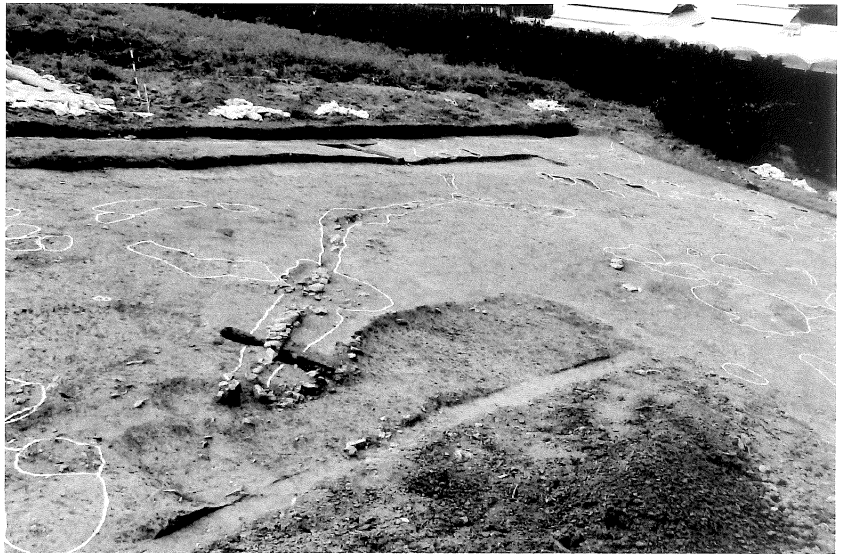
第 1 次調査全景（北から）



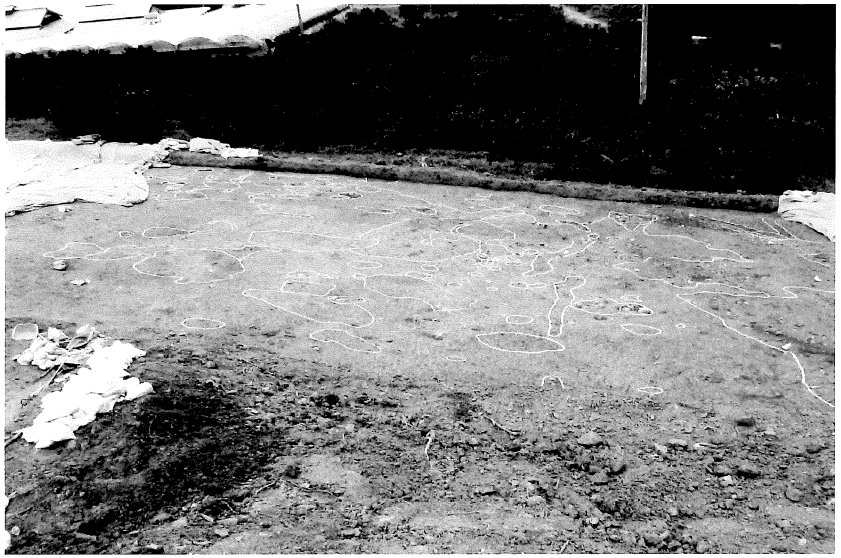
第 1 次調査全景（東から）



第 1 次調査 第 2 遺構面西側検出状況 (東から)



第 1 次調査 第 2 遺構面北側検出状況 (南東から)



第 1 次調査 第 2 遺構面中央検出状況 (南から)

第 1 次調査 第 2 遺構面東側検出状況 (南から)

第１次調査南側完掘（東から）

第１次調査北側完掘（東から）

第１次調査東側完掘（南から）

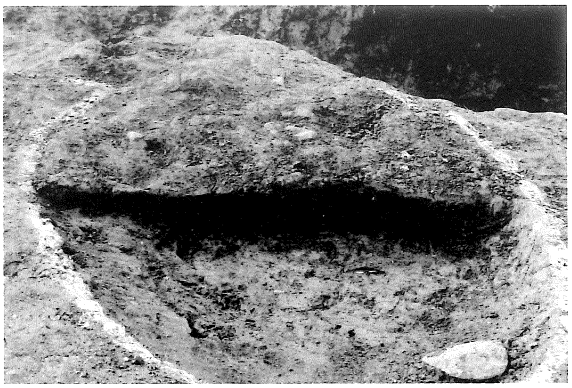
第１次調査東側完掘（南から）

第 1 次調査東壁断面（南西から）

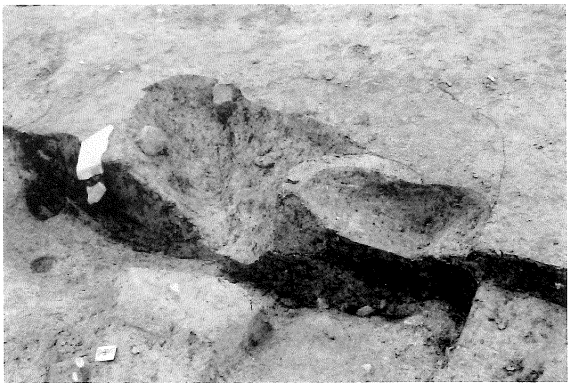
第 1 次調査南東壁断面西端から中央（北西から）

第 1 次調査南壁断面（東から）

第 1 次調査南東壁断面中央から東端（北西から）



第 1 次調査　SK20-18 断面



第 1 次調査　SK20 -79 及び上位遺構断面

第 1 次調査 SK20 -22 断面

第 1 次調査 SK20 -86 断面

第 1 次調査 SD20-3 完掘（北西から）

第 1 次調査 SD20-4 完掘（北から）

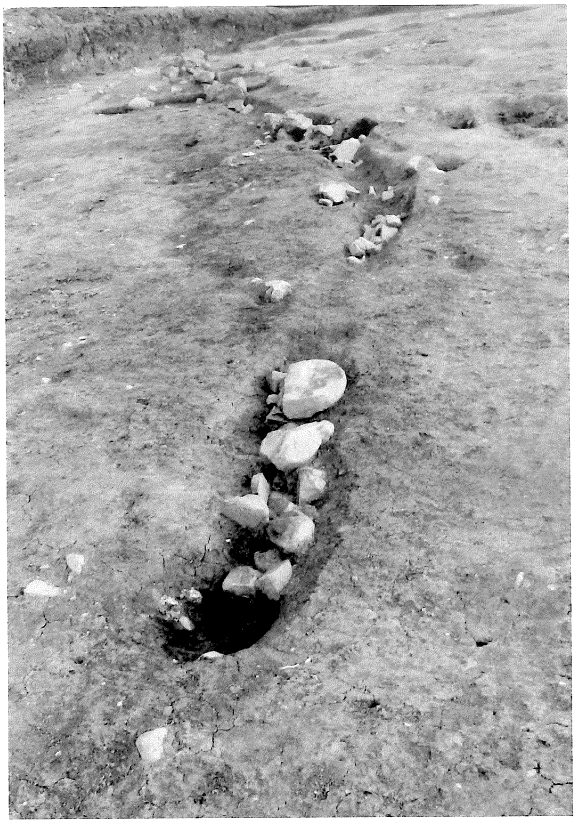
図版 6

第 1 次調査 SD20-6 完掘（北から）

第 1 次調査 SD20-11 完掘（北から）

第 1 次調査 SD20-8・9・10・13 完掘（北から）

第 1 次調査 SD20-14 完掘（北から）



第 1 次調査 SD20-22 完掘（北から）

第 1 次調査 SD20-26 完掘（南から）

第 2 次調査全景（北東から）

図版 8

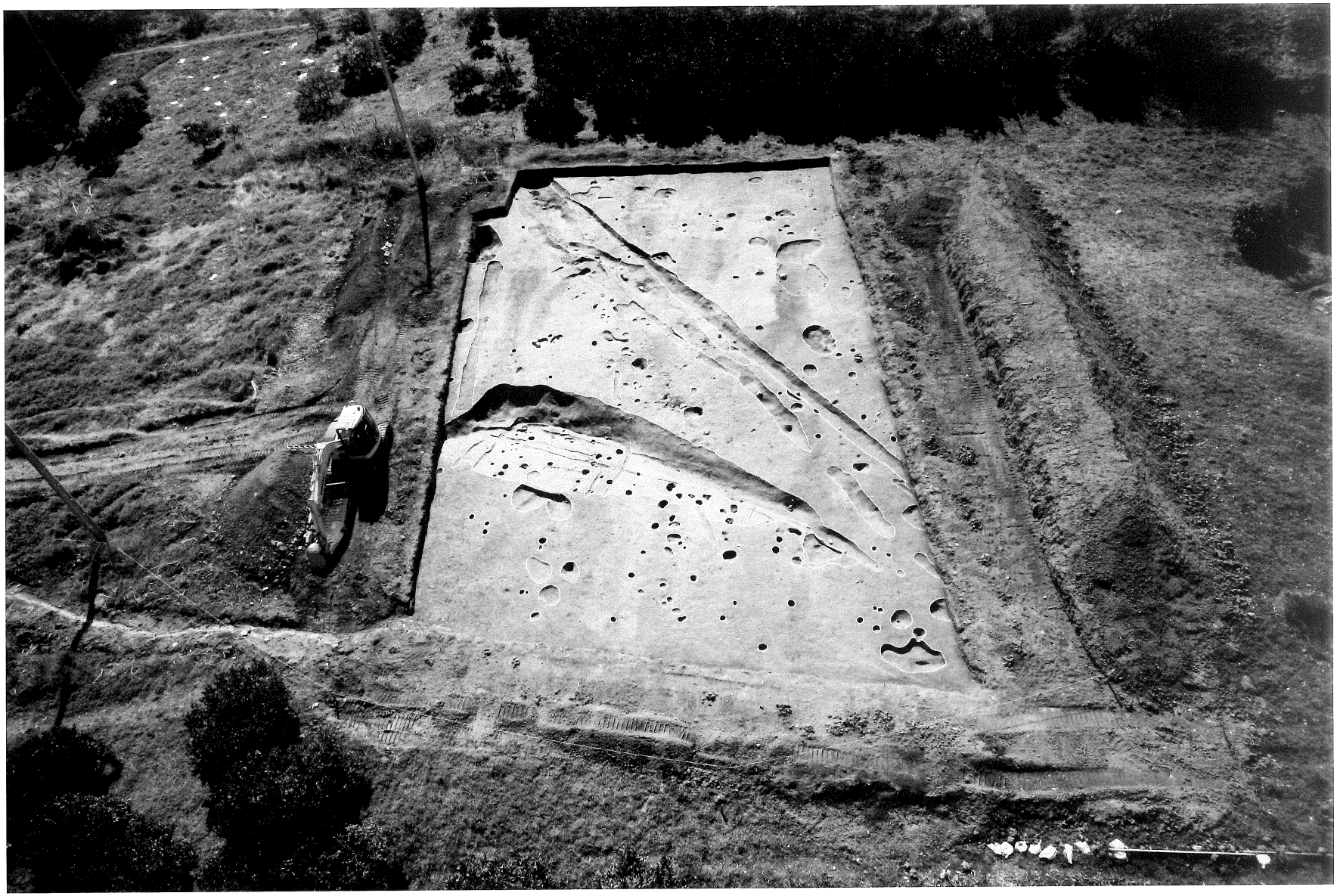
第 2 次調査完掘状況、南壁（北東から）

第 2 次調査 SK23-23 断面

第 2 次調査 SK23-24 完掘（北から）

第 2 次調査 SD23-3 完掘（北から）

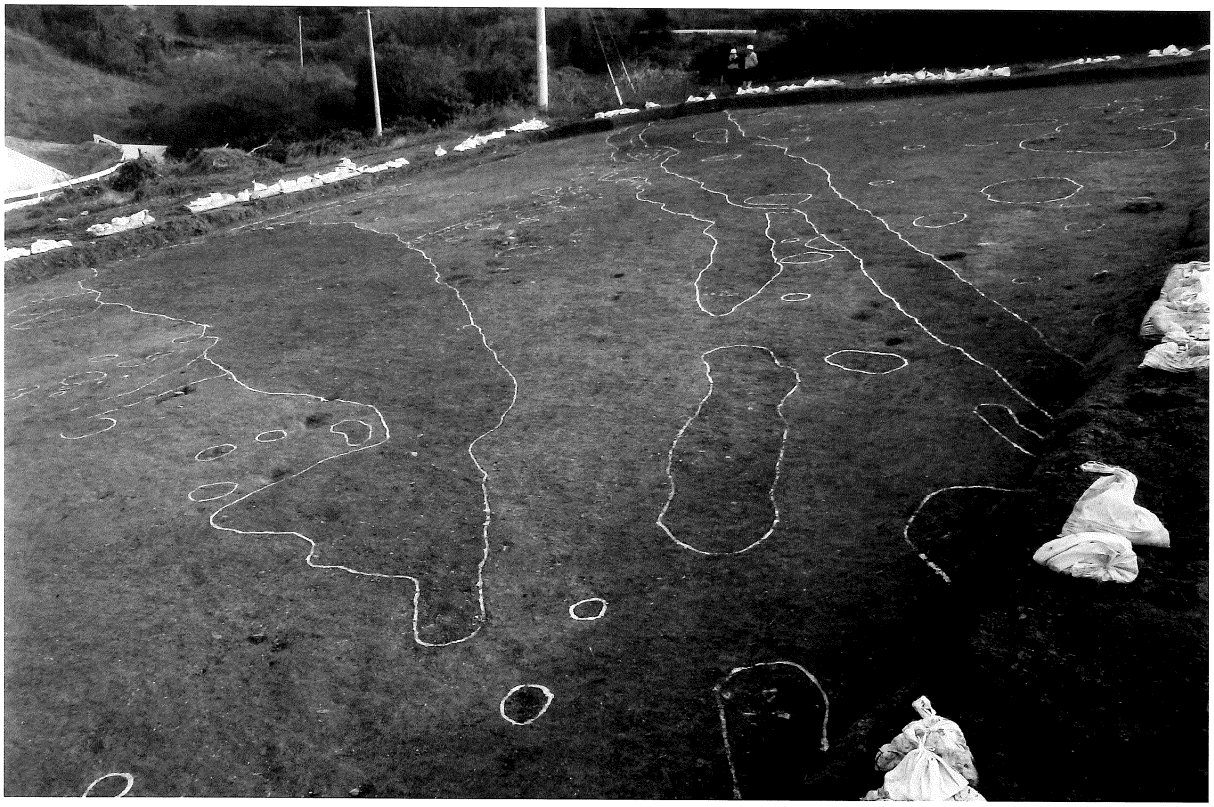
第 2 次調査 SR23-1 断面



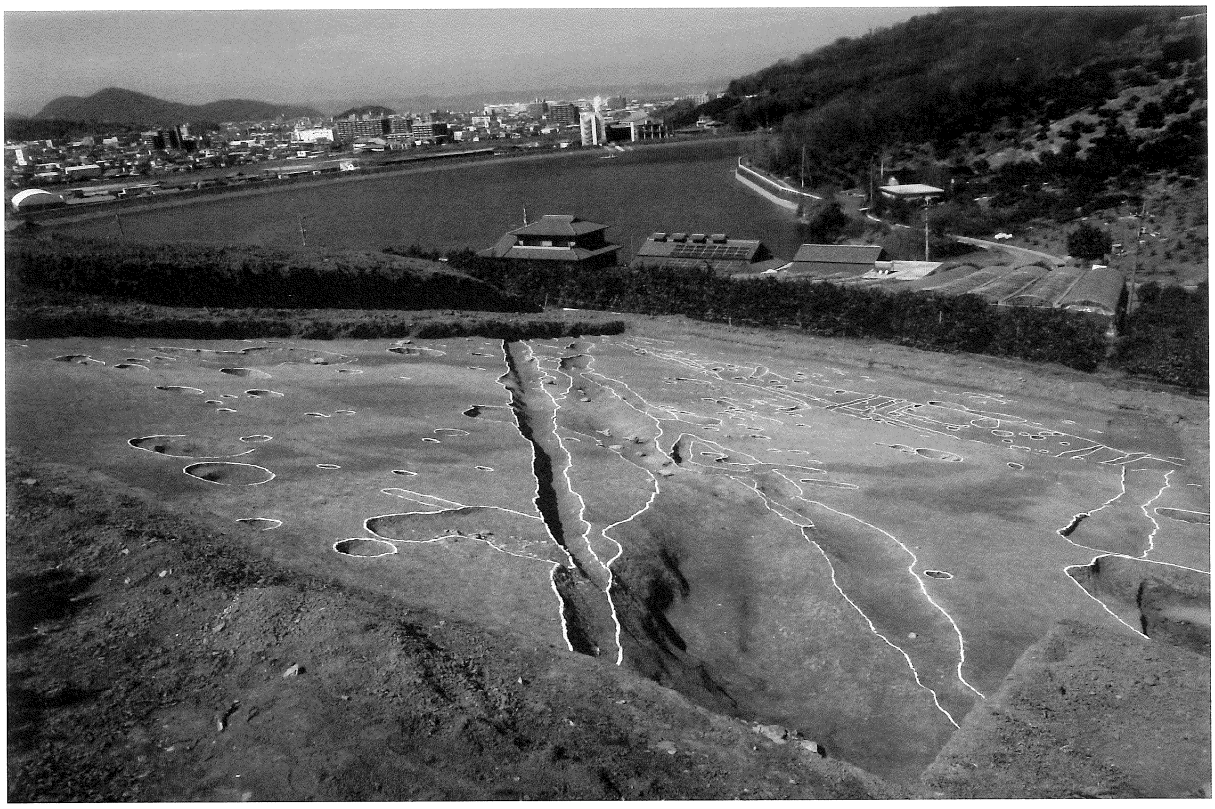
第３次調査全景（北から）

図版 10

第 3 次調査検出状況 (東から)



第 3 次調査検出状況（北から）

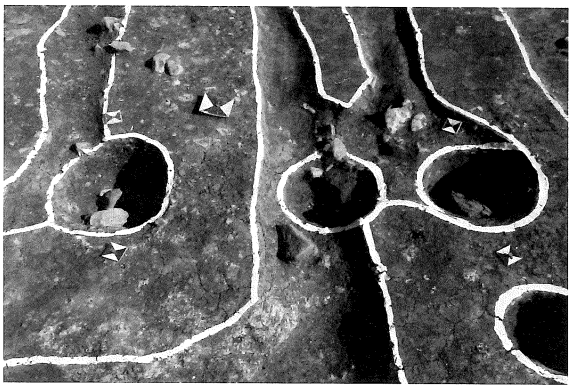


第 3 次調査完掘状況 (南東から)

第 3 次調査完掘状況 (南西から)

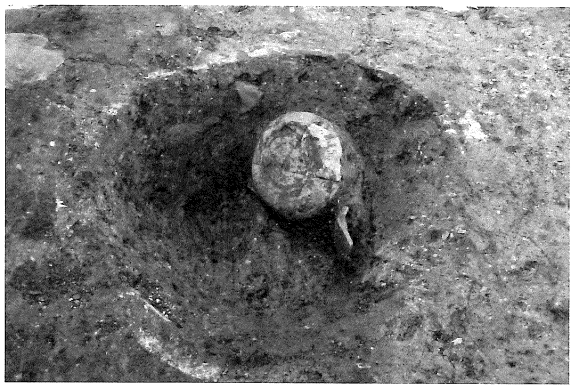
図版 12

第 3 次調査 SD24-2 内完掘 (上空から)

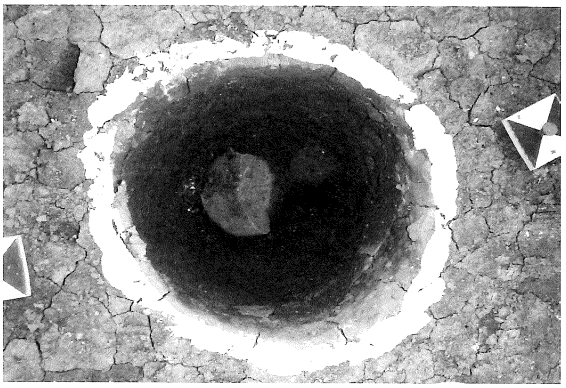


第 3 次調査 SP24-218 ～ 220 完掘

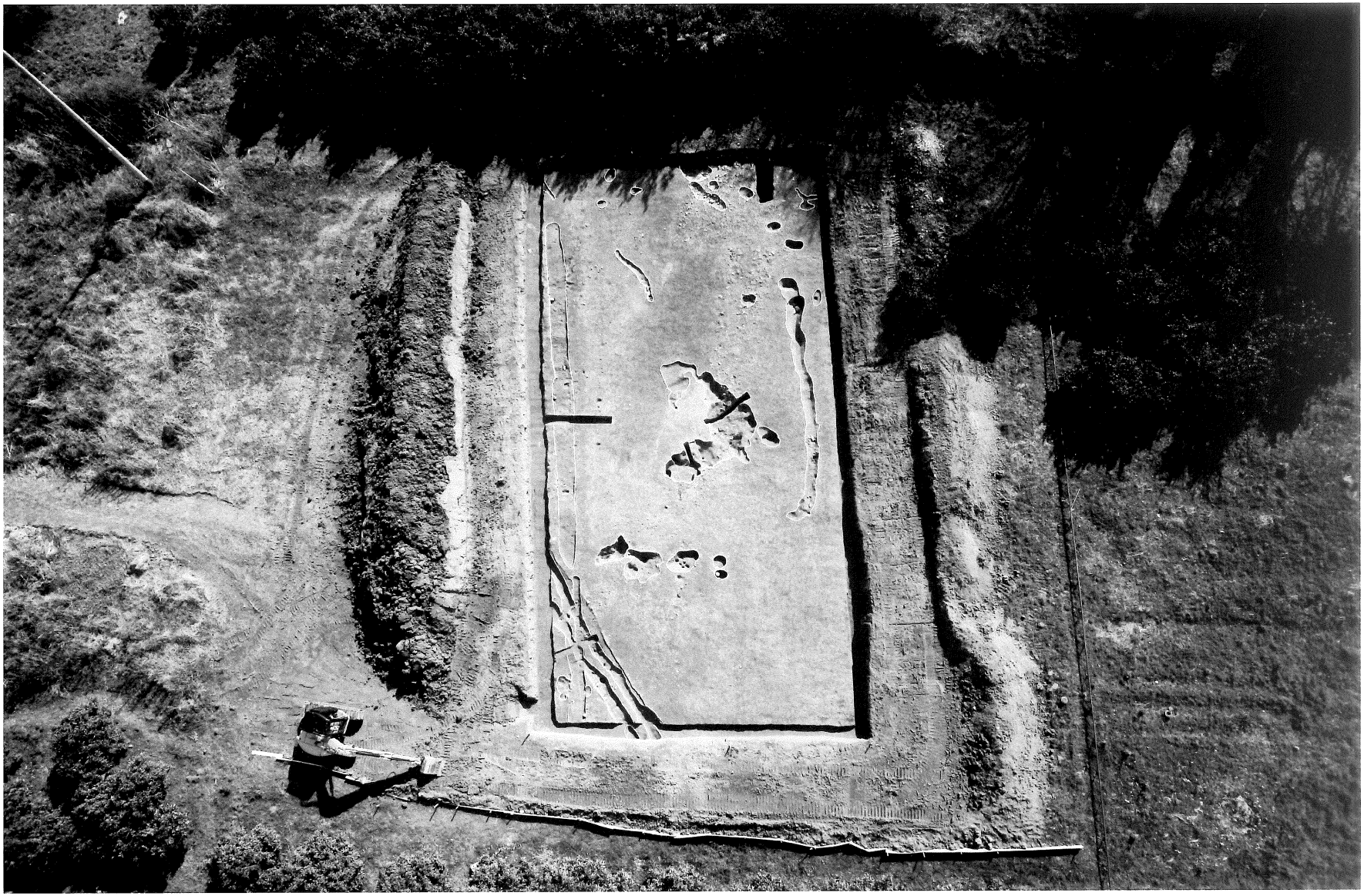
第 3 次調査 SP24-227 完掘



第 3 次調査 SD24-2 内ピット遺物出土状況



第 3 次調査 SP24-5 完掘



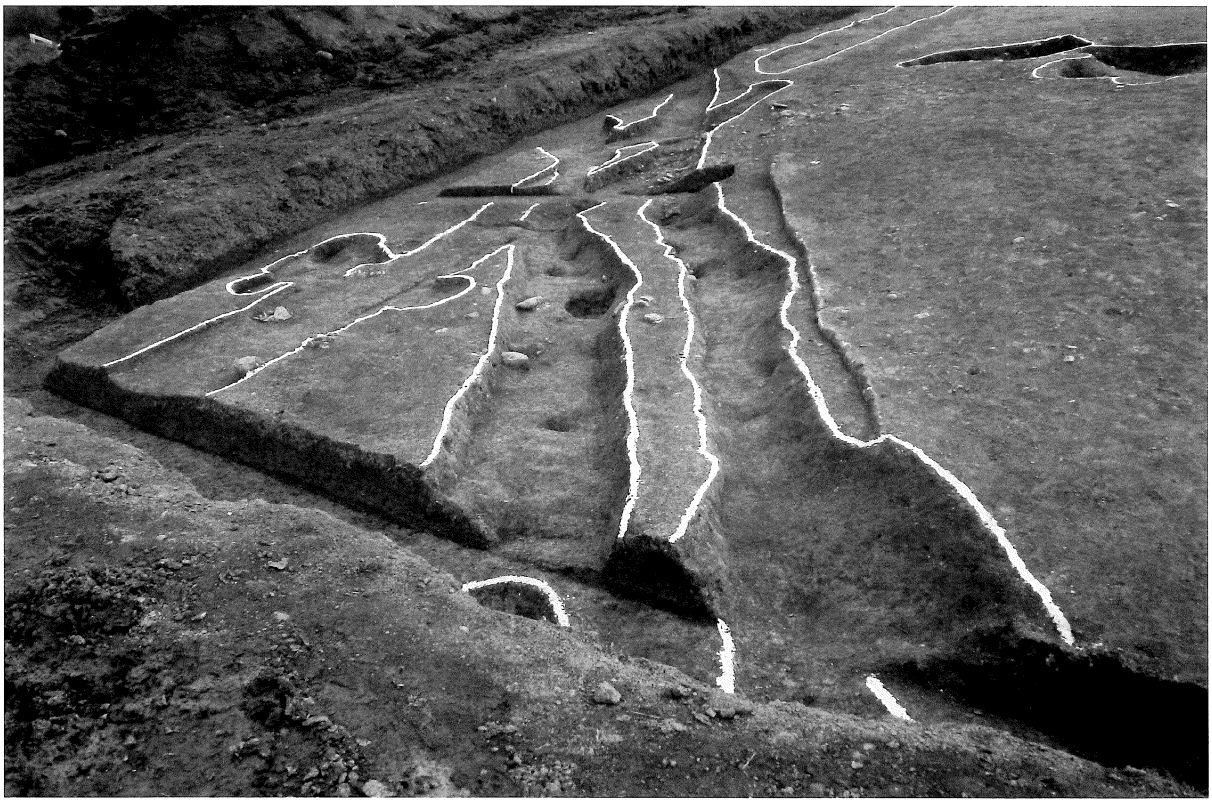
第４次調査全景（北から）

図版 14

第 4 次調査検出状況 (北西から)

第 4 次調査北壁土層 (南東から)

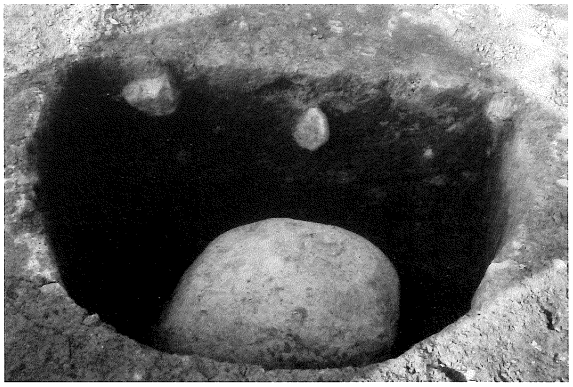
第 4 次調査 SX25-1 完掘 (北から)



第 4 次調査 SD25-16・17 完掘 (南東から)

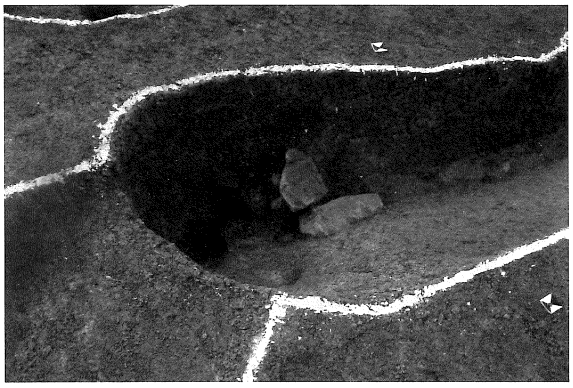
図版 16

第 4 次調査 SK25-14 断面

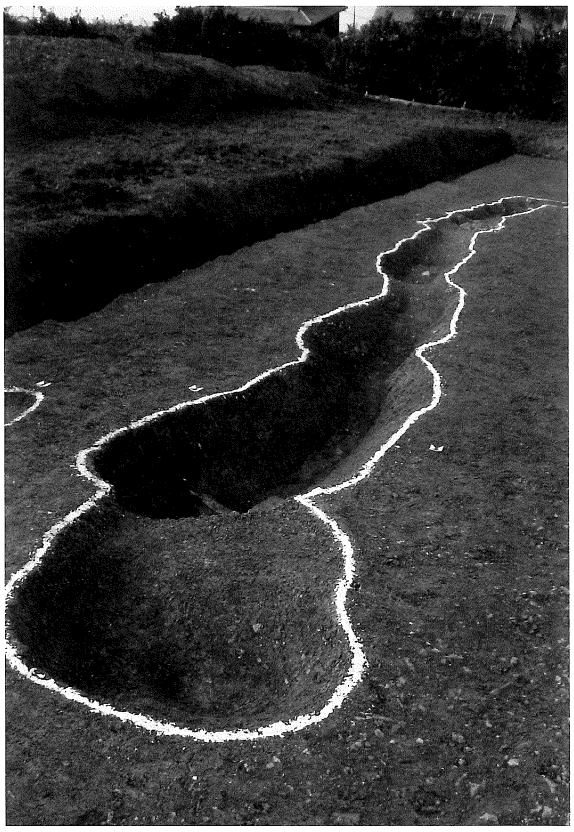


第 4 次調査 SK25-15 断面

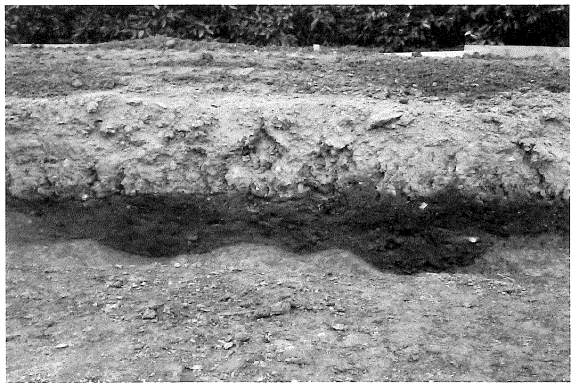
第 4 次調査 SK25-16 断面



第 4 次調査 SD25-2 完掘 (東から)

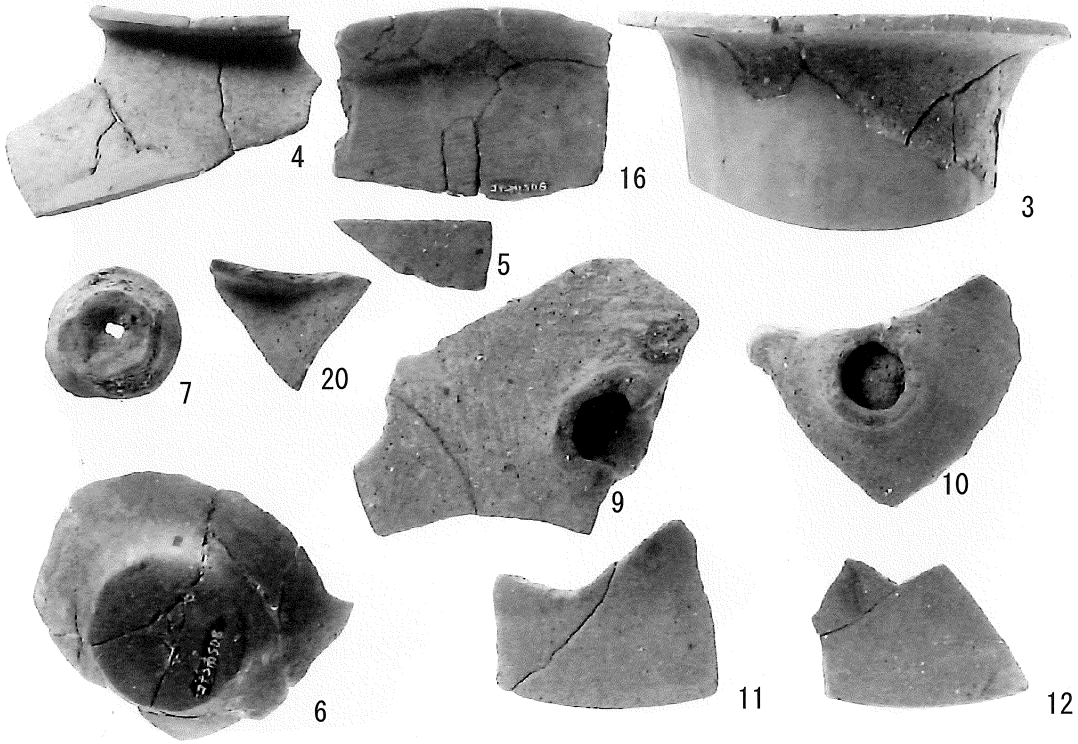


第 4 次調査 SD25-2 完掘 (南から)

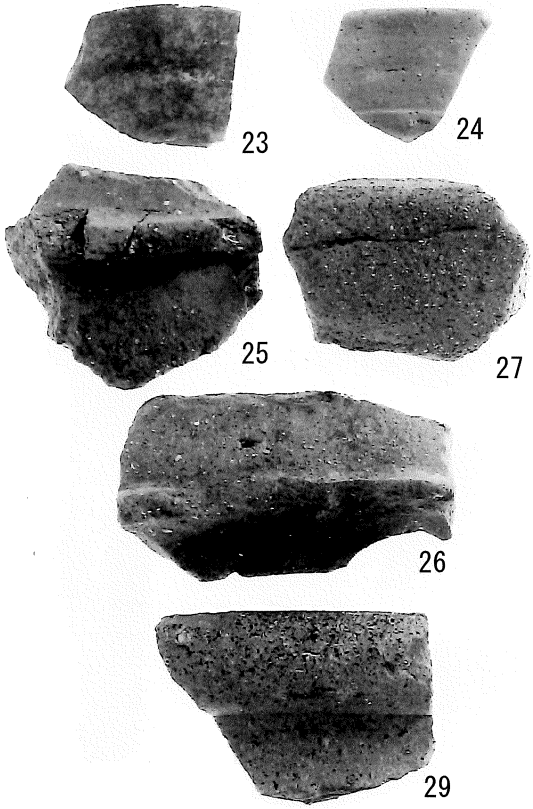


第 4 次調査 SD25-6・7 断面 (南から)

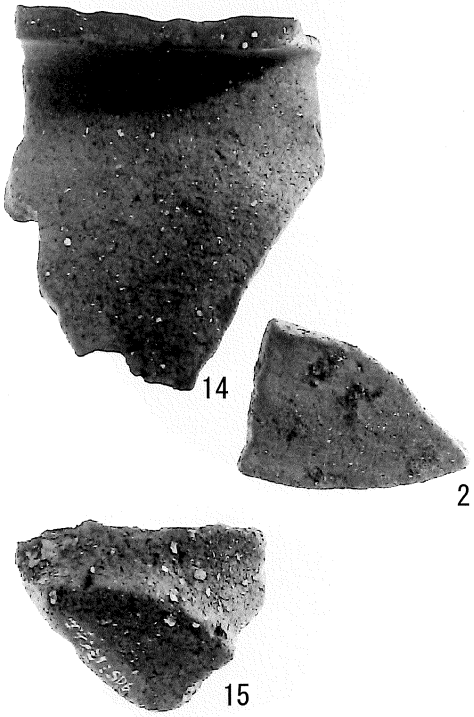
第 4 次調査 SX25-1 断面③ (東から)



SD20-7・8 出土遺物

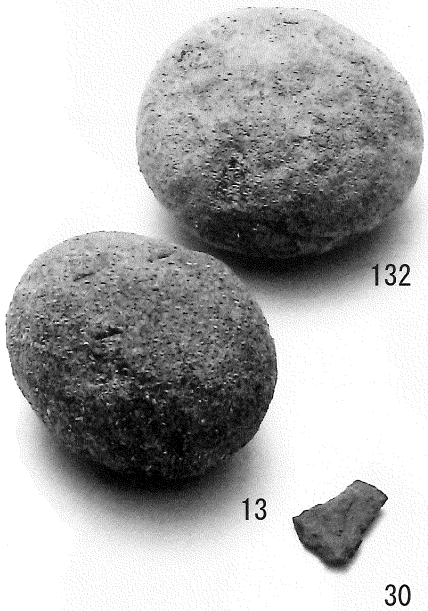


第 2 次調査区出土遺物

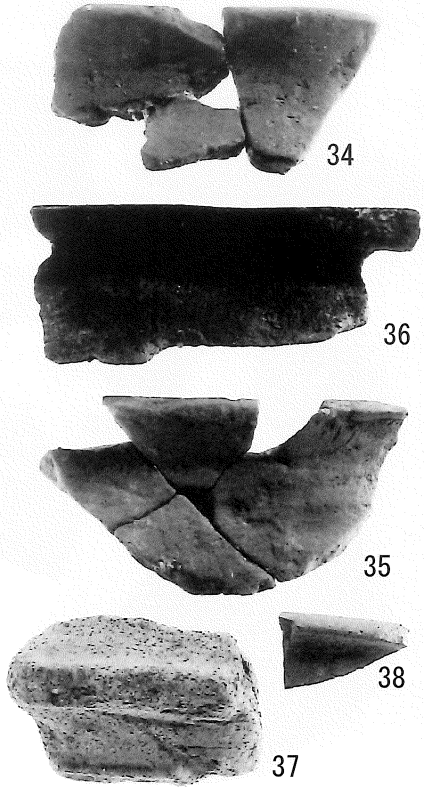


第 1 次調査区出土遺物①

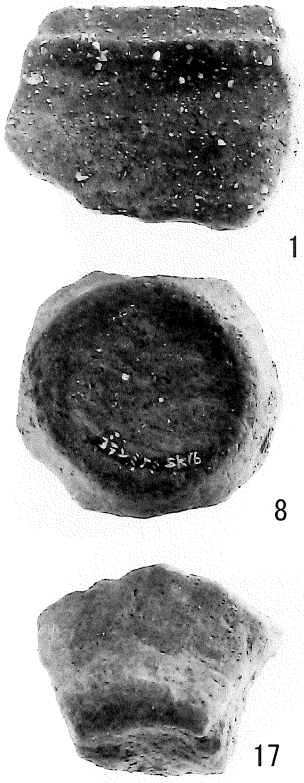
図版 18



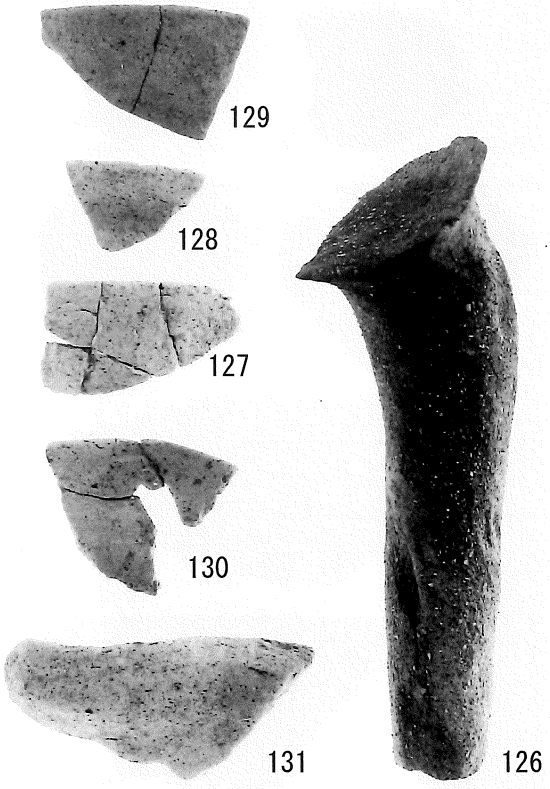
出土石器



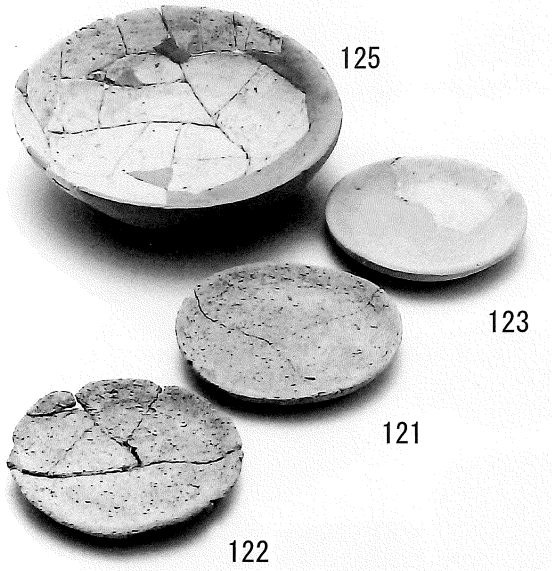
SD24-2 出土遺物①



第 1 次調査区出土遺物②

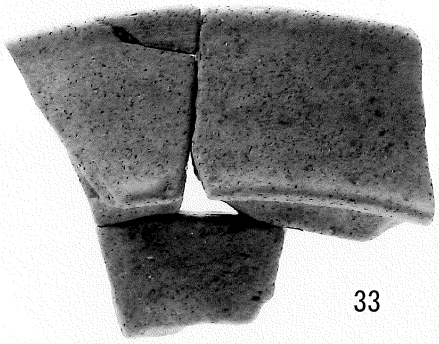


第 3 次調査区出土遺物

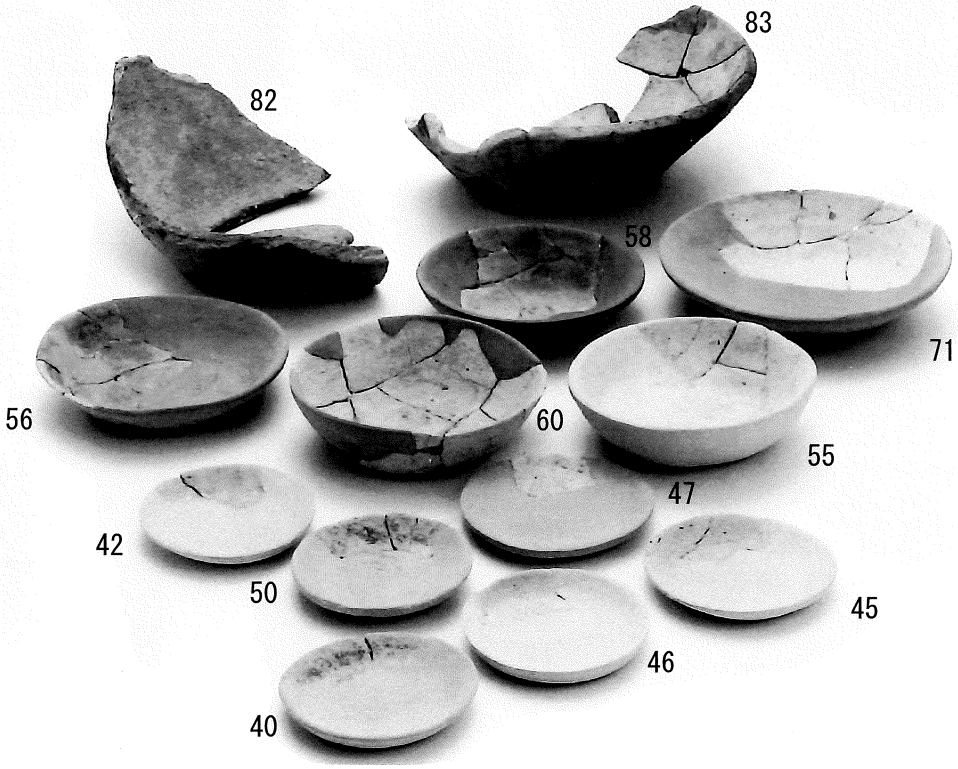


SP24-235・238 出土遺物

SD24-1 出土遺物①

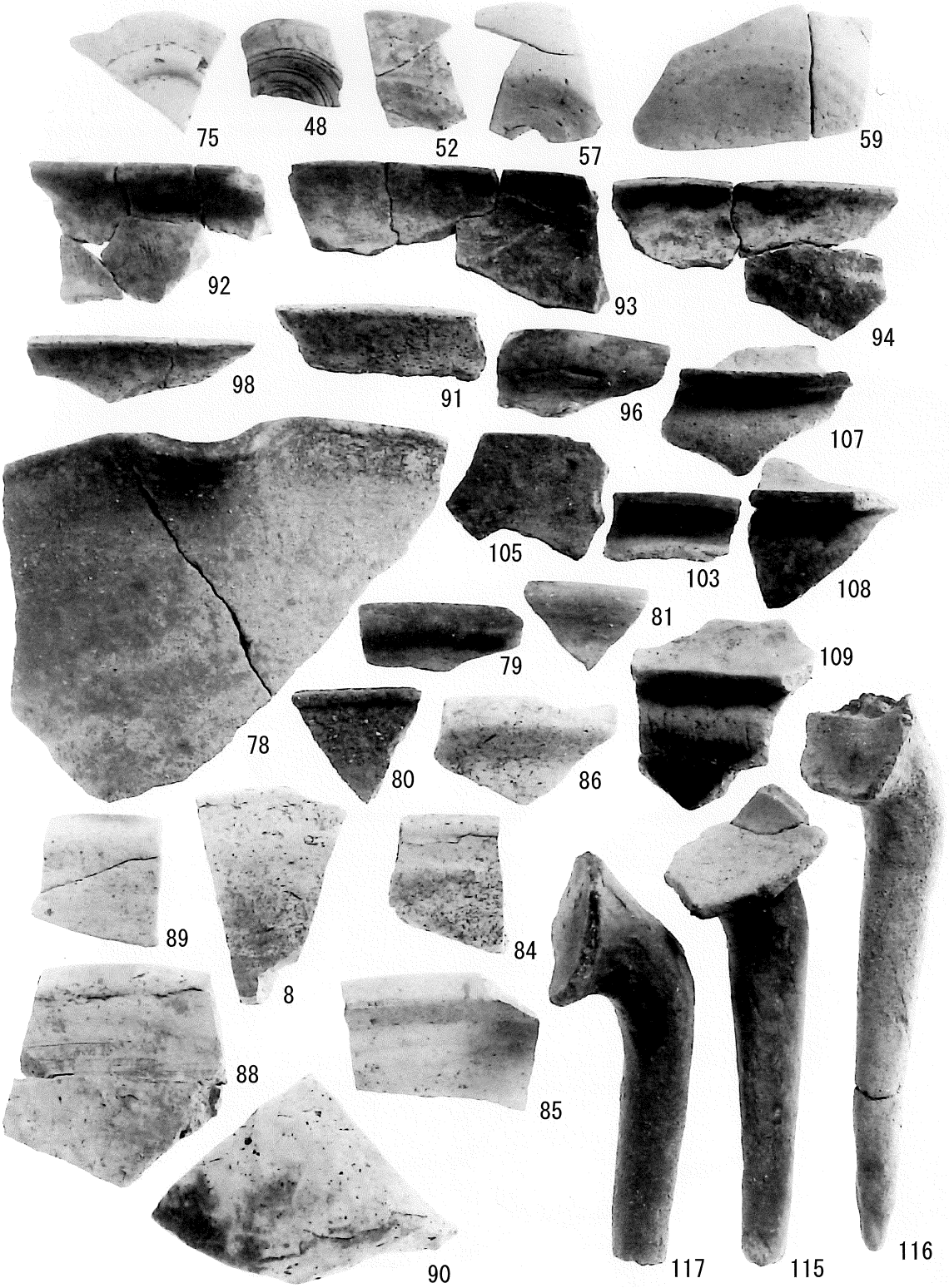


SD24-1 出土遺物②



SD24-2 出土遺物②

図版 20



SD24-2 出土遺物③

報告書抄録

ふりがな	ごてんちょすいちみなみいせき
書　　名	御殿貯水池南遺跡
副 書 名	都市計画道路木太鬼無線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 161 集
編著者名	小川　賢、新井場　萌
編集機関	高松市教育委員会
所 在 地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目 8 番 15 号　　TEL087－839－2660
発行年月日	西暦 2015 年 3 月 31 日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（しょざいち）	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	37201			
御殿貯水池南遺跡（ごてんちょすいちみなみいせき）	香川県（かがわけん） 高松市（たかまつし） 鶴市町（つるいちちょう）	北緯 34° 19′ 43″	東経 134° 1′ 7″	2008.10.2～11.29 2011.6.22～7.15 2013.1.28～3.15 2014.1.15～3.18	2980 ㎡ (1 次 1180 ㎡、2・3・4 次 600 ㎡)	道路整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御殿貯水池南遺跡	集落	弥生時代 中世以降	溝、土坑、ピット	弥生土器、石鏃、土師器、陶磁器、須恵器	

要　　約	石清尾山山魂の鞍部より派生する谷及び丘陵上で、弥生時代後期の水路網と中世のテラス状遺構を確認した。弥生時代の水路からは祭祀用とみられる土器や投弾の可能性がある砂岩が出土する等、周辺での遺構の所在が伺われるものとなった。

高松市埋蔵文化財調査報告第 161 集

都市計画道路木太鬼無線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

御殿貯水池南遺跡

平成 27年 3 月 31 日

編　集　高松市教育委員会
　　高松市番町一丁目8番 15 号
発　行　高松市教育委員会
印　刷　有限会社中央ファイリング